

アメリカ社会の形成

担当者：柴田 史子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

現代世界によい意味でも悪い意味でも大きな影響力を及ぼしているアメリカ合衆国の歴史を学んでいく。政治史や偉人の物語だけでなく、社会、経済、外交を視野に入れることで、多角的なアメリカ理解を目指す。

2.学びの意義と目標

様々な視点から書かれた資料を読み解き、分析する洞察力をつけることによって、グローバル世界で自分なりの考えを持って活躍できる力をつける。

準備学習(予習)

テキストを読んでくること

準備学習(復習)

講義ノートの整理をすること
授業中に紹介された書籍、映像その他の資料に当たること

授業計画

- はじめに
- 大航海時代
- 「新世界」の国アメリカ
- 「アメリカ」の誕生
- イギリス領北アメリカの始まり
- イギリス領北アメリカの発展
- アメリカ革命
- 連邦共和国の形成
- 西部の発展
- 北部と南部
- 南北戦争
- 西部開発と先住民の運命
- 移民の国アメリカ（１）
- 移民の国アメリカ（２）
- 産業社会の形成
- 都市化と都市文化の開花
- 中間テスト
- 資本主義社会の改革と福祉国家の形成
- アメリカ外交の伝統
- 戦争と平和 第一次世界大戦
- 黄金の20年代
- 1930年代
- 第二次世界大戦
- 第二次世界大戦後の世界
- 冷戦時代のアメリカ
- 1960年代
- 差別廃止の成果と限界
- あらたな保守主義の台頭
- グローバル化の進展と覇権国アメリカの盛衰
- まとめ

教科書

有賀貞 『ヒストリカルガイドUSAアメリカ』(山川出版社)

評価方法

(1)平常点:30%:出席状況と提出物で判断する (2)中間テスト:30%
(3)期末テスト:40%

イギリスと英語圏文化	
担当者：氏家 理恵	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容 保守的な階級社会からなぜビートルズが出現したのか、礼儀正しいジェントルマンの国のはずなのになぜサッカーのフーリガンとして怖れられる人々がいるのか - さまざまなイギリスとその文化圏の謎をその歴史や地理や文化を通して考え、また、イギリスが世界に与えた影響とその結果を現代の様々な事象から見ていく授業である。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション:エリザベス2世はイギリスだけの国王？ 2. イギリスという国:「ユニオンジャック」の意味は？ 3. 歴史 1:英語は国際語になった理由は？ 4. 歴史 2:ワトソン博士はなぜアフガニスタンに行っていた？ 5. 地理 1:中東・極東ってどこのこと？ 6. 宗教:離婚するために王がしたことは？ 7. 社会階層と教育:0 0 7 はエリートスパイ？ 8. 国民性:ジェントルマンってどういう人？ 9. 建築:ゴジラはイギリスで何を壊す？ 10. 美術:イギリス人は肖像画がお好き？ 11. 工芸・デザイン:ブルックボンドのデザインは？ 12. 音楽:ブリティッシュ・ロック以前に何があった？ 13. 映画:『ハリー・ポッター』はイギリス映画？ 14. 思想:イギリス的思考方ってあるの？ 15. 科学・技術:イギリスにリンゴがなかったら？ 16. 地理 2:ピーター・ラビットの故郷は？ 17. 文学 1:シェイクスピアは何人いた？ 18. 文学 2:不思議の国ってどこの国？ 19. 住宅:英語で「1階」は1階ではない？ 20. 料理:「イギリス料理」を答えられますか？ 21. 料理と酒:禁酒のためにココアを飲もう？ 22. ファッション:バーバリーチェックの原点は？ 23. 祭り:人形を燃やすお祭りってあり？ 24. 祭りと食べ物:ホットケーキ競争とは？ 25. スポーツ:サッカーとラグビーの関係は？ 26. 交通:タクシーの運転手になるためには？ 27. 交通:チューブ・ダブルデッカーとは？ 28. 通信:イギリスのポストにある文字は？ 29. 通信:世界初の切手の値段は？ 30. まとめ - 「イギリス文化」とは？
<div>準備学習(予習)</div> <p>大きなテーマごとに予習課題を課す。また、事前に配布したプリントについては授業前に読んでおくこと。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>テーマごとに小テストを行う。また、中間・期末レポートはそれぞれ、授業の前半・後半部分の復習課題なので、テーマごとにポイントをまとめておくこと。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)平常点:30% (2)課題:30% (3)中間レポート:20% (4)期末レポート:20%</p>

イスラム文化と近代社会	
担当者：赤坂 恒明	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位	
講義概要 1.内容 「ヨーロッパにおけるイスラム文化」を主題として、異文化接触に関する諸問題について考察します。まず、イスラム教についての基礎知識を確認した上で、歴史的に見たキリスト教文化とイスラム文化との接触によって生じた相互関係について、近代ヨーロッパ文明に少なからぬ影響を与えた中世の地中海地域、および、現在に至るまでイスラムの影響が強い旧ソ連の諸地域、バルカン半島に焦点をあてて個別に論じます。次に、現代の西欧におけるイスラム諸問題を概観します。そして、最後に、近現代ヨーロッパにおける対イスラム認識として「オリエンタリズム」を取り上げる予定です。 なお、本講義では、時事的な問題をも積極的に取り上げる予定です。で、授業計画は国際状況の変化等により若干変更されることもあります。 この授業のカリキュラム上の位置づけは、他宗教・異文化に対する理解を深める、やや専門的な側面もある講義です。教養を高めるために宗教・民族文化・歴史等を学ぼうとする学生にも適しています。	授業計画 1. 序 2. イスラム教についての基礎知識 3. イスラム文化が中世ヨーロッパ文化に与えた影響についての概観 4. シチリア王国(1) ルッジェーロII世とイドリースー 5. シチリア王国(2) フリードリヒII世 6. ロシアにおけるイスラム(1) ヴォルガ=ウラル地方 7. ロシアにおけるイスラム(2) 北コーカサス 8. 南コーカサスにおけるイスラム (1) アゼルバイジャン 9. 南コーカサスにおけるイスラム (2) アルメニア問題 10. バルカン半島におけるイスラム(1) 小説「ドリナの橋」をめぐって 11. バルカン半島におけるイスラム(2) 旧ユーゴスラヴィアの「ムスリム人」 12. 現代西欧におけるイスラム諸問題(1) 労働者移民の移住 13. 現代西欧におけるイスラム諸問題(2) 移住者の定着と社会問題 14. 「オリエンタリズム」 15. まとめ
準備学習(予習) 講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認してください。 授業に世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参してください。参考文献等は講義中に紹介します。	教科書 プリントを配布する
準備学習(復習) 復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認するようにしてください。	評価方法 (1)出席点:10% (2)平常点:20% (3)試験（小テストを含む）:70%

イスラム文化の形成

担当者：赤坂 恒明

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では、まず、イスラム教に関する基礎を、キリスト教・ユダヤ教と比較しつつ明らかにします。また、イスラム教徒の生活の規範となっている「イスラム法」についても具体的な事例を紹介します。次に、古代ギリシア・インド・中国・エジプトなどの諸文化の要素を摂取・融合して形成・発展したイスラム文化の諸相を取り上げ、イスラム文化が近代以前のヨーロッパ文化に与えた影響の世界史的意義について論じます。なお、本講義では、「忘れられたキリスト教」とも呼ばれる東方キリスト教諸派についても概観します。なぜなら、例えばネストリウス派キリスト教徒がイスラム文化の成立に重要な役割を果たしたことから明らかなように、東方キリスト教諸派はイスラムと密接な関係を持っているからです。

本授業のカリキュラム上の位置づけは、概説で、入門的な講義です。イスラム教に関する基礎知識を身につけ、他宗教・異文化に対する関心を養う基礎的な講義です。

2.学びの意義と目標

世界史上におけるイスラム文化の重要性についての認識を深めることができるようになること。

イスラム教に関する最低限の基礎を説明できるようになること。

準備学習(予習)

講義中に指示した内容を、資料・参考文献等によって確認してください。

授業に世界地図帳と世界史資料集（高校で用いたものでよい）を持参してください。参考文献等は講義中に紹介します。

準備学習(復習)

復習では、授業中に指示された地理や年代等を確認するようにしてください。

授業計画

1. 序

2. 六信(1) 神、天使、預言者

3. 六信(2) 啓典、来世、天命

4. 五行

5. イスラム法

6. ムハンマド（マホメット）とイスラム教の成立

7. ムハンマド死後のイスラム教の発展

8. スンナ派とシーア派

9. 東方キリスト教諸派の概観

10. イスラム以前の西アジアにおける学術

11. アッバース朝期におけるイスラム文明の発展

12. イスラム哲学と新プラトン主義ギリシア哲学

13. イスラム世界における実用的学問の展開

14. 中世ヨーロッパへの影響

15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:10% (2)平常点:20% (3) 試験（小テストを含む）:70%

異文化間コミュニケーション（経営）

担当者：Ｔ．アサモア

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

国の国際化は、社会、組織、企業、人の中でより多くの相互依存につながった。国際化を実行するに当たって、文化的環境の理解が不可欠である。文化的環境とは、政治的環境、経済的環境、国際金融の潮流、あるいは企業の政策や戦略の理解などのことである。このことを理解することが、この授業の重要な目的のひとつである。従来の異文化間コミュニケーション学習では、文化的変数とコミュニケーション機能の重要性を通り一遍に説くものであった。この授業は、文化やコミュニケーション機能の専門領域に深く踏み込むものではなく、包括的に異文化間コミュニケーションとビジネスの関係に焦点を当てている。この授業は、国際的な企業や組織に興味がある学生だけでなく、これから社会にでる多くの学生に対して有意義なものである。なぜなら、ますます相互依存が強まる世界では、国内ビジネスマンと国際ビジネスマンの区別がなくなっているからである。

2.学びの意義と目標

インターネットの普及により、距離を意識せずに外国に住む家族や友人とのコミュニケーションが24時間可能となった。実際に外国を訪れることも、一生に一度の出来事ではなく仕事や休暇のために頻繁に起こりうる出来事となりつつある。しかし、異文化との接触機会が増えることが、自動的に異文化理解を深めることに繋がると考えるのはあまりに短絡的である。異文化を理解し、それとうまく付き合うためには、異文化コミュニケーション、異文化コミュニケーション能力に関する知識とスキルの習得が不可欠である。授業では、異文化間コミュニケーションの基本的な考え方について、理論的、実践的に学習し、異文化間のスキルを高めることを目的とする。

準備学習(予習)

(1)経営についての基本的な知識。(2)コミュニケーション論の履修又は、関連する文献を読む。(3)企業経営についての授業の履修又は、関連する本を読む。

準備学習(復習)

授業後の課題の提出。

授業計画

- 異文化間コミュニケーションの背景
- 異文化コミュニケーションの範囲
- 異文化間コミュニケーションの課題
- ケース1
- 現代社会と異文化間コミュニケーション
- 異文化間コミュニケーションの主要理論
- コミュニケーションの仕組みと働き
- コミュニケーションスタイル
- ケース2
- 異文化間コミュニケーションとしての言語活動
- 異文化間コミュニケーションとしての非言語活動
- 文化価値の比較
- 文化と国際ビジネス
- ケース3
- 国境を越えて流れるヒト
- 国境を越えて流れるモノ
- 国境を越えて流れるカネ
- 国境を越えて流れる情報
- ケース4
- 経済的・文化的「従属」・「依存」
- 経営的・文化的「従属」・「依存」
- 政治的・文化的「従属」・「依存」
- ケース5
- 国際コミュニケーション戦略
- 国際広報
- 国際広告
- ケース6
- ニュースの国際流通
- インターネットの異文化間コミュニケーション
- ケース7

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業中の課題:40% (2)レポート:20% (3)期末試験:40%

異文化理解	
担当者：稲田 敦子	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
講義概要 1.内容 私たちにとってはあたりまえであり、とくに何の疑問もいだかなかったことがらが、他の文化圏の人びとにおいては、非常な驚きであるということがある。 このクラスでは、比較文化の手法を用いながら、文化の枠組みと人間の行動・深層心理との関係性を具体的事例をとりあげながら比較検討していくこととする。 学科の基礎科目であり、選択科目として1年次から4年次まで履修することができる。なお、教職資格を取得する際には、1年次からの必修科目である。	授業計画 1. 異文化理解へのウォーミング・アップ 2. 異文化交流の歴史的背景（１）－ロゼッタ・ストーン 3. 異文化交流の歴史的背景（２）－ヒエログリフ 4. 異文化交流の歴史的背景（３）－失われた文字 5. 異文化交流の歴史的背景（４）－シルク・ロード 6. ;あたりまえを問い直す事例研究（１） 7. あたりまえを問い直す事例研究（２） 8. ;あたりまえを問い直す事例研究（３） 9. 異文化への先入観 10. 先入観と深層心理（１） 11. 先入観と深層心理（２） 12. 深層心理と文化心理学 13. 異文化と価値観（１） 14. 異文化と価値観（２） 15. 異文化における個と集団（１） 16. 異文化における個と集団（２） 17. 異文化における「居場所」（１） 18. 異文化における「居場所」（２） 19. アイデンティティをめぐる諸問題（１） 20. アイデンティティをめぐる諸問題（２） 21. 異文化におけるコミュニケーション（１） 22. 異文化におけるコミュニケーション（２） 23. 異文化衝突の事例研究（１） 24. 異文化衝突の事例研究（２） 25. 異文化交流の事例研究（１） 26. 異文化交流の事例研究（２） 27. 異文化理解教育（１） 28. 異文化理解教育（２） 29. 異文化理解教育における今後の課題 30. まとめ
準備学習(予習) 事前に配布している「講義ノート」に提示された課題の内容を調べ、また事例研究の新聞記事を準備しておくこと。	教科書 授業の中で指示する
準備学習(復習) 各事例研究の実にレポートによるまとめを行う。	評価方法 (1)ブックレポート:20% (2)事例研究:20% (3)テーマ別レポート:30% (4)授業への参加度:30%

映画を通して学ぶ文化と英語

担当者：中村 香代子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

この授業では数本の映画を通して、アメリカ社会の抱える問題や文化について学びます。また各映画のテーマに関するインターネットでの調べ学習やディスカッションを通して理解を深め、プレゼンテーションやレポートで自分の考えをまとめて発信する練習をします。さらに映画シーンのリスニング練習やロール・プレイ、会話表現学習も行います。

2.学びの意義と目標

映画を通して異文化に対する理解を深め、楽しみながら英語表現能力を向上させることを目標としています。

準備学習(予習)

課題プリントの調べ学習やレポート・発表の準備をきちんとこなしておくこと。

準備学習(復習)

毎回授業で習う英語表現や単語をしっかりと復習して覚えること。またロールプレイテストに選んだシーンだけでなく、各シーンをよく音読してイントネーションや発音などを練習すること。

授業計画

- オリエンテーション
- 映画1 - (1) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ (調べ学習、ディスカッション、リスニング練習など)
- 映画1 - (2) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画1 - (3) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画1 - (4) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画1 - (5) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画1 - (6) Roll Play Test ・ Idiom Quiz、残りを鑑賞
- 映画2 - (1) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画2 - (2) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画2 - (3) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画2 - (4) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画2 - (5) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画2 - (6) Roll Play Test ・ Idiom Quiz、残りを鑑賞
- 映画3 - (1) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画3 - (2) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画3 - (3) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画3 - (4) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画3 - (5) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画3 - (6) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画3 - (7) Roll Play Test ・ Idiom Quiz、残りを鑑賞
- 映画4 - (1) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画4 - (2) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画4 - (3) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画4 - (4) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画4 - (5) 映画鑑賞とテーマに関するアクティビティ
- 映画4 - (6) Roll Play Test ・ Idiom Quiz、残りを鑑賞
- プレゼンテーション (1)
- プレゼンテーション (2)
- レポートの紹介と話し合い・英語5 - (1) 鑑賞
- 英語5 - (2) 鑑賞

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)参加・課題提出:20%:ディスカッションへの積極的参加を重視
(2)レポート:20% (3)プレゼンテーション:20%
(4)ロールプレイテスト:20% (5)英語表現テスト:20%

英語音声学

担当者：加曽利 実

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>テキストで、英語音声学の基礎理論（発音器官・母音・子音・音の結合・強勢・イントネーション等）を学習すると同時に、DVD教材を用いて英語らしい発音・リズムを身につける練習を行います。主としてアメリカ英語を対象とし、必要に応じてイギリス英語等の、他の種類の英語についても触れます。LL教室を使用します。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。</p>	<div>授業計画</div> <div>1.イントロダクション</div> <div>2.英語音声学入門</div> <div>3.英語音声学の基礎理論 (1)</div> <div>4.英語音声学の基礎理論 (2)</div> <div>5.英語音声学の基礎理論 (3)</div> <div>6.英語音声学の基礎理論 (4)</div> <div>7.英語音声学の基礎理論 (5)</div> <div>8.子音の発音・理論と練習 (1)</div> <div>9.子音の発音・理論と練習 (2)</div> <div>10.子音の発音・理論と練習 (3)</div> <div>11.子音の発音・理論と練習 (4)</div> <div>12.子音の発音・理論と練習 (5)</div> <div>13.母音の発音・理論と練習 (1)</div> <div>14.母音の発音・理論と練習 (2)</div> <div>15.母音の発音・理論と練習 (3)</div> <div>16.母音の発音・理論と練習 (4)</div> <div>17.母音の発音・理論と練習 (5)</div> <div>18.音の結合 (1)</div> <div>19.音の結合 (2)</div> <div>20.音の結合 (3)</div> <div>21.リダクション</div> <div>22.強勢</div> <div>23.強形発音と弱形発音 (1)</div> <div>24.強形発音と弱形発音 (2)</div> <div>25.強形発音と弱形発音 (3)</div> <div>26.合成名詞</div> <div>27.イントネーション (1)</div> <div>28.イントネーション (2)</div> <div>29.イントネーション (3)</div> <div>30.総合練習・まとめ</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>言語は、相手に通じて初めて意味を持ちます。英語音声学の基本理論を学び、実際に英米などのネイティブ・スピーカーに通じる発音の習得を目指します。つまり、ネイティブ・スピーカーの言う事を正しく理解できるようになり、また自らの意思をネイティブ・スピーカーに正しく伝えられるようになります。</p>	<div>教科書</div> <p>御園和夫、平坂文男 『コミュニケーション主体の英語音声学』 (和広出版)</p>
<div>準備学習(予習)</div> <p>毎回、必ず10頁程度、テキストを予習して、ノートに重要点を纏めておいて下さい。予習・復習ノートを作成、提出してもらい、評価の一部とします。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)発音テスト:10% (4)中間試験:30% (5)期末試験:30%</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>復習を励行して下さい。毎回、授業後、なるべく早いうちに、学習した項目をノートに纏めて復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。</p>	

英語学概論

担当者：加曽利 実

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>英語学に関する様々な分野、即ち音韻論・形態論・統語論・英語史等について概観します。統語論においては、伝統文法・アメリカ構造主義文法・生成変形文法を中心に講義します。本講義の一大特徴は、イギリスの著名な学者の朗読によって、古英語や中英語の貴重な発音を聞いたり、実際に発音してみることが出来ることです。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。</p>	<div>授業計画</div> <div>1.イントロダクション</div> <div>2.英語学の諸分野</div> <div>3.国際語としての英語</div> <div>4.英語の音構造1</div> <div>5.英語の音構造2</div> <div>6.英語の音構造3</div> <div>7.英語の語構造1</div> <div>8.英語の語構造2</div> <div>9.英語の語構造3</div> <div>10.英語の文構造:伝統文法1</div> <div>11.英語の文構造:伝統文法2</div> <div>12.英語の文構造:アメリカ構造主義1</div> <div>13.英語の文構造:アメリカ構造主義2</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>現代というグローバル化の時代にあって、英語に関する様々な知識が、必須となって来ています。英語を学習、研究、教育する者ならば、知っておかなければならない知識を網羅します。</p>	<div>14.英語の文構造:生成変形文法1</div> <div>15.英語の文構造:生成変形文法2</div> <div>16.英語の文構造:生成変形文法3</div> <div>17.英語の意味構造1</div> <div>18.英語の意味構造2</div> <div>19.インド・ヨーロッパ語族</div> <div>20.英語の歴史:古英語1</div> <div>21.英語の歴史:古英語2</div> <div>22.英語の歴史:古英語3</div> <div>23.英語の歴史:中英語1</div> <div>24.英語の歴史:中英語2</div> <div>25.英語の歴史:近代英語1</div> <div>26.英語の歴史:近代英語2</div> <div>27.アメリカ英語1</div> <div>28.アメリカ英語2</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>毎回、10頁程度予習しましょう。テキストを予習して、ノートに重要点を纏めておいて下さい。予習・復習ノートは、提出してもらい、評価の一部とします。</p>	<div>29.英語の未来像</div> <div>30.総合的まとめ</div> <div>教科書</div> <p>石黒 昭博『現代の英語学』(金星堂)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>毎回、受講後すぐに、学習した項目を復習しましょう。復習を何回か繰り返すと、記憶に定着します。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)中間試験:35% (4)期末試験:35%</p>

英語スピーチ発音法

担当者：加曽利 実

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>LL教室を使用します。ネイティブ・スピーカーに通じる英語の表現力と聴解力を身につけるためには、まず基本的な発声法と英語の発音ができていなければなりません。ネイティブ・スピーカーと自然なコミュニケーションを行えるようになるためには、米国大統領の演説や実用的な英会話教材を用いて、自然な英文を覚えて、スピーキング力とリスニング力をアップさせて行くことが効果的です。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。</p>	<div>授業計画</div> <div>1.英語学習について</div> <div>2.呼吸法・発声法</div> <div>3.音声学的見地からの解剖学1</div> <div>4.音声学的見地からの解剖学2</div> <div>5.音声学的見地からの解剖学3</div> <div>6.日米比較音声学1</div> <div>7.日米比較音声学2</div> <div>8.日米比較音声学3</div> <div>9.省略発音英語1</div> <div>10.省略発音英語2</div> <div>11.省略発音英語3</div> <div>12.リンカーン大統領の演説の分析と練習1</div> <div>13.リンカーン大統領の演説の分析と練習2</div> <div>14.リンカーン大統領の演説の分析と練習3</div> <div>15.リンカーン大統領の演説の分析と練習4</div> <div>16.ケネディ大統領の演説の分析と練習1</div> <div>17.ケネディ大統領の演説の分析と練習2</div> <div>18.ケネディ大統領の演説の分析と練習3</div> <div>19.ケネディ大統領の演説の分析と練習4</div> <div>20.キング牧師の演説の分析と練習1</div> <div>21.キング牧師の演説の分析と練習2</div> <div>22.キング牧師の演説の分析と練習3</div> <div>23.キング牧師の演説の分析と練習4</div> <div>24.実用英会話の分析と練習1</div> <div>25.実用英会話の分析と練習2</div> <div>26.実用英会話の分析と練習3</div> <div>27.実用英会話の分析と練習4</div> <div>28.実用英会話の分析と練習5</div> <div>29.英語発音のブラッシュアップ方法</div> <div>30.総合練習・まとめ</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>生きた英語表現を身につけるための理論と実践を行います。発音練習を行いながら、機能語を中心とする「演説に基づく表現力とリスニングのポイント」を学習し、実践力を養います。</p>	<div>教科書</div> <p>荒井 良雄 編、 尾崎 寔 注釈『英語名演説集』(英光社)</p>
<div>準備学習(予習)</div> <p>毎回、テキストを5頁程度予習し、配布プリントも熟読し、添付のCDを聞いて、練習してから、授業に望んで下さい。予習・復習ノートを提出してもらい、評価の一部とします。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)発音テスト:10% (4)中間試験:30% (5)期末試験:30%</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>復習を励行して下さい。毎回、授業後、早期に復習し、何回か繰り返すと、記憶が定着します。</p>	

英米児童文学

担当者：松本 祐子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

この授業では、必ずしも読者を子どもと想定していたわけではない昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の児童文学の抱える諸問題について触れながら、英米児童文学の歴史と概要を学んでいく。

2.学びの意義と目標

長い歴史を持つ英米児童文学は数々のベストセラーを産み出し、また、近年も多くの映像作品の原作となるなど、豊かな物語の宝庫である。一般には名前だけしか知られていないような名作の本当の姿を知ること、人間性についてのより深い知識と教養を身につけることが目標である。

準備学習(予習)

最初の授業で配布する読書リストにしたがって、授業で扱う作品を読んでおくこと。授業時に指示されたレポートはきちんと提出すること。

準備学習(復習)

授業時のノートを整理しておくこと。

授業計画

1. 授業説明
2. 伝承文芸:昔話 (1)
3. 伝承文芸:昔話 (2)
4. 伝承文芸:イギリスの妖精 (1)
5. 伝承文芸:イギリスの妖精 (2)
6. 伝承文芸:マザーグース (1)
7. 伝承文芸:マザーグース (2)
8. イギリス児童文学の始まりと児童文学の分類
9. 近代ファンタジー:ルイス・キャロル (1)
10. 近代ファンタジー:ルイス・キャロル (2)
11. 家庭小説:オルコット
12. 家庭小説:バーネット (1)
13. 家庭小説:バーネット (2)
14. 動物ファンタジー:ベアトリクス・ポター
15. 動物ファンタジー:マイケル・ボンド、A. A. ミルン
16. エヴリディ・マジックの世界:ネズビット
17. エヴリディ・マジックの世界:トラヴァース
18. エヴリディ・マジックの世界:メアリ・ノートン (1)
19. エヴリディ・マジックの世界:メアリ・ノートン (2)
20. ハイ・ファンタジー:C. S. ルイス
21. ハイ・ファンタジー:トールキン
22. ハイ・ファンタジー:ル・グウィン
23. ハイ・ファンタジー:フィリップ・ブルマン
24. 現代のリアリズム児童文学:カニグズバーグ
25. 人形 の物語:ゴッデン
26. 人形 の物語:シルヴィア・ウォー
27. 現代の魔法:ローリング
28. 現代の魔法:ダイアナ・ウィン・ジョーンズ
29. 魔法と現実の間:ルイス・サッカー
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)期末試験:40% (2)学期末レポート:30% (3)課題レポート:20% (4)出席:10%

英米文学概論

担当者：富田 光明

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容 英米文学概論とは、英米文学全体にわたって大要を述べたものであり、非常に広範囲に及ぶものである。常に文学とは何であるのかを意識して学ぶことが大切である。本講義の英米文学概論は、受講者諸君が今後英米文学作品に触れる折に、必要とされる知識及び英米人の価値観・人生観などを学び、文学をより身近かなものにするためである。</div>	<div>授業計画</div> <div>1. 1回 文学とは 2. 2～3回 英文学とは 3. 2～3回 英文学とは 4. 4～6回 英文学の常識 5. 4～6回 英文学の常識 6. 4～6回 英文学の常識 7. 7～11回 英文学の形態 8. 7～11回 英文学の形態 9. 7～11回 英文学の形態 10. 7～11回 英文学の形態 11. 7～11回 英文学の形態 12. 12～13回 作家・作品研究に関して 13. 12～13回 作家・作品研究に関して 14. 14～15回 米文学とは 15. 14～15回 米文学とは 16. 16～17回 新世界 17. 16～17回 新世界 18. 18～21回 ロマン主義の誕生 19. 18～21回 ロマン主義の誕生 20. 18～21回 ロマン主義の誕生 21. 18～21回 ロマン主義の誕生 22. 22～24回 鍍金時代 23. 22～24回 鍍金時代 24. 22～24回 鍍金時代 25. 25～26回 20世紀 英文学 26. 25～26回 20世紀 英文学 27. 25～26回 20世紀 米文学 28. 25～26回 20世紀 米文学 29. 卒業論文の意義とその準備 30. まとめ</div>
<div>準備学習(予習)</div> <div>次週学ぶ章を毎回予告しておくので、講義に出席する学生は、事前に必ず目を通し、自分なりのキーワードを探しておくこと。 このような作業をすることは、学生が問題意識を持って講義に参加し、興味をより増すことになる。</div>	<div>教科書</div> <div>須藤 信雄, 繁尾 久『教養としての英米文学』(南雲堂)</div>
<div>準備学習(復習)</div> <div>授業で学んだ章で、教師が強調した箇所をもう一度思い出しながら読み直すと、おのずとその章のキーワードが明確になってくる。 これらのキーワードの集合体はその授業の全体像となり、より理解力が増すこととなる。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1)授業参加意欲:40%:問題意識をもって授業に参加すること (2)レポート:25%:まとめる能力を調べる (3)試験:25%:理解し、復習したか否かを問う (4)出席:10%</div>

担当者：高橋 義文

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

【アメリカ・ヨーロッパ・日本・キリスト教文化学への誘い】
アメリカ、ヨーロッパ、日本、それぞれの文化の基礎をなす思想を、広い歴史的視点のなかで大局的に理解するための研究入門をめざす。7人の担当者が2回ずつ、それぞれの分野の基本的テーマについて、研究の視点、研究の意義、研究の方法等に触れながら講義する。（コーディネーター:高橋義文）。

2.学びの意義と目標

アメリカ、ヨーロッパ、日本の思想研究の一端に触れ、研究の意義や方法について学び、受講者自身の研究のための示唆を得る。

授業計画

1. アメリカのキリスト教と神学思想（１）【高橋義文】
2. アメリカのキリスト教と神学思想（２）【高橋義文】
3. 比較文化の視点から見たイギリスの両義性（１）【稲田敦子】
4. 比較文化の視点から見たイギリスの両義性（２）【稲田敦子】
5. 日本思想の成立とドイツ文献学・解釈学【清水正之】
6. 日本的シンクレティズムの克服 本居宣長の例【清水正之】
7. 「良心」概念の現代的意義（１）【片柳榮一】
8. 「良心」概念の現代的意義（２）【片柳榮一】
9. フランス・プロテスタントの歴史（１）【和田光司】
10. フランス・プロテスタントの歴史（２）【和田光司】
11. 日本の近代思想（１）【村松 晋】
12. 日本の近代思想（２）【村松 晋】
13. ヨーロッパの現代思想（１）【佐藤啓介】
14. ヨーロッパの現代思想（２）【佐藤啓介】
15. まとめと課題【高橋義文】

準備学習(予習)

担当教員の指示に従う。

教科書

授業の中で指示する

準備学習(復習)

担当教員の指示に従う。

評価方法

(1)出席率・レポート:100%
出席率とレポートにより総合的に判断する。

欧米文学			
担当者：塩谷 祐人			
開講期：春学期/秋学期		必修・選択：必修科目	授業回数：週2回
		単位数：4単位	
講義概要 1.内容 ヨーロッパやアメリカの文学を扱う講義ですが、テーマの中心はヨーロッパ、それも主にフランスの文学になります。 文学の歴史を追っていく文学史の授業ではありません。文学という言葉の芸術であり、エンタテインメントであり、世界を映し出す鏡でもある、この奥が深く不思議なジャンルに触れ、さまざまなテーマ、さまざまな作品を紹介・解説しながら文学について考えていきます。 また映画化・舞台化されている文学作品を見ながら、文学が視覚的になった時にどういったことが起きるのかを考えることで、文学とは何かを探っていきましょう。 さらに文学を読み解いていくための「文学理論」についても紹介、解説していきます。		授業計画 1. ガイダンス 2. 文学と現実社会の接点 3. フランスの19世紀の作家ユゴーとバルザック 4. 『レ・ミゼラブル』（小説／映画／舞台） 5. 文学と理想社会 6. 15世紀のイギリスの作家トマス・モア／18世紀のフランスの作家フーリエ 7. 文学と哲学の接点 8. 20世紀のフランスの作家カミュとサルトル 9. 幻想文学 10. 18世紀のドイツの作家ホフマン『砂男』とフロイトの精神分析 11. 19世紀のドイツ語で書く作家カフカ『変身』／19世紀のフランスの作家リラダン『未来のイヴ』 12. オッフェンバックのオペラ『ホフマン物語』／『変身』の映像化 13. 文学と言語 14. 20世紀のフランスの作家クノー／19世紀のフランスの詩人アポリネール 15. クノーの小説の映画化『地下鉄のザジ』 16. 20世紀半ばに起きた「新しい小説」 17. 20世紀フランスの作家ロブ＝グリエ『迷路の中で』と映画『去年マリエンバードで』 18. 物語とは何か 19. 20世紀のアルゼンチンの作家コルタサルの『石蹴り遊び』 20. 童話と文学 21. 17世紀のフランスの作家ペロー／19世紀のイギリスの作家ワイルドと『幸福の王子』 22. 19世紀のフランスの作家コクトー 23. 映画『ろばと王女』／『美女と野獣』 24. 外国人が書くフランス文学／国民文学とは何か 25. 20世紀のチェコの作家クンデラ、20世紀のハンガリーの作家クリストフ 26. マイナーな（？）作家たち 27. 20世紀のコロンビアの作家ガルシア・マルケス／20世紀のポーランドの作家ゴンブロヴィッチ 28. 20世紀のアルゼンチンの作家ボルヘス／20世紀のイタリアの作家カルビーノ 29. まとめ 30. 記述試験	
準備学習(予習) 授業計画および授業中に指示する次回扱うテーマや作家、作品について情報を集めたり、作品を実際に読んでみたりしておいてください。		教科書 プリントを配布する	
準備学習(復習) ノートを作って、授業で扱った作家、テーマ、理論、映像資料などをまとめ、そこに自分なりの感想や考え、疑問を書き込んでいくこと。		評価方法 (1)授業参加:40% (2)期末試験:60% 授業中に書いてもらいうりアクションペーパーなどで授業参加の度合いを測ります。それに学期末に行う記述試験（詳しくはガイダンス時に話します）の点数を加えて評価をつけます。	

担当者：三宅 美千代

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

本講義は、英語圏文学の初心者を対象とした入門的な授業です。各時代の英米文学の作品を取り上げ、英語圏文学の基礎的な知識、作品を生んだ歴史や時代背景についての予備知識を身につけます。さまざまな作家の作品を少しずつ読みながら文学史を概観していきます。

2.学びの意義と目標

英語圏文学についての基本的な知識を得ることを目指します。イギリスとアメリカの作品や文学的潮流についてはもちろんのこと、各国内のマイノリティの問題や旧植民地出身の書き手についても考察します。

準備学習(予習)

次週の授業内容にかんする問題を課し、提出してもらう。

準備学習(復習)

毎回プリントなどで、前週の授業内容を復習してくること。また、授業で紹介した作品は、1冊でも多く読むこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. イギリス小説の起源 : 18世紀時代背景 / 産業革命 / 階級制度
3. イギリス小説の起源 : 近代小説の発達 / デフォー / スウィフト、他
4. フランス革命とロマン派詩人 / P・B・シェリー / キーツ、他
5. 19世紀イギリス文学 : 科学と宗教 / メアリー・シェリー / スティーヴンソン
6. 19世紀イギリス文学 : 帝国主義 / 都市と貧困 / ディケンズ
7. 都市と文学---関連映画
8. 19世紀アメリカ文学 : 時代背景 / 先住民問題 / 奴隷制度
9. 19世紀アメリカ文学 : アメリカン・ルネサンス / ホーソン / メルヴィル、他
10. 19世紀の女性と文学 : 19世紀の女性の立場 / 職業と結婚 / マナーとエチケツト / オースティン / ブロンテ、他
11. 19世紀の女性と文学 : 女性運動の誕生 / ウルストンクラフト / ウルフ
12. 女性と文学---関連映画
13. 帝国主義の欲望と文学 : 帝国主義と冒険小説 / キップリング / コンラッド / スティーヴンソン
14. 帝国主義の欲望と文学 : 万国博覧会 / ジャポニズム / ラフカディオ・ハーン
15. 中間試験、Q&A
16. 1910年代 : 世界戦争とモダニズム芸術 / ジョイス / ロレンス / エリオット、他
17. 1910年代 : アイルランド独立運動 / アイルランド文芸復興
18. モダニズム期の前衛芸術---関連映画
19. 1920年代 : パリのアメリカ人作家 / スタイン / フィッツジェラルド / ヘミングウェイ
20. 1920年代 : ハーレム・ルネサンス / ヒューズ / ハーストン / マッケイ
21. 1930-40年代 : 大恐慌 / スタインベック / ドス・パソス / ファークナー
22. 1930-40年代 : 世界戦争、ディストピア小説 / ハクスリー / オーウェル
23. 1950年代 : 第二次大戦の影響、マッカーシズム / ゴールディング / ミラー
24. 1950年代 : 公民権運動と文学 / ボールドウィン / ライト
25. 公民権運動と文学---関連映画
26. 1960年代以降 : 植民地の独立 / ラミング / グギ・ワ・ジオンゴ / リース
27. 1960年代以降 : 移民出身作家 / ラシュディ / イシグロ / レッシング
28. 1960年代以降 : 政治の季節と文学 / ベトナム反戦と対抗文化
29. 試験前復習
30. 学期末試験、Q&A

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)中間試験:30%:授業内容についての問題を出題。
(2)学期末試験:40%:レポート形式の問題を出題。
(3)提出課題:30%:予習課題、および宿題。

欧米文化入門

担当者：和田 光司

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では、本格的に欧米文化学科専門科目を履修していくために必要とされる、欧米文化に関連する基礎知識の習得を目指します。また、将来社会で活躍するために、2年次において準備可能なことについて、各種説明やトライアルをおこないます。1年次に履修した「基礎ゼミ」の延長上にあり、欧米文化学科2年次必修科目であり、専門科目・専門ゼミへ進むための準備となる基礎科目です。

2.学びの意義と目標

目標は三つあります。
第一に、教科書を用いた学習により、専門科目を受講するのに十分な、欧米文化全般に関する基礎知識を習得すること。
第二に、各種資格のガイダンス・トライアルを通じて、自らのライフデザインを現時点において考えられるようになること。
第三に、1年次の基礎ゼミで学んだ「学びの基礎力」を復習し、その力をさらに伸ばすこと。

準備学習(予習)

小テストの範囲(1回につき1～2単位)について、事前に教材を用いて学習しておくこと。また、回によっては、配布された資料に目を通し、資格トライアルに備えること。

準備学習(復習)

各ガイダンス類で指定されたテキストに目を通したり、調べたりすることで、ガイダンス内でのレクチャーが自分のライフデザインとどうつながり、どのような意義があるかを考えること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 欧米文化基礎知識小テスト1 / 講演「欧米文化の諸相」
3. 2年生向けキャリアガイダンス(1)
4. 欧米文化基礎知識小テスト2 / 各種資格ガイダンス(1)
5. 資格検定トライアル
6. 欧米文化基礎知識小テスト3 / 各種資格ガイダンス(2)
7. 資格検定トライアル
8. 欧米文化基礎知識小テスト4 / 学生生活について(2)
9. 学生生活について(2)
10. 欧米文化基礎知識小テスト5 / 海外研修・留学ガイダンス
11. 2年生向けキャリアガイダンス(2)
12. 欧米文化基礎知識小テスト6 / 各種資格ガイダンス(3)
13. 資格検定トライアル
14. 欧米文化基礎知識小テスト7 / 資格検定トライアル
15. 海外旅行の仕方

教科書

授業の中で指示する
教科書『欧米文化の基礎知識』を配布する

評価方法

(1)小テスト:70%:全7回 (2)平常点:30%:授業内外の課題への取組

教えるための英文法

担当者：行森 まさみ

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>中学および高校の既習英文法を復習しながら、その指導法を学ぶ。学習者としての経験から、理解・習得が困難であった文法項目について考察し、いかなるアプローチが学習者にとって有効であるかを検討する。また、文法の基礎知識はコミュニケーションに不可欠であることを念頭におき、英語を実践的に使用する際に必要とされる文法について考える。</p>	<div>授業計画</div> <div>1.オリエンテーション</div> <div>2.Focus on Form、コミュニケーションのための文法</div> <div>3.名詞、冠詞、代名詞</div> <div>4.形容詞と副詞</div> <div>5.動詞と文型</div> <div>6.動詞と文型、ワークショップ（品詞）</div> <div>7.動詞と時制</div> <div>8.動詞と時制</div> <div>9.動詞と時制、完了形</div> <div>10.動詞と時制、完了形、ワークショップ（時制）</div> <div>11.助動詞</div> <div>12.態、ワークショップ（助動詞、態）</div> <div>13.不定詞</div> <div>14.不定詞と動名詞</div> <div>15.不定詞と動名詞、ワークショップ（不定詞と動名詞）</div> <div>16.分詞</div> <div>17.分詞、分詞構文、ワークショップ（分詞）</div> <div>18.比較</div> <div>19.関係詞</div> <div>20.関係詞</div> <div>21.関係詞、アクティビティ（関係詞）</div> <div>22.模擬授業について</div> <div>23.仮定法</div> <div>24.仮定法</div> <div>25.否定、ワークショップ（仮定法と否定）</div> <div>26.模擬授業準備</div> <div>27.模擬授業（１）</div> <div>28.模擬授業（２）</div> <div>29.模擬授業（３）</div> <div>30.まとめ</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>授業計画を参照し、扱われる項目について英文法の参考書で確認をしておくこと</p>	<div>教科書</div> <p>授業の中で指示する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>既習の文法項目についてまとめ、ミニテストへの準備、および模擬授業にいかに関用するかを検討すること</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)出席・授業参加:40% (2)ミニテスト・リアクションペーパー等:40% (3)模擬授業:20%</p>

音楽を通して学ぶ文化と英語

担当者： K . O . アンダスン

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

10のエピソードから成るThe History of Rock and Roll のDVDを教材とする。各エピソードで紹介される音楽を聴き、英語の歌詞の意味や表現、さらに歴史的背景や文化を学ぶ。DVDの内容に関する宿題を課し、またエピソードごとに小テストも行う。

2.学びの意義と目標

英語の歌詞の意味を多方面から分析し、理解力を養う。
The purpose of this course is to learn and understand the history behind rock music, the cultural attitudes behind the music (including negative attitudes such as racism), and to come to a better appreciation of not only rock, but also music of other genres and other countries and cultures.

準備学習(予習)

予習は必ずしてくること。授業時には必ず辞書を持って来ること。遅刻をせず、全授業に出席し、積極的に参加する。

準備学習(復習)

Students should conduct research outside of class to find out more about the kinds of music and musicians covered in class and to study how these kinds of music and musicians have affected both national and world culture.

授業計画

1. introduction to the class; episode 1: Rock and Roll Explodes
2. episode 1, continued
3. episode 1, continued
4. episode 2: Good Rockin' Tonight
5. episode 2, continued
6. episode 3: Britain Invades America, America Fights Back
7. episode 3, continued
8. episode 3, continued
9. episode 4: The Sounds of Soul
10. episode 4, continued
11. episode 4, continued
12. episode 5: Plugging In
13. episode 5, continued
14. episode 5, continued
15. episode 6: My Generation
16. episode 6, continued
17. episode 6, continued
18. episode 7: Guitar Heroes
19. episode 7, continued
20. episode 7, continued
21. episode 8: The 70s: Have a Nice Decade
22. episode 8, continued
23. episode 8, continued
24. episode 9: Punk
25. episode 9, continued
26. episode 9, continued
27. episode 10: Up from the Underground
28. episode 10, continued
29. episode 10, continued
30. review for the final exam

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)attendance :10% (2)homework:30% (3)quizzes:30% (4)final exam:30%

観光地理	
担当者：秋山 秀一	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>観光庁ができ、日本も国をあげて本格的に「観光立国」を目指すことになり、観光を学ぶことの重要性が以前にも増して高まってきました。この授業では、日本の各地、並びに、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの諸国における観光地理について学び、街歩きの楽しさも修得していきます。フィルムツーリズム（映画と観光）、観光写真についても、具体的な話をします。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 観光について 3. 観光の歴史 4. 観光の歴史 5. 観光データ 6. 観光データ 7. 観光立国ニッポン 8. 観光立国ニッポン 9. 旅番組について 10. 旅番組について 11. 旅番組の現場から 12. 旅番組の現場から 13. 旅行記を読む 14. 旅行記を読む 15. 日本の世界文化遺産 16. 日本の世界文化遺産 17. 海外の世界文化遺産 18. 海外の世界文化遺産 19. 海外の世界文化遺産 20. 海外の世界文化遺産 21. 映画と観光 22. 映画と観光 23. 映画と観光 24. 映画と観光 25. 観光写真 26. 観光写真 27. 観光と地理 28. 旅をつくる 29. 旅をつくる 30. まとめ
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解、異文化理解を深めることは大切であり、重要なことです。この授業では実際に国内及び海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料を活用します。それに、雑誌、テレビ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。出演した番組を事例に、テレビ、ラジオの旅番組の制作についての具体的な話もします。この授業を通して国際理解、異文化理解を深め、より理解度を高めることができるものと確信しています。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>授業内容に関する復習の小レポート、テキストの次の授業に関する項目を予習し、関連する情報を集めておくこと。</p>	<div>教科書</div> <p>秋山秀一 『おとなの街歩き』(新典社)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>配布プリント、テキストの中で授業中に解説したところを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)日頃の授業への貢献度:30% (2)出席状況:30% (3)小レポート、それにまとめとしてのレポート:40%</p>

基礎ゼミ A

担当者：氏家 理恵, 鹿瀬 颯枝, 畠山 宗明, 稲田 敦子

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。秋学期の基礎ゼミBと連続して受講することになります。基礎ゼミAでは、特に、読む力と考える力の習得のため、テキストの読解方法や、読解に必要な予備知識の習得、批判的な思考の方法、統計情報の読解や処理方法などを学びます。あわせて、図書館の使い方の実践的ガイダンスや、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャーも実施します。

2.学びの意義と目標

本科目をとおして、学びに必要な読解力と思考力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、大学で調査・研究をおこなうのに必要な、やや難易度の高い文章を読みこなせるようになることが目標です。

準備学習(予習)

小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。

準備学習(復習)

各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。

授業計画

1. ガイダンス
2. ノートを取る (1)
3. 小テスト 1 (学びの基礎用語) / ノートを取る (2)
4. 文章に読んだ足跡をつける
5. 小テスト 2 (学びの基礎用語) / 文章を段落ごとに要約する (1)
6. 文章を段落ごとに要約する (2)
7. 小テスト 3 (学びの基礎用語) / 文章全体の要旨を作成する (1)
8. 文章全体の要旨を作成する (2)
9. 小テスト 4 (学びの基礎用語) / 図書館を使う
10. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 1
11. 小テスト 5 (学びの基礎用語) / 新聞の読み比べ
12. 全体ガイダンス (学びを社会に生かす) 2
13. 小テスト 6 (論理トレーニング) / グラフ・画像を読む (1)
14. グラフ・画像を読む (2)
15. 小テスト 7 (論理トレーニング) / 総合演習

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)小テスト:30%:全7回の合計
(2)平常点:70%:参加態度、課題への取組など

基礎ゼミ B	
担当者：柴田 史子, 佐藤 啓介, 畠山 宗明	
開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。春学期の基礎ゼミAとあわせて受講することになります。基礎ゼミBでは、特に、調べる力と書く力の習得のため、図書館の使い方や、情報の調べ方、レポートの作成法などを学びます。あわせて、大学での学びを将来の自分の生活にいかすためのレクチャー・アクティビティーも実施します。</p> <div>2.学びの意義と目標</div> <p>本科目をとおして、学びに必要な調査力や書く力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになることが目標です。最終的には、他の科目でも応用できるような、大学生としてふさわしいレポートを書けるようになることを目指します。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 短い文章を書く 小テスト1（社会人の基礎用語）／論理的なつながりを表現する 全体ガイダンス（学びを社会に生かす）2 小テスト2（社会人の基礎用語）／段落と論理の関係を学ぶ 段落から章立てを構成する（1） 小テスト3（社会人の基礎用語）／段落から章立てを構成する レポートのための図書館ガイダンス 小テスト4（社会人の基礎用語）／感想文や作文とレポートの違い 課題を設定する 小テスト5（社会人の基礎用語）／資料の調べ方 全体ガイダンス（学びを社会に生かす）2 小テスト6（社会人の基礎用語）／総合演習（レポートの中間評価） 総合演習（レポートの準備） 小テスト7（社会人の基礎用語）／総合演習（レポートの準備）
<div>準備学習(予習)</div> <p>小テストの回は、授業内で配布する用語集や教科書をもとに、予習をしてください。また、各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた次回内容の予習をしてください。</p>	<div>教科書</div> <p>授業の中で指示する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>各講義は内容が連続しているので、教科書にもとづいた前回内容の復習をしてください。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)小テスト:20%:全7回の合計 (2)期末レポート:40% (3)平常点:40%:授業への参加態度、課題の提出状況など</p>

キリスト教文化論 A	
担当者： E . D . オズバーン	
開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>1．内容： この講義は、キリスト教文化論Bと連結した講座で、キリスト教が、世界の様々な領域において貢献してきた歴史上の事実 zu 焦点を当て考えていきます。第一の重点は、キリスト教の世界観が政治体制と市民の自由・権利解放にどのように影響を及ぼしたかに着目し、次に一般的文化、又、大衆文化の分野に目を移し、そして、後半は特にアメリカ合衆国における影響を概観していきます。</p> <p>2．カリキュラムの位置づけ： キリスト教文化論講義は、欧米文化学科の必修科目で、聖学院大学の基礎講義の一つです。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教的世界観の梗概 2. キリスト教と政府 I:自由と民主主義 3. キリスト教と 政府 II:奴隷制度廃止 4. キリスト教と 政府 III:アメリカ合衆国における市民権運動 5. 芸術におけるキリスト教のインパクト（強い影響） 6. 建築におけるキリスト教のインパクト 7. 音楽におけるキリスト教のインパクト 8. 文学におけるキリスト教のインパクト 9. 映画におけるキリスト教のインパクト I 10. 映画におけるキリスト教のインパクト II 11. キリスト教の祭日、言葉、記号 12. キリスト教と大衆文化 (ポップカルチャー) I 13. キリスト教と大衆文化 II 14. キリスト教と大衆文化 III 15. まとめ
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>第一の目的は、キリスト教があらゆる分野で成してきた著しい貢献が、今日受講者個人個人の気づかなかった領域に至っても大いに関係していることを認識することができるように導くものです。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>Students are expected to complete reading assignments and be familiar with key concepts and terminology therein in preparation for lectures.</p>	
<div>準備学習(復習)</div> <p>Following each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.</p>	<div>教科書</div> <p>授業の中で指示する</p>
	<div>評価方法</div> <p>(1)授業出席:30% (2)読書レポート:10% (3)全学礼拝レポート及び教会出席レポート:30% (4)中間及び期末テスト:30%</p>

キリスト教文化論 B	
担当者： E . D . オズバーン	
開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>1 . 内容: この講義は、キリスト教概論A及びBに続く講座として設けられた科目で、キリスト教が世界にもたらした深遠なる影響の概観を学び探ります。“もし、イエス・キリストが降誕していなかったら？”という仮説質問から始まり、講義は、イエス・キリストの存在しなかった仮説を設け進み、そして、イエス・キリストとキリスト教徒が歴史を通して人類に建設的に影響を及ぼした多くの領域の輪郭を描いていきます。特に人間の尊厳と人権の領域についても学びます。</p> <p>2 . カリキュラム上の位置づけ: キリスト教文化論講義は、欧米文化学科の必修科目で、聖学院大学の基礎講義の一つです。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. イエス・キリストが降誕していなかったら？ 世の中はどう違っていただろうか？ 2. 世界観と宗教 I: 概観 3. 世界観と宗教 II: 二例-----無神論 対 キリスト教唯一神論 4. ダーウィンの進化論 対 キリスト教の天地創造論: 両者の論理的結果 5. 人間の生命の尊厳 6. キリスト教の女性に対する尊厳の向上 7. キリスト教道徳と倫理 I 8. キリスト教道徳と倫理 II 9. キリスト教道徳と倫理 III 10. 教育におけるキリスト教の強い影響: 普遍的教育と大学 11. キリスト教の慈愛と利他主義 I: 病院と医療施設 12. キリスト教の慈愛と利他主義 II: チャリティとボランティア・グループ 13. 現代科学とキリスト教の関係 14. 労働階級と経済におけるキリスト教の影響 15. キリスト教と人権
<div>2. 学びの意義と目標</div> <p>第一の（基本的）目的は、キリスト教の遍在する影響を包括的、又、個人的、両観点から探索し学びます。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>• Students are expected to complete reading assignments and be familiar with key concepts and terminology therein in preparation for lectures.</p>	
<div>準備学習(復習)</div> <p>• Following each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.</p>	<div>教科書</div> <p>授業の中で指示する</p>
	<div>評価方法</div> <p>(1) 授業出席: 30% (2) 読書レポート: 10% (3) 全学礼拝レポート、及び教会出席レポート: 30% (4) 中間及び期末テスト: 30%</p>

グローバル化時代の倫理

担当者：佐藤 啓介

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

倫理学とは、「行動の善悪」を考える分野です。ただし、「これが善い行為です。だからやりなさい」といった解答と命令を直接提供するわけではありません。日々の生活で、そして社会に出てからも、これはやっていいことなのだろうかといった悩みに直面したとき、妥当な行為の指針を自分で立て、それを他人に説明するための思考力を養うことが目標です。そのため本講義では、犯罪や裁判、お金もうけ、プライバシー、わいせつ物など、具体的に身近な問題や、グローバル時代に問題となる外国人との関係、異文化との接し方について、その行動の善悪を検討していきます。なお、講義では、数回のグループディスカッションも実施します。

2.学びの意義と目標

この講義は現代の倫理学を土台としていますが、学説・知識を覚えることではなく、社会人にふさわしい倫理観とそれに必要な思考力、グローバル時代を生きる力を身につけることが目標です。そのため、キャリア教育の一環としての意味も持っています。

準備学習(予習)

講義内で指定するテキストを読んできたり、現代社会のニュースに常日頃から目を配り、それについて指定した際に調べてくるようにしてください。

準備学習(復習)

前回の内容と連続した講義が多いため、必ず、前回講義の内容を復習してください。

授業計画

1. イントロダクション
2. 倫理学とはそもそも何か？
3. 倫理学の基礎概念（１）：功利主義
4. 倫理学の基礎概念（２）：義務論
5. 倫理学の基礎概念（３）：徳倫理
6. 法と倫理（１）：法律はどこまで守るべきか？
7. 法と倫理（２）：悪い人は厳しく罰するべきか？
8. 法と倫理（３）：責任とは何か？
9. 経済倫理（１）：お金もうけは悪いことか？
10. 経済倫理（２）：貧しい人を助ける義務はあるか？
11. 経済倫理（３）：ディスカッション:賭け事は悪いこと？
12. 職業倫理（１）：なぜ働かなければいけないの？
13. 職業倫理（２）：企業に従えないとき、どうすべき？
14. 問奏:文化ごとに価値観はそんなに違うの？
15. 異文化と倫理（１）：郷に入っては郷に従うべき？
16. 異文化と倫理（２）：英語が支配する世界は良い世界？
17. 異文化と倫理（３）：相手の国の歴史をどこまで知らないといけないの？
18. 異文化と倫理（４）：ディスカッション:外国人に文化を強制するべき？
19. 情報倫理（１）：その情報は誰のもの？
20. 情報倫理（２）：プライバシーは守られるべき？
21. 情報倫理（３）：ディスカッション:googleの功罪？
22. 性倫理（１）：女性専用車両は逆差別？
23. 性倫理（２）：どこまでが18歳未満お断り？
24. 家族と倫理:子どもは守られるべき？
25. 教育と倫理:子どもに何を教えるべき？
26. 命と倫理（１）：安楽死は認められるべき？
27. 命と倫理（２）：ペットを飼うことは許される？
28. 命と倫理（３）：人工中絶は認めてよいこと？
29. 総合ディスカッション:遠くの国の人を助ける義務はあるの？
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)中間レポート:30% (2)期末レポート:40%
(3)平常点:30%:グループディスカッションでの参加態度など

言語学概論

担当者：D . バーガー

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>この授業は言語学の入門講座である。言語の色々な様式（話しことば、手話、書き言葉）、人間の言語は動物のコミュニケーション手段とどのように異なるか等、われわれの言語知識の構成要素などを含む言語の本質を考察することから始まる。次に、人間の脳の言語機能についての簡単な紹介に続き、形態論、統語論、意味論、音声学、音韻論という言語研究の主な分野をそれぞれ順に概説する。最後に、言語がどのようにに変化するか、人間がどのように言語を習得するかについて紹介する。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ポントック語、チカソー語、トルコ語、アカン語等々）の事例を考察する。</p>	<div>授業計画</div> <div>1. 授業紹介、言語の本質</div> <div>2. 言語について何が分かっているか</div> <div>3. 言語知識:音体系の知識、意味の知識、言語知識の創造性、文と非文の知識</div> <div>4. 言語知識: 言語知識と言語運用、文法の知識、記述文法、規範文法、教授用文</div> <div>5. 言語普遍性:文法の発達、手話（言語生得の証拠）</div> <div>6. 動物の「言語」</div> <div>7. 人間の脳:脳の2つの側面、一側化の証拠、失語症の研究</div> <div>8. 人間の脳: 分離脳、一側化の他の証拠</div> <div>9. 言語の文法的側面 I:形態論 語の構造</div> <div>10. 形態論</div> <div>11. 形態論</div> <div>12. 言語の文法的側面 II: 統語論 言語の文型</div> <div>13. 統語論</div> <div>14. 統語論</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>この授業を通して言語学の理解を深めると同時に、普段、無意識的に用いている言語の性質を認識することを望んでいる。</p>	<div>15. 言語の文法的側面 III:意味論 ことばの意味</div> <div>16. 意味論</div> <div>17. 意味論</div> <div>18. 言語の文法的側面 IV:音声学 言語の音</div> <div>19. 音声学</div> <div>20. 音声学</div> <div>21. 音声学</div> <div>22. 言語の文法的側面 V: 音韻論 言語の音型</div> <div>23. 音韻論</div> <div>24. 音韻論</div> <div>25. 言語変化: 音変化の規則性、音韻変化</div> <div>26. 言語変化: 形態変化、統語変化</div> <div>27. 言語変化: 語彙変化、借用語</div> <div>28. 言語習得:幼児言語習得の段階</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>前回と当日の授業のキーワードの一覧を参照すること。</p>	<div>29. 言語習得: 言語習得の生物学的基盤、「生得説」</div> <div>30. 言語習得:「臨界期仮説」、第2言語習得理論</div> <div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>講義を聞きながら記入したワークシートを復習すること。小テストのためにキーワードとワークシートを復習すること。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)授業への出席:10% (2)授業での参加態度:10% (3)ワークシート:30% (4)小テスト:25% (5)期末試験:25%</p>

現代アメリカの社会と文化

担当者：柴田 史子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

アメリカの政治、経済、宗教、文化、社会問題などの多岐にわたる分野をカバーする。映像や写真等でアメリカ文化に触れると同時に、文化地図の作成を行ったり、グループワークを行ったりする。

2.学びの意義と目標

目に見える現象を生じさせている文化的、社会的要因を探る姿勢を身につけることによって、物事を冷静にとらえ判断する力をつけることを目指す。

準備学習(予習)

前回の課題をやってくること

準備学習(復習)

講義ノートをまとめること

授業計画

- はじめに
- Social Activism 21世紀の草の根運動
- 20世紀の草の根運動（１）
- 20世紀の草の根運動（２）
- 宗教集団と社会活動
- 人種・民族集団の結束
- 経済的利益集団の活動
- 市民運動と住民運動
- アメリカ社会の仕組み（１）
- アメリカ社会の仕組み（２）
- イロクォイ連邦の貢献
- bottom-up社会の源流
- アメリカの文化・芸術（１）
- アメリカの文化・芸術（２）
- 中間テスト
- 富と貧困 富に至る道
- 成功物語（１）
- 成功物語（２）
- 貧困の文化（１）
- 貧困の文化（２）
- 多様性と統一性 移民たちの体験（１）
- 移民たちの体験（１）
- ジェンダーと家族
- 文化の継承（１）
- 文化の継承（２）
- 現代アメリカの課題（１）
- 現代アメリカの課題（２）
- 現代アメリカの課題（３）
- 現代アメリカの課題（４）
- まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)平常点:30%:出席状況と授業内の提出物で判断する
(2)中間テスト:30% (3)期末テスト:40%

現代イタリアの社会と文化A

担当者：小田原 琳

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

イタリアはヨーロッパのなかでも個性の際立った国です。料理がおいしい、サッカーがさかん、芸術が豊か...これらの一般に知られているイタリアのイメージ以上に、イタリアの社会には多様な顔があります。「現代イタリアの社会と文化A」では、知られざるイタリアの姿を、歴史的な変化を通して学んでいきます。毎回レスポンスシートを提出して、学んだこと・考えたことを確認していきます。

2.学びの意義と目標

イタリア社会をじっくりと観察することは、自分自身の生きる社会を見つめ直す契機となります。イタリアの社会と文化について学び、皆さんの生きる日本社会とさまざまな角度から比較する視点と思考を養うことが目標です。

準備学習(予習)

授業ではさまざまなテーマを扱いますが、そのなかから自分の関心のあるテーマをひとつでも見つけ、関連する本を読んでください。

準備学習(復習)

各回の講義は前回の講義との関連性をもって位置づけられています。前回の講義内容を踏まえて、各回の講義にのぞんでください。

授業計画

- ガイダンス
- 「イタリア」のはじまり(1) イタリア誕生以前
- 「イタリア」のはじまり(2) イタリア誕生以後
- 地域の個性(1) 北部
- 地域の個性(2) 中部
- 地域の個性(3) 南部
- 地域の個性(4) 辺境地域
- 「イタリア料理」の創造(1) 地域と食べ物
- 「イタリア料理」の創造(2) 「イタリアン」の誕生
- 「イタリア料理」の創造(3) かわるイタリア料理
- 「イタリア料理」の創造(4) スローフード運動
- イタリア人とはだれか(1) 「イタリア人をつくらなければならない」
- イタリア人とはだれか(2) 海をわたるイタリア人
- イタリア人とはだれか(3) 外国につながるイタリア人
- まとめ イタリアのさまざまな顔

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:40%:受講態度およびレスポンスシート (2)期末レポート:60%

現代イタリアの社会と文化B

担当者：小田原 琳

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1. 内容

イタリアはヨーロッパのなかでも個性の際立った国です。料理がおいしい、サッカーがさかん、芸術が豊か...これらの一般に知られているイタリアのイメージ以上に、イタリアの社会には多様な顔があります。「現代イタリアの社会と文化B」では、日本と同様にグローバル化と向き合う現代イタリアの姿を学んでいきます。毎回レスポンスシートを提出して、学んだこと・考えたことを確認していきます。

2.学びの意義と目標

イタリアの社会をじっくりと観察することは、自分自身の生きる社会を見つめ直す契機となります。イタリアの社会と文化について学び、皆さんの生きる日本社会とさまざまな角度から比較する視点と思考を養うことが目標です。

準備学習(予習)

授業ではさまざまなテーマを扱いますが、そのなかから自分の関心のあ
るテーマをひとつでも見つけ、関連する本を読んでください。

準備学習(復習)

各回の講義は、前回の講義との関連性をもって位置づけられています。
前回の講義内容を踏まえて、各回の講義にのぞんでください。

授業計画

1. ガイダンス
2. イタリア経済の歴史と特徴(1) 第一のイタリア
3. イタリア経済の歴史と特徴(2) 第二のイタリア
4. イタリア経済の歴史と特徴(3) 第三のイタリア
5. イタリア経済の歴史と特徴(4) 企業と社会
6. イタリアのマイノリティ(1) 言語
7. イタリアのマイノリティ(2) 宗教
8. イタリアのマイノリティ(3) エスニック・グループ
9. イタリアの社会問題(1) 南部問題の歴史と現在
10. イタリアの社会問題(2) 家族・ジェンダー
11. イタリアの社会問題(3) マフィア
12. イタリアの社会問題(4) 環境問題
13. イタリアと戦争(1) 戦争と社会
14. イタリアと戦争(2) 戦争責任
15. まとめ 現代世界とイタリア

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:40%:受講態度およびレスポンスシート (2)期末レポート:60%

<div>講義概要</div> <div>1.内容 本講義は、四半世紀にわたり世界中の英語学習者にコミュニケーションに「使える」文法書として利用されてきたテキストを用い、専門用語に依存した文法解説を最小限にとどめ、直観による理解を推進するイラストや平易な例文を用いて、英文法を基礎から学ぶ。英文法が苦手な受講生にもわかりやすい内容である。</div>	<div>授業計画</div> <div>1. コミュニケーション英文法の学習法と復習テスト 2. 1. 現在進行形 3. 6. 過去進行形 4. 11. 現在完了進行形と単純現在完了形 5. 16. have と have got 6. 21. will 2 7. 26. could とcould have 8. 31. should 9. 36. If I do... If I did... 10. 41. 受動態2 11. 46. 間接法2 12. 51. 動詞 + -ing enjoy doing / stop doing 13. 56. 動詞 + -ing と動詞 + to + 動詞の原形3 14. 61. 後に-ingを伴うさまざまな表現 15. 66. -ing句 分詞構文 16. 71. theの用法 17. 76. theの付く固有名詞、付かない固有名詞2 18. 81. a friend of mine/ my own house / by myself 19. 86. all / all of, most / most of , no / none of など 20. 91. 関係詞節2： 目的格のwho / that / which 21. 96. -ing と-ed の語尾を持つ形容詞 22. 101. enough と too 23. 106. 語順1： 「動詞 + 目的語」と「場所 + 時」の語順 24. 111. although / though/ even though/ in spite of/ despite 25. 116. for, during と while 26. 121. in /at/ on (場所を表す前置詞)1 27. 126. 名詞 + 前置詞 28. 131. 動詞 + 前置詞3 29. 136. 句動詞3 30. 141. 句動詞8 と まとめ</div>
<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、指定ページの予習をすること。</div>	<div>教科書</div> <div>マーフィー, William R. Smalzer, Raymond Murphy, 渡辺 雅仁, 田島 祐規子『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』(Cambridge University Press)</div>
<div>準備学習(復習)</div> <div>授業の復習をし、次回の復習テストに備えること。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1)出席点:20% (2)復習テスト:20%:毎回行う。(3)中間テスト:30% (4)期末テスト:30% 復習テストは授業の冒頭に行うため、遅刻をしたものは受けることができない。</div>

現代ヨーロッパ事情

担当者：佐藤 啓介

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

戦後、東西に分かれて分断されてきたヨーロッパは、冷戦後、アメリカの一極集中に対抗するかたちで、「多様性における統合」をモットーに拡大・統一を進めつつあります。それによって、ヨーロッパがどう変わりつつあるのか、また、そこからどんな問題が新たに起こっているのか。そうした点を、民族・政治・経済・宗教・歴史・文化・芸術などから多面的に検討します。特に、講義前半では現代ヨーロッパの社会事情、後半では文化事情を扱います。講義内では、数回のグループワーク（調べ作業・ディスカッション）や、数回のまとめ作成などの課題も実施します。

2.学びの意義と目標

私たちの多くがヨーロッパとして思い描いているのは、実際には「冷戦以前の西ヨーロッパ」をさらに理想化したイメージです。そうではなく、グローバル化したヨーロッパの現代を、良い部分も悪い部分も含めて正しく理解することが目標です。それによって、国際人として求められる世界を多角的に見る目を養い、また同時に、同様の状況に置かれつつある日本の諸問題についても考える視野を広げることを目指します。

準備学習(予習)

講義内で指定するテキストを読んできたり、現代社会のニュースに常日頃から目を配り、それについて指定した際に調べてくるようにしてください。

準備学習(復習)

毎回の講義の内容は連続しているため、次回講義に備えて前回の講義内容をプリントで復習してください。

授業計画

1. イントロダクション
2. 予備講義（1）：ヨーロッパの近代史
3. 予備講義（2）：ヨーロッパの現代史
4. 予備講義（3）：続ヨーロッパの現代史
5. ヨーロッパの内外（1）：どこまでがヨーロッパの中？
6. ヨーロッパの内外（2）：どこからがヨーロッパの外？
7. EU論（1）：EU前史と成立
8. EU論（2）：拡大するEU
9. EU論（3）：【発展講義】EUによって変わったサッカー？
10. 移民とヨーロッパ（1）：多元主義という夢
11. 移民とヨーロッパ（2）：移民排斥運動
12. 移民とヨーロッパ（3）：東から見た移民問題
13. 移民とヨーロッパ（4）：【発展講義】フランス暴動とラップ音楽
14. 中間試験
15. 宗教とヨーロッパ（1）：ヨーロッパはキリスト教的か？
16. 宗教とヨーロッパ（2）：ヨーロッパとイスラーム
17. 宗教とヨーロッパ（3）：【発展講義】スカーフに揺れたフランス
18. 戦争とヨーロッパ（1）：ナチズムの記憶
19. 戦争とヨーロッパ（2）：戦争と人道的介入
20. 戦争とヨーロッパ（3）：9.11以後
21. 文化・芸術とヨーロッパ（1）：アートという名の西洋的制度？
22. 文化・芸術とヨーロッパ（2）：ヨーロッパ的デザインの過去と現在
23. 文化・芸術とヨーロッパ（3）：文化遺産は誰のもの？
24. 文化・芸術とヨーロッパ（4）：都市と自然、開発と保護
25. 文化・芸術とヨーロッパ（5）：「美しい」景観？
26. 文化・芸術とヨーロッパ（6）：食とヨーロッパ（1）
27. 文化・芸術とヨーロッパ（6）：食とヨーロッパ（2）
28. 文化・芸術とヨーロッパ（7）：【発展講義】日本マンガとヨーロッパ
29. 文化・芸術とヨーロッパ（8）：【発展講義】日本ファッションとヨーロッパ
30. まとめ：ヨーロッパというアイデンティティ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)中間試験:30% (2)期末レポート:30% (3)平常点:40%:講義数回のまとめ課題、グループワークへの参加態度など

国際社会の基礎知識	
担当者：和田 光司	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
講義概要 1.内容 この科目は、国際社会・現代社会で活躍する人間として、最低限身につけておくべき基礎知識を身につけるため、世界の地理、国際社会の仕組み、世界情勢、現代社会の特質、現代人の考え方や心理、価値観や、国際社会の土台となっている歴史や伝統について、総論的に学ぶ科目です。 ただし、それを単に座学で知識として学習するだけではなく、授業後半では、そうした知識を活用した、国際社会・現代社会を舞台とした一種の「ゲーム」を、授業内において個人・共同でデザインしてもらう予定です。そうしたゲームデザインを通して、能動的に国際社会についての知識を調べていってほしいと考えています。 なお、この科目は、欧米文化学科1年生については、専門科目（基礎学）の選択必修の科目になります。	授業計画 1. イントロダクション 2. 世界の地理（１） 3. 世界の地理（２） 4. 国際社会の伝統と仕組み（１） 5. 国際社会の伝統と仕組み（２） 6. 国際社会と現代社会の課題（１） 7. 国際社会と現代社会の課題（２） 8. これまでのまとめと期末課題へ向けて 9. 国際社会・現代社会の何を題材にするか？ 10. 国際社会・現代社会で問題を引き起こす要因は何か？ 11. 国際社会・現代社会の問題の解決に何が有効か？ 12. 問題構造をどのように数値化するか 13. 課題作成のためのグループ作業（１） 14. 課題作成のためのグループ作業（２） 15. まとめと課題の報告
2.学びの意義と目標 将来グローバル化した国際社会で活躍するのに最低限必要な基礎知識・教養や、国際社会を見渡す視野を身につけることが第一の目標です。 それと同時に、そうした知識を活用し、クリエイティブな課題（ゲームデザイン）を達成することで、社会人として不可欠な創造性・グループ活動力・能動的な調査力などを身につけることが、第二の目標です。	
準備学習(予習) 小テストに向けて、授業内で配布する教材をもとに予習をすること。	
準備学習(復習) 前回講義にて課された課題を毎回おこなうこと。	教科書 授業の中で指示する
	評価方法 (1)期末課題:40% (2)期末試験:20% (3)小テスト:20% (4)平常点:20%

国際ボランティア入門A

担当者：金沢 はるえ

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

なぜ、国際ボランティアが必要とされているのかを理解してもらうため、開発途上国がどんな問題を抱えているのか、私たちの生活とどのようなつながりがあるのかということを、ワークショップ形式で考えていきます。また、こうした問題に対して、私たちに何ができるかを考えていきます。

途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何ができるかを考えていきます。国際ボランティアとして関わりたいと思っている学生に、ゲストから話を聞き、ボランティアの多様なあり方を紹介します。また、現在自分の持つ資格や、将来就く職業が、国際ボランティアへの一歩を踏み出すきっかけとなるように、と考えています。そのため、途上国の抱える問題や問題解決の基本的な視点を学んでいきたいと思っています。

2.学びの意義と目標

途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何ができるかを考えていきます。国際ボランティアとして関わりたいと思っている学生に、ゲストから話を聞き、ボランティアの多様なあり方を紹介します。また、現在自分の持つ資格や、将来就く職業が、国際ボランティアへの一歩を踏み出すきっかけとなるように、と考えています。そのため、途上国の抱える問題や問題解決の基本的な視点を学んでいきたいと思っています。

準備学習(予習)

ワークショップ形式で議論をするので、国際協力に関心を持ち、自分の考えが言えるようにしておくこと

準備学習(復習)

授業で学んだことをプリントの指示に従い復習すること

授業計画

1. ボランティアとは・タイのバーン村を援助するか？
2. タイ・バーン村(1)アイコの援助について
3. タイ・バーン村(2)ロールプレイ 村の生活と問題
4. タイ・バーン村(3)プロジェクトを選ぶ
5. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
6. ボランティアの定義(1)自発性・非営利性
7. ボランティアの定義(2)先駆性・公共性
8. ボランティア支援の方法の推移
9. 自立のための支援に向けて
10. 参加型開発
11. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
12. 私たちの生活とフェアトレード(1)
13. 私たちの生活とフェアトレード(2)
14. 持続可能な開発とは
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

参考文献『ボランティア-もうひとつの情報社会』金子郁容、岩波新書

評価方法

(1)出席状況:30%:3分の2以上の出席と積極的参加度
(2)レポート2つ:60% (3)授業の課題:10%
出席については、毎回の出席が大前提となり、やむを得ない事情がある時も、3分の2以上出席しないと単位は認められません。レポートも授業に出席しないと書けないものがあるので注意すること

国際ボランティア入門B

担当者：金沢 はるえ

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

なぜ、国際協力が必要とされているのかを理解してもらうため、開発途上国が抱えている人権・環境・開発と、その根本にある貧困とはどういうことなのかを、ワークショップ形式で考えていきます。また、こうした問題に対し、国際ボランティアがどのような活動をし、どのように問題解決をしているのかを紹介していきます。

2.学びの意義と目標

開発途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何ができるかを考えていきたいと思います。そのために、国際協力に関わりたいと思っている学生に、異文化理解や貧困について、また自立のための支援のあり方を自分のことと関わらせて考えてほしいと思います。

準備学習(予習)

ワークショップ形式で議論をするので、国際協力に関心を持ち、自分の考えが言えるようにしておいてください。

準備学習(復習)

授業で学んだことをプリントの指示に従い復習すること

授業計画

1. 東日本大震災後の子どもたち
2. 世界の子どもたち～難民の子ども～
3. 世界の子どもたち～児童労働～
4. 途上国の生活～フォトランゲージ～
5. 誰を援助するか～途上国の男性・女性・子ども・政府～
6. 国際ボランティアの実際（ゲスト）
7. 豊かさ・貧しさの見方・考え方～ランキング・ウェビング～
8. 援助の見方・考え方～誰が援助するか～
9. 開発の見方・考え方～プロジェクトを選ぶ～
10. 国際ボランティアの実際（ゲスト）～目標・評価の設定～
11. 目標・評価の見方・考え方～PDCAサイクル～
12. 問題解決～パウロ・フレイレの支援～
13. 問題分析とシステム思考～貧困の悪循環～
14. 貧困をなくすための方法
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
参考文献『ボランティア もうひとつの情報社会』金子郁容、岩波新書

評価方法

(1)出席状況:30%:3分の2以上の出席と積極的参加度
(2)レポート2つ:60% (3)授業での課題:10%
出席については、毎回の出席が大前提となります。レポートも授業に出席しないと書けないものがあるので注意をすること

思想と現代世界 A	
担当者：佐藤 啓介	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
講義概要 1.内容 本講義では、主に三つの内容を扱います。 第一に、そもそも今、思想を学ぶ意義とは何なのか。そして、思想を学ぶうえで必要な、考えるという営みはどのようなものなのか。そのような導入的内容を、「批判的に考える力」（クリティカル・シンキング）を身につける練習を交えて行います。 第二に、現代世界において思想が果たしている役割を、「美学」という観点から、「美」や「感性」という領域において学んでいきます。ただし、その具体例は、ファッションやインターネット、街並み、キャラクターなど、私たちの身近にあるものを題材として取り上げます。私たちがそれらをなぜ好ましいと感じるのか。そこには、どんな価値観が働いているのか。そうした問題を取り上げます。 第三に、現代世界において思想が果たしている役割を、「倫理学」という観点から、「善」や「悪」という領域において学んでいきます。ここでも、取り上げる具体例は、恋愛や労働、ゲームなど、身近なものを題材とします。私たちは何を善いことだと感じているのか。そこには、どんな価値観が働いているのか。そうした問題を取り上げます。 なお、第二・第三の主題の考察にあたっては、グループに分かれての活動なども取り入れる予定です。	授業計画 1. イントロダクション 2. そもそも思想とは何か 3. 現代世界における思想の役割とは？ 4. 現代世界における思想の役割とは？ 5. 批判的に考えるレッスン 6. 批判的に考えるレッスン 7. 批判的に考えるレッスン 8. 批判的に考えるレッスン 9. 世界をつくる価値観とは？：美学への導入 10. 景観の美学：あの建物は「美しい」ですか？ 11. 景観の美学：この街は「汚い」ですか？ 12. ファッションの美学：この服は「ダサイ」ですか？ 13. ファッションの美学：コスプレって、どう思います？ 14. エステの美学：「美しい体」って、何だろう？ 15. キャラクターの美学：ゆるい・かわいい・気持ち悪い？ 16. キャラクターの美学：いまいち「萌え」ない境界線は？ 17. インターネットの美学：世界に響く鼻声の良さ？ 18. 創作の美学：クリエイティヴィティって、何ですか？ 19. 創作の美学：オリジナリティって、何ですか？ 20. 世界をつくる価値観とは？：倫理学への導入 21. 恋愛の倫理学：二股って、悪いこと？ 22. 恋愛の倫理学：好きと嫌いの境界線は？ 23. ゲームの倫理学：正義の勇者になりたいですか？ 24. ゲームの倫理学：悪の魔王になりたいですか？ 25. 労働の倫理学：何のために働くの？ 26. 労働の倫理学：何で働くのがイヤなんだろう？ 27. 遊びの倫理学：あなたは、ヒマな時間がほしいですか？ 28. 信じることの倫理学：そんなことを信じて大丈夫？ 29. 信じることの倫理学：他人の信じ方に口を出す？ 30. これまでのまとめ
準備学習(予習) 授業内で指示する資料や参考文献に目を通してきてください。	教科書 プリントを配布する
準備学習(復習) 毎回の講義の内容は連続しているため、次回講義に備えて前回の講義内容をプリントで復習してください。	評価方法 (1)中間レポート:30% (2)期末レポート:40% (3)平常点:30%:アクティビティーなど、授業内での課題への取組態度など

思想と現代世界 B	
担当者：勝西 良典	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
講義概要 1.内容 私たちは人間として生きているかぎり、私たちを取り巻く環境や世界について何らかの意味や問題点を見だし、それを享受したり解決しようとしたりするものです。私たちの目の前に展開されるさまざまな現象には、そのようになるに至った歴史や理由、構造があります。これらを理解することは、私たちがより豊かで充実した生を送るためには欠かすことができません。 この講義は哲学や倫理学の初心者を対象にしたもので、現代のグローバル化した世界を読み解く鍵となる西洋近現代思想を踏まえつつ、受講者と講師とで協力しながら、我が事として世の中の出来事をとらえ、分析し、乗り越えるべき課題を明確にしていきます。 進め方としては、現代に見られるさまざまな現象をテーマ別に検討し、その思想的背景を明らかにするという手法をとります。受講者の理解の助けとなるように映像などを用いる一方で、積極的参加を促すためにグループディスカッションも取り入れます。	授業計画 1. イントロダクション 2. 今の自分を取り巻く身近な世界について考えてみよう 3. 身近でない世界についてどうして考えなければならないのか？ 4. 世界がグローバル化してるってどういうこと？ 5. 「昔（近代以前）」とちがう「今（近代以降）」の始まりと特徴 6. どのような個人も尊いというのは本当か？ 7. 人間の中の自然（１）：人間はどこまで動物か？ 8. 人間の中の自然（２）：遺体を鳥に食わせることは遺体を霊安室に保管することよりも野蛮か？ 9. 人間の中の自然（３）：どうして人前で性的なふれあいは制限されるのだろうか？ 10. 人間的活動としての芸術（１）：美術館は敷居が高い？ 11. 人間的活動としての芸術（２）：「素朴な作品」って上から目線？ 12. 人間的活動としての芸術（３）：便器が芸術作品になるってどういうこと？ 13. 人間による自然支配の技術（１）：人間は火を使うのをやめることができるのか？ 14. 人間による自然支配の技術（２）：いのちにかかわる技術はどこまで許容されるのか？ 15. 人間による自然支配の技術（３）：技術は人間を奴隷にするのか？（１） 16. 人間による自然支配の技術（４）：技術は人間を奴隷にするのか？（２） 17. 社会における自由（１）：そもそも自由はありがたいのか？ 18. 社会における自由（２）：BL好きになろうって自分で選べるの？ 19. 社会における自由（３）：自分の娘が援交していても放っておけるのか？ 20. 社会的共生を下支えする法（１）：法律を守らないことは許されるのか？ 21. 社会的共生を下支えする法（２）：校則なんて自由を束縛するつまらないものなのか？ 22. 社会的共生を下支えする法（３）：治安を守るためのスパイ活動は許されるのか？ 23. 社会的関係が紡ぐ歴史（１）：他者に暴力を振るうことは許されるのか？ 24. 社会的関係が紡ぐ歴史（２）：従軍慰安婦問題の責任を現在の日本人が負う必要があるのか？ 25. 社会的関係が紡ぐ歴史（３）：経済的成長が永遠に続くという物語を信じますか？ 26. グローバル化した世界が抱える問題（１）：英語を公用語にする企業は行き過ぎか？ 27. グローバル化した世界が抱える問題（２）：日本在住の外国人に選挙権を与えるべきか？ 28. グローバル化した世界が抱える問題（３）：国際法に反する自国のルールは許されるのか？ 29. グローバル化した世界が抱える問題（４）：遠くの国の人を助ける義務はあるのか？ 30. まとめ
2.学びの意義と目標 現代世界の構造やそれが抱える問題を人間が作り出したものとしてとらえることにより、世界を改良したり修正したりできるという見方が身につきます。 講義で紹介する西洋近現代のさまざまな思想家の考え方を知識として暗記するのではなく、今私たちが生きている世界とのかかわりに基づいて理解することにより、そうした考え方を自分が世界を見る窓の一つとして利用しながら、現代という時代の諸問題について自分なりの考えを持ち、解決策を提示できるようになることが目標です。	
準備学習(予習) ・授業計画を参照し、扱われる内容について参考資料（文献、新聞、ネット情報）を集めて読んでおくこと。 ・参考にした情報について自分なりの評価をつけること。 ・そうした下調べを踏まえて、自分の考えをまとめておくこと。	教科書 授業の中で指示する 毎回テーマごとにプリントを配布するとともに、読んでおくべき文献を紹介する。
準備学習(復習) ・配布プリントやノートなどを読み返し、現代世界の成り立ちや問題を関連する近現代西洋思想に結びつけて説明できるようにすること。 ・現代世界の抱える問題については、自分なりの解決策や解決に向けて取り組むべき施策を明確にすること。	評価方法 (1)中間レポート:30% (2)学期末レポート:40% (3)平常点:30%:授業態度、リアクションペーパー、グループディスカッションの参加態度を含む

児童英語教育(インターンシップ)			
担当者：東 仁美			
開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位			
講義概要 1.内容 児童英語教育の観察実習をする。公立小学校での英語活動及び放課後事業「おもしろ英語クラブ」での英語活動を見学し、必要に応じてアシスタントとして授業に参加する。 児童英語科目2科目以上履修済みであることが履修条件である。 「児童英語教育（理論）」「児童英語教育（ワークショップA・B）」「児童英語教育（カリキュラム・デザイン）」「児童英語教育（インターンシップI）」を履修する事により、小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）より、小学校英語指導者認定資格が授与される。インターンシップは資格取得のための仕上げの実習科目である。		授業計画 1. 事前指導事後指導を含めて60時間の実習を課する。規定時間数を充足するまで実習時間を貯めるシステムをとる。 2. 観察実習 3. 観察実習 4. 観察実習 5. 観察実習 6. 観察実習 7. 観察実習 8. 観察実習 9. 観察実習 10. 観察実習 11. 観察実習 12. 観察実習 13. 観察実習 14. 観察実習 15. 観察実習	
2.学びの意義と目標 児童対象に実際に行われている英語の授業を見学することにより、指導者としての自覚を促す。英語活動の実際の授業を見学することにより、小学校英語教育への理解を高める。			
準備学習(予習) 履修には、事前のガイダンス参加が必須である。履修登録期間中にガイダンスの掲示を確認すること。 実習前に必ず事前指導を受け、実習の日時、服装、持ち物などを確認すること。		教科書 授業の中で指示する	
準備学習(復習) 実習後には、授業見学をしたことを振り返り、毎回レポートを作成し、次の実習日までに提出すること。		評価方法 (1)出席、参加:50% (2)レポート:50%	

児童英語教育(インターンシップ)

担当者：東 仁美			
開講期：春学期集中	必修・選択：選択科目	授業回数：週1回	単位数：2単位
<div>講義概要</div> <div>1.内容 児童英語教育の授業実習をする。公立小学校での英語活動及び放課後事業「おもしろ英語クラブ」での授業を担当する。週1回の授業実習のほかに、指導案作成、教材作り、模擬授業など週2～3回の事前指導がある。 児童英語教育(インターンシップ)のステップアップ科目である。 J-SHINE小学校英語指導者認定資格の正資格を取得する場合には、30時間の授業実習が条件となっているので、インターンシップ の履修が必要となる。</div>		<div>授業計画</div> <div>1.事前指導事後指導を含めて60時間の実習を課する。事前事後指導には指導案作成、教材準備、模擬授業も含まれる。 2.授業実習 3.授業実習 4.授業実習 5.授業実習 6.授業実習 7.授業実習 8.授業実習 9.授業実習 10.授業実習 11.授業実習 12.授業実習 13.授業実習 14.授業実習 15.授業実習</div>	
<div>2.学びの意義と目標</div> <div>英語活動の指導計画を立て、教材を準備し、授業をするまでを体験することで、英語活動の全体の流れをつかむ。 児童英語教育科目の集大成として、英語のみで1時間の授業を指導する力をつけていく。</div>			
<div>準備学習(予習)</div> <div>児童英語教育の他科目をできるだけ多く履修し、小学校英語の理論と実践を身に付けた上でインターンシップIIを履修してほしい。 常に学習者の実態をを念頭に置き、授業計画を立てる習慣をつけるようにする。</div>		<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div>	
<div>準備学習(復習)</div> <div>実習終了後には、授業ビデオを見て、自らの授業を振り返ること。授業計画を添付したレポートを実習終了後、毎回提出すること。</div>		<div>評価方法</div> <div>(1)出席、参加:40% (2)授業実践:30% (3)レポート:30%</div>	

児童英語教育(カリキュラム・デザイン)

担当者：東 仁美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>新学習指導要領では、5・6年生で年間35時間の外国語活動が必修化された。学校英語教育が大きな転換期を迎えている中で小学校で英語を教える指導者が益々求められている。この授業では、公立小学校での英語活動の基礎知識を身につけ、カリキュラム作りに必要な学習目標、学習内容、指導方法などを研究していく。「Hi, friends!」の教材研究を通して、実際に単元計画と1時間の指導案を作成することを課題とする。</p>	<div>授業計画</div> <div>1. 小学校における英語教育の意義</div> <div>2. 小学生の特徴と英語活動のあり方、進め方</div> <div>3. 学習指導要領とカリキュラムづくり</div> <div>4. 教材研究、指導法</div> <div>5. 学習指導案の作成</div> <div>6. アクティビティの指導方法</div> <div>7. 環境づくりと指導技術</div> <div>8. 評価方法</div> <div>9. 指導者に求められる資質</div> <div>10. 小中連携</div> <div>11. 諸外国の小学校英語教育</div> <div>12. 英語特区、研究開発学校の取り組み</div> <div>13. イマージョン教育、私立小学校の英語教育</div> <div>14. クラスルームイングリッシュの活用</div> <div>15. プレゼンテーション</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>40ポケット程度のファイルを用意すること。文献を読む宿題やレポート作成の課題がかなり多いが、教える立場で授業に臨んで欲しい。グループでの指導計画作成、授業準備を協力して行うこと。</p>	<div>教科書</div> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（東洋館出版社） 文部科学省『Hi, friends! 1』（東京書籍） 文部科学省『Hi, friends! 2』（東京書籍）</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>返却されたレポートの見直しを行うこと。 模擬授業後のフィードバックを参考に自身の指導力を振り返ること。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)出席、参加:30% (2)レポート:20% (3)プレゼンテーション:30% (4)学期末課題:20%</p>

児童英語教育(理論)		
担当者：横田 玲子		
開講期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位		
<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>小学校英語活動やそれ以外の児童英語教育についての概要や背景となる理論を学ぶ。また実施に関わる様々な要素や教育環境についても理解を深める。授業は講義のほか、経験的に学んでいくグループワークを実施する。</p> <p>カリキュラム上の位置づけとしては児童英語教育科目の中の入門的な講座である。</p>	<div>授業計画</div> <div>1. イントロダクション 学級づくりと英語活動</div> <div>2. 外国語教育の意義、および英語教育全体における児童英語教育の意味</div> <div>3. 指導要領を読み解く</div> <div>4. 子供たちに英語で何を教えたいか、求められる教員の資質と英語力</div> <div>5. 理論を検証する教材 1</div> <div>6. 教員として身につけておきたい英語の発音</div> <div>7. 英語の歌</div> <div>8. 理論を検証する教材 2</div> <div>9. コミュニケーション能力とは</div> <div>10. グループ活動 1</div> <div>11. グループ活動 2</div> <div>12. グループプレゼンの準備 1</div> <div>13. グループプレゼンの準備 2</div> <div>14. グループプレゼンと学び合い</div> <div>15. 学びの総括と自己評価</div>	
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>児童英語の概要と共に、英語運用力、および正しい発音についても学ぶ。幼い子供たちを教えるという観点から、「自分の学び」とともに「教える」という視点と責任感が求められる。時間にルーズだったり、適当にことを済まそうとする人には向かない。</p>		
<div>準備学習(予習)</div> <p>体調を整え、集中講義に備える。</p> <p>スケジュール管理をしっかりと、欠席しないように予定を立てる。</p>		
	<div>教科書</div> <p>文部科学省 『Hi, friends! 1』 (東京書籍)</p> <p>文部科学省 『Hi, friends! 2』 (東京書籍)</p>	
<div>準備学習(復習)</div> <p>その日の学びを内省し、翌日の学びへつなげる。</p>		
	<div>評価方法</div> <p>(1)出席:50%:10分以上の遅刻は欠席とする。 (2)振り返りカード:20%</p> <p>(3)プレゼンテーション:30%</p>	

<div> <div>児童英語教育(ワークショップA)</div> <div></div> </div>	
担当者：A . クラウス	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>Teaching English to children is different from teaching English to older learners. Teachers need techniques and methods specifically for children. In this class, you will learn about these methods and the theories behind them. You will also have a chance to polish your classroom language and your teaching skills by preparing activities, songs, and picture books to present to classmates. Halloween and Christmas activities will also be included, as well as online resources.</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to teaching children 2. Classroom language 3. Warm-up activities 4. Warm-up activities (Student presentation 1) 5. Lesson planning 6. Activities using pictures 7. What is Halloween? 8. Halloween activities 9. The importance of listening 10. Activities for teaching listening, TPR 11. Materials for teaching children 1 12. Materials for teaching children 2 13. Online resources 1 14. Online resources 2 15. Songs and chants 16. Songs and chants (Student presentation 2) 17. Activities for teaching speaking 18. Teaching dialogs 19. Multiple intelligence theory 20. Teaching to different learning styles 21. Activities using cards 1 22. Activities using cards 2 23. What is Christmas? Christmas songs 24. Christmas activities 25. Picture books 1 26. Picture books 2 27. Theme-based lessons 28. Teaching reading and writing 29. Picture books (Student presentation 3) 30. Picture books (Student presentation 3) cont.
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>The goals are learning how children learn languages and learning methods to teach languages to children.</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>Before class, students will prepare activities to present.</p>	<div>教科書</div> <p>松香洋子 『小学生は英語が大好き 72 Activities 1 基礎編』(松香フォニックス研究所) 奈良橋陽子 『英語で遊ぶ25のゲームと15のダイアログ集』(Longman)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>After class, students will read materials distributed in preparation for a quiz in the next class.</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)attendance:20% (2)presentations:50% (3)quizzes:20% (4)assignments:10%</p>

児童英語教育(ワークショップB)	
担当者：小川 隆夫	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>小学校外国語活動が必修化されてから、その内容とともに指導者の資質が問われている。本講義では理論と実践を融合させ、指導者としての必要な言語習得の理論、様々な指導法を学ぶとともに、実際の教育現場で即戦力として役に立つような実践演習を行う。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 子どもが英語を学ぶとは ことばの学び 第一言語習得理論 ことばの学び 第二言語習得理論 英語教授法 子どもたちのための効果的な英語教授法 コミュニケーション活動としてのリスニング指導 Hi friends!に見る小学校英語活動分析 1 Hi friends!に見る小学校英語活動分析 2 TPRと教室英語 ストーリーテリング コミュニケーション活動としてのスピーキング指導 歌とチャンツ チャンクとジェスチャー 子どものリタラン 能力の発達 アルファベット学習 アルファベットゲーム フォニックス 1 フォニックス 2 言語活動としてのゲーム 1 絵本の活用法 子どもの語彙習得 語彙学習を進める活動 ゲーム・クイズ 子どもの文法学習 評価 これからの児童英語教育 研究実践発表 研究実践発表 研究実践発表 研究実践発表 まとめ
<div>準備学習(予習)</div> <p>テキストの指定箇所を読んでから授業に臨むこと。</p>	<div>教科書</div> <p>アレン玉井 光江 『小学校英語の教育法 理論と実践』(大修館書店) 文部科学省 『Hi, friends! 1』(東京書籍) 文部科学省 『Hi, friends! 2』(東京書籍)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>授業後のレポートを期日までに仕上げて提出すること。1～25までは内容を26以降はフィードバックをポートフォリオにまとめる。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)日々の授業での実践:30%:積極性、指導力を重視する。 (2)ポートフォリオ:40% (3)実践発表:30%</p>

社会人のための表現力演習

担当者：作田 奈苗

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この授業では、大学生活、および卒業後社会で必要となる言語技術のうち、会話または文書によって適切にコミュニケーションをとる技術を学ぶ。最も重視するのは敬語の使い方である。まず、正しい敬語の文法を確認し、口頭および筆記によるドリルによって、すらすらと話せ、書けるように訓練する。また、その運用について、書きことば話し言葉ともに、具体的な実践練習を行う。

2.学びの意義と目標

- ・必要な場面で適切で流暢な敬語が使えるようになること。
- ・社会人として恥ずかしくないメールが書けるようになること。

準備学習(予習)

毎回授業の始め10分で敬語の復習テストをするので、準備すること。

準備学習(復習)

毎回授業の始め10分で敬語の復習テストをするので、復習すること。

授業計画

1. コミュニケーションと敬語 / 尊敬語と謙譲語の違い
2. 尊敬語の文法 / 尊敬語で報告する
3. 謙譲語の文法 / 謙譲語で報告する
4. 「する」「ている」「できる」の表現 / 案内する
5. 「くれる」と「もらう」の表現 / 依頼する
6. 丁寧語と謙譲語IIの文法 / 説明する
7. 名詞と形容詞の敬語 / ほめる
8. 身内と敬語 / ビジネスの電話会話
9. 目上に対する特別な注意 / 目上の人と話す
10. 恩恵表現の活用 / 文法復習
11. 文法中間テスト / メールの書き方の基本
12. 会話とメール (1) 問い合わせ
13. 会話とメール (2) 依頼
14. 会話とメール (3) 案内、お知らせ
15. 期末テストと解説、復習

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)復習テスト(13回):30% (2)授業内課題(13回):30%
(3)中間・期末試験:40%
合計60点以上を単位取得の条件とする。

社会と芸術文化 A

担当者：氏家 理恵

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

ヨーロッパの芸術文化についての基礎的・外観的な講義である。現在のアメリカ・ヨーロッパ文化を形成している背景としての歴史や社会・思潮を確認し、現代の様々な事象から芸術文化を見ていく。

2.学びの意義と目標

ヨーロッパ文化圏の芸術文化についての基礎的な知識を学ぶ。社会や政治、歴史や地理、生活や風俗など、さまざまな角度から、現代ヨーロッパにつながる芸術文化の諸相について専門用語を使いながら説明できるようにする。また、2年次以上の文科系専門科目を受講するための土台とする。

準備学習(予習)

大きなテーマごとに予習課題を課す。また、事前に配布したプリントについては授業前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

テーマごとに小テストを行う。また、期末レポートはそれぞれ、授業の復習課題なので、テーマごとにポイントをまとめておくこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 欧米文化とは？
3. 歴史 1
4. 歴史 2
5. 地理 1
6. 地理 2
7. 宗教と芸術文化 1
8. 宗教と芸術文化 2
9. 美術 1
10. 美術 2
11. 美術 3
12. 建築 1
13. 建築 2
14. 庭園
15. 工芸・デザイン 1
16. 工芸・デザイン 2
17. 文学 1
18. 文学 2
19. 文学 3
20. 音楽 1
21. 音楽 2
22. ファッション 1
23. ファッション 2
24. スポーツ文化
25. 食文化 1
26. 食文化 2
27. 食文化 3
28. 都市と交通
29. 文化と社会
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:40% (2)課題:30% (3)期末レポート:30%

社会と芸術文化 B	
担当者： 畠山 宗明	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>芸術は日常的な社会活動とは全く切り離されたものと理解されがちである。しかし、作品に値段がついたり表現が規制されたりするのは、芸術もまたさまざまな社会的実践の一つであるということを意味している。また芸術活動の中には、積極的に社会との関わりを目指すものもある。この講義では、そのような芸術と社会の関わりを様々な観点から検討してみたい。</p>	<div>授業計画</div> <p>1. イントロダクション</p> <p>2. 社会の中の芸術 芸術とは何か？</p> <p>3. 社会の中の芸術 芸術家とは誰か？</p> <p>4. 社会の中の芸術 芸術家の誕生</p> <p>5. 社会の中の芸術 芸術家の誕生</p> <p>6. 社会の中の芸術 前衛の時代</p> <p>7. 社会の中の芸術 大衆の時代の芸術</p> <p>8. 社会の中の芸術 現代における芸術</p> <p>9. 社会に向かう芸術 前衛とは何か？</p> <p>10. 社会に向かう芸術 前衛とは何か？</p> <p>11. 社会に向かう芸術 テクノロジーと芸術</p> <p>12. 社会に向かう芸術 テクノロジーと芸術</p> <p>13. 社会に向かう芸術 芸術と国家</p> <p>14. 社会に向かう芸術 芸術と国家</p> <p>15. 中間テスト</p> <p>16. 制度としての芸術 表現と制度</p> <p>17. 制度としての芸術 表現と制度</p> <p>18. 制度としての芸術 制度としての美術館</p> <p>19. 制度としての芸術 制度と 20 世紀美術</p> <p>20. グローバル時代の芸術 ロシアの前衛芸術</p> <p>21. グローバル時代の芸術 メキシコ壁画運動について</p> <p>22. グローバル時代の芸術 ハーレム・ルネッサンス</p> <p>23. グローバル時代の芸術 芸術に現れる異文化</p> <p>24. グローバル時代の芸術 芸術に現れる異文化</p> <p>25. グローバル時代の芸術 芸術に現れる異文化</p> <p>26. 芸術の現在 ポストモダン社会における芸術</p> <p>27. 芸術の現在 ポストモダン社会における芸術</p> <p>28. 芸術の現在 クール・ジャパンを考える</p> <p>29. 芸術の現在 クール・ジャパンを考える</p> <p>30. まとめ</p>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>この授業では、 芸術と社会、 社会に向かう芸術、 制度としての芸術という三つのテーマを中心に考えてみたい。これらのアプローチを通じて、ある作品を取り巻いていた社会環境を知るだけでなく、芸術そのものが持っている社会的性格を理解することが、この講義の目標である。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>授業で次の予告を行い、参考文献の指示などもその時に行う。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する プリント以外の参考文献に関しては、個別のテーマに応じて教室で指示する。</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>授業でプリントを配布するので、その内容や掲載されている参考文献を図書館で調べるなどして欲しい。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)中間テスト:30% (2)期末テスト:30% (3)出席:20% (4)ミニツレポート:20% 中間試験と期末試験が大きな判断基準となるが、その他出席も考慮する。また、授業後にミニツレポートの提出を求める場合がある。</p>

宗教と現代世界

担当者：柴田 史子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

宗教をより良く生きようとする「普通の人々」の営みと捉え、宗教にまつわる文化現象、社会現象について学んでいく。諸宗教についての一般的な知識を習得した上で、価値中立的な視点から宗教を理解し、研究する方法について学ぶ。

また、宗教と戦争、宗教と民族、カルト、スピリチュアリティ等のテーマを扱う。

2.学びの意義と目標

なじみのない宗教について学ぶことは、異文化理解の第一歩となるであろう。また、日本の宗教について学ぶことは、これまで特に意識することのなかった自分自身の内にある宗教的な感性について考える機会となるであろう。

また、国際紛争の背後にある宗教問題について学ぶことを通して、現代社会を重層的に捉える目を養うことを目指す。

準備学習(予習)

百科事典などで事前に概要をつかんでおくこと

準備学習(復習)

配布されたプリントはファイルすること。また、百科事典などを参照して授業内容の理解を深めること

授業計画

- 1.はじめに
- 2.宗教とは何か
- 3.ユダヤ教 (1)歴史と教義
- 4.ユダヤ教 (2)信仰と生活
- 5.キリスト教 (1)歴史と教義
- 6.キリスト教 (2)信仰と生活
- 7.キリスト教 (3)キリスト教文化
- 8.イスラム教 (1)歴史
- 9.イスラム教 (2)教義
- 10.イスラム教 (3)信仰と生活
- 11.イスラム教 (4)文化と現代社会
- 12.仏教 (1)歴史
- 13.仏教 (2)聖典と教え
- 14.仏教 (3)生活と文化
- 15.神道と日本の宗教 (1)歴史
- 16.神道と日本の宗教 (2)生活と文化
- 17.中間テスト
- 18.国際ニュースと宗教 (1)
- 19.国際ニュースと宗教 (2)
- 20.国際ニュースと宗教 (3)
- 21.現代社会と宗教 (1)
- 22.現代社会と宗教 (2)
- 23.現代社会と宗教 (3)
- 24.宗教研究の方法 (1)宗教学の誕生
- 25.宗教研究の方法 (2)宗教人類学
- 26.宗教研究の方法 (3)宗教社会学
- 27.宗教研究の方法 (4)宗教社会学
- 28.宗教研究の方法 (5)宗教心理学
- 29.宗教研究の方法 (6)宗教現象学
- 30.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)平常点:20%:出席状況と授業への参加を総合的に判断する
(2)中間テスト:30% (3)期末テスト:50%

就職に役立つ基礎英語

担当者：小川 隆夫

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

必要最小限の就職に役立つための基礎的英語力を身に付けることを目標にする。ビジネスで使う英文や単語は簡単なものが多いが、伝達ミスが起きないように簡潔で決まった表現が好まれる。授業では、仕事でよく使われる表現パターン208を取り上げ、説明を加えながら学んでいくため、仕事で役立つだけでなく、TOEICなどの試験対策にも効果的である。また、日常英会話やビジネスマナーなどを合わせて取り上げ、社会人としての知識の幅を広げていく。

2.学びの意義と目標

生き残りをかけて外資企業と合併する企業や、ビジネスチャンスを海外に求める企業が増加し、ビジネスの場は日本国内から世界へと広がっている。英語はもはや仕事の上での必須条件になりつつある。ビジネスでは情報伝達など実的な目標があって行われるため、言葉の使い方方で摩擦が起きないような英語の基礎的な使い方を学ぶ。

また、職場で日常的に使う英語を合わせて学び、即戦力となるようにする。

準備学習(予習)

実践で使えるようにするため毎回、数パターン程度の英文を覚えて、小テストを行う。復習を必ず行ってから授業に臨んでほしい。

準備学習(復習)

D V Dを利用した復習を自主的に行う。授業内容を毎回ノートにまとめる。

授業計画

1. オリエンテーション・来客の対応
2. 空港からホテルへ
3. 会社の受付で・外での会食で
4. 会食で
5. 電話をかける 1
6. 電話をかける 2
7. 電話を受ける 1
8. 電話を受ける 2
9. 電話中のトラブルに対処する
10. 電話を切る・会議を進める
11. 会議を進める
12. 自分の意見を言う
13. 発言内容を確認する
14. 結論をまとめる
15. 交渉を始める
16. 自分の立場と相手の立場
17. 交渉を進める
18. 相手の条件
19. 相手の申し出に条件をつける
20. 合意した内容を確認する
21. 交渉を終える
22. プレゼンテーションの導入・挨拶
23. 本論
24. 質問をこなす
25. 最後のまとめ
26. ビジネス文書 1
27. ビジネス文書 2
28. ビジネス文書 3
29. ビジネス文書 4
30. ビジネス文書 5 とまとめ

教科書

日向 清人 『必修208パターンを理屈で覚える!「ビジネス英語力」強化プログラム【初級編】(DVD-ROM付き)』(日本経済新聞出版社)

評価方法

- (1)出席・授業貢献:20% (2)小テスト:20% (3)中間試験:30%
(4)期末試験:30%

出版と編集

担当者：山本 俊明			
開講期：春学期	必修・選択：選択科目	授業回数：週2回	単位数：4単位
<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>わたしたちが読んでいる出版物（書籍や雑誌）を造りだしている「出版（書籍・雑誌）編集者」は、実際にどのような仕事をしているのか。本講義では、キャリアデザインを考えている受講生を対象にし、出版編集者が出版物を作成する過程を実際に体験しながら、出版の理論と方法を学ぶ。</p> <p>授業内容は、第一に、出版物の企画、編集、制作過程を実際に即して学ぶことである。現在、出版編集者が直面している「『良書』の企画と『売れる本』の企画の葛藤」、「編集・校正作業」を学ぶとともに「著作権（盗用）侵害」、「差別語問題」、「出版物によるプライバシー侵害、名誉毀損問題」など、出版と編集に関わる諸問題を取り上げる。</p> <p>さらに、現在では出版物をデジタル化し、読書専用端末機スマートフォンなどで読む、ということが実際に行なわれるようになった。「電子出版」の現状と課題を考える。</p> <p>授業では、実際に「雑誌」（共同作業）と「書籍」（ひとり1点）を作成することを通して、出版と編集過程を体験的に学ぶことをめざす。</p>		<div>授業計画</div> <div>1.出版と編集の現在 講義の概要</div> <div>2.企画の立て方 書籍の企画評価</div> <div>3.企画の立て方 書籍の企画傾向</div> <div>4.企画の立て方 雑誌の種類と傾向</div> <div>5.企画の立て方 雑誌の企画を立てる</div> <div>6.企画の立て方 雑誌の企画会議</div> <div>7.企画の立て方 雑誌の企画と取材</div> <div>8.編集の方法 原稿の作成</div> <div>9.編集の方法 インタビューなどの編集</div> <div>10.編集の方法 取材の方法と原稿作成</div> <div>11.編集の方法 原稿整理の方法</div> <div>12.編集の方法 文章を結びつける、入れ替える</div> <div>13.編集の方法 原稿の割り付け</div> <div>14.編集の方法 翻訳の諸問題</div> <div>15.編集の方法 出版・表現の自由と差別語問題</div> <div>16.編集の方法 出版と人権侵害問題</div> <div>17.編集の方法 著作権と剽窃、盗用問題</div> <div>18.校正の方法 本と雑誌の基礎知識と校正記号</div> <div>19.校正の方法 原稿引き合わせと初校</div> <div>20.校正の方法 赤字引き合わせ、横組校正</div> <div>21.校正の方法 コンピュータ植字における問題</div> <div>22.造本の方法 印刷の基礎知識、歴史と技術</div> <div>23.造本の方法 用紙・製本の基礎知識</div> <div>24.造本の方法 装丁の理論</div> <div>25.造本の方法 装丁の実際</div> <div>26.造本の方法 装丁と造本の実際</div> <div>27.電子出版と編集 電子出版の登場による編集</div> <div>28.電子出版と編集 電子書籍のコンテンツ編集</div> <div>29.電子出版と編集 電子書籍の機能</div> <div>30.出版と編集の現在 講義のまとめ</div>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>「授業掲示板」に授業で取り扱う主題に関する資料が掲載される。設問を考えながら資料をよく読み、授業への準備学習をする。</p>		<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>	
<div>準備学習(復習)</div> <p>授業では、各回扱う分量が多いため、省略しながら進められる。「授業掲示板」には授業内容のパワーポイントが載せられているので、内容を確認し復習に利用すること。また編集者が学ぶ編集記号、校正記号などを学ぶが、授業時間だけでは、すべてを取り扱えない。各自で復習して覚えるようにすること。</p>		<div>評価方法</div> <p>(1)レポート:60%:4つのレポートをそれぞれ点数で評価。 (2)授業レポート:40%:毎回の授業出席レポートを評価。 レポートは、「企画書」「雑誌原稿」「ハリー・ポッター/ちびくろサンボ問題」「自分の本」の4つであり、それぞれ点数化。授業参加レポートと合計で評価する。</p>	

職場で役立つ基礎英語

担当者：櫻井 智美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>将来会社で遭遇するであろう場面を設定し、その各場面で必要とされる英語の知識とスキルを身につけると共に、日本で就職活動を行う際の知識やビジネスマナーにも触れる。具体的には就職活動で必要とされる履歴書の書き方や面接、そして入社してからの電話対応など、学生である主人公の物語に沿って学習する。また、簡単なビジネスレターやメールの作成にも取り組む。</p> <p>リスニングとリーディング、会話を中心にスキルアップを目指し、会話においては基本的な表現のビジネス・コミュニケーションについて活動を交えながら習得する。</p>	<div>授業計画</div> <div>1.ガイダンス</div> <div>2.就職活動１：履歴書を書く</div> <div>3.就職活動２：就職申し込みの手紙を書く</div> <div>4.就職活動３：面接の手はずを整える</div> <div>5.就職活動４：面接</div> <div>6.就職活動の復習</div> <div>7.採用通知</div> <div>8.入社日</div> <div>9.仕事への準備</div> <div>10.復習</div> <div>11.電話１：電話に対応する</div> <div>12.電話２：伝言を受ける</div> <div>13.電話３：面会の予約をする</div> <div>14.電話の復習</div> <div>15.中間試験</div> <div>16.顧客訪問</div> <div>17.顧客受け入れ１：準備</div> <div>18.顧客受け入れ２：成田空港での出迎え</div> <div>19.顧客受け入れ３：ビジネスランチ</div> <div>20.顧客受け入れ４：工場訪問</div> <div>21.顧客受け入れ５：京都観光</div> <div>22.世界博覧会で働く</div> <div>23.出張準備</div> <div>24.出張１：ロサンゼルス空港</div> <div>25.出張２：ウェルカムパーティー</div> <div>26.出張３：プレゼンテーション</div> <div>27.感謝の手紙を書く</div> <div>28.職場で使う英語の実践・復習</div> <div>29.プレゼンテーション</div> <div>30.期末試験</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>授業で次の予告をするので、予告された内容に目を通すこと。</p>	<div>教科書</div> <p>城由紀子『やさしいオフィス英語』(成美堂)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で学んだオフィスで使われる英語表現や基本的なビジネス英語を復習すること。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)授業への出席・参加:25%(2)プレゼンテーション:25%(3)中間試験:25%(4)期末試験:25%</p>

心理言語学	
担当者：川手 恩	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
講義概要 1.内容 本講義では、言語使用や言語行為、コミュニケーションを言語学と心理学の両方向から分析し、言葉の仕組みを理解していく。この目的を達成するため、「心理言語学の基本的な概念」「動物のコミュニケーション」「言語と思考」「母語の習得」「音声と単語の認知」「文と文章の理解」「言語と脳」「言語とジェスチャー」そして「第二言語学習」という九つの心理言語学の研究分野のテーマに焦点をあて授業を進めていく。	授業計画 1. コース内容の説明とニーズ分析 2. 心理言語学へのアプローチ 3. 動物のコミュニケーション 4. 動物のコミュニケーション 5. 言語と思考:対人的思考 6. 言語と思考:帰納的&演繹的思考 7. 母語の習得（１）:音声知覚の発達 8. 母語の習得（２）:単語の学習 9. 母語の習得（３）:文法の習得 10. 音声と単語の認知:語の理解 11. 音声と単語の認知:単語機能の多様性と意味の特徴 12. 文と文章の理解:チョムスキーと生成文法 13. 文と文章の理解:統語解析モデル 14. 文と文章の理解:ワーキングメモリー 15. 言語と脳（１） 16. 言語と脳（２）:母語習得の臨界期 17. 言語と脳（３）:ビデオ前半とディスカッション 18. 言語と脳（４）:ビデオ後半とディスカッション 19. 復習と復習クイズ(1)-1 20. 復習と復習クイズ(1)-2 21. クイズのフィードバックと理解確認 22. 言語と脳（４）:失語症研究の流れ 23. 言語と脳（５）:失語症患者における文発話の障害 24. 言語とジェスチャー:ジェスチャーの歴史と分類 25. 言語とジェスチャー:ジェスチャーの産出要因 26. 第二言語習得（１）:第二言語習得研究の流れ 27. 第二言語習得（２）:第二言語習得の理論モデル 28. 第二言語習得（３）:日英比較の観点から 29. プレゼンテーションと質疑応答（ディスカッション） 30. プレゼンテーションと質疑応答（ディスカッション）
準備学習(予習) 授業計画を参照し、決められた範囲を予習する。	教科書 重野純（編）『言語とところ-心理言語学の世界を探検する-』（新曜社）
準備学習(復習) それぞれのトピックの研究課題をこなし、問題形式で内容を把握していく。	
	評価方法 (1)クラス参加:30% (2)期末レポート:30% (3)プレゼンテーション:10% (4)復習クイズ:30%:持ち込み可

西洋音楽 A

担当者：稲垣 俊也

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

私たち人間は本質的に「かかわる」存在です。それ故、人がなすことができるもっとも深い体験とは、他者との関係を築くことと云えましょう。古今東西、音楽はこの「かかわり」をより深く、広く実現するために用いられてきました。本講座では各時代の作曲家と音楽様式を学ぶと同時に、その様式を生み出すに至った文化的背景、歴史的背景を紐解いてゆきます。

2.学びの意義と目標

「音楽様式」とは、彼の時代に音楽を留め置くものではなく、「今」にその音楽を生かす術（すべ）と云えましょう。歴史の淘汰を生き抜き「新しい今」を創り出す音楽の生命力を味わっていただきます。

準備学習(予習)

次回講義予定の時代区分の楽曲を一曲視聴する。 作曲者、作曲年代、楽曲名 楽曲の時代背景（文化史、思想史等）をふまえた感想。とも自由な書式で記し、講義に持参すること。

準備学習(復習)

学期末の研究レポート作成の為、毎回、講義内で配布するレジュメ等を精読すること。

授業計画

- 1.五感に感じる音楽（１～４・古代～ルネサンス時代の音楽）
- 2.歌唱行為～息の不可思議
- 3.祈りと音楽の関わり
- 4.カノンについて
- 5.リズムの摂理（５～８・バロック時代の音楽）
- 6.ベルカント唱法について
- 7.時間と空間を越える音楽
- 8.フーガの構造
- 9.音楽は女性形（９～１３・古典派の時代の音楽）
- 10.音楽の動機
- 11.一部形式、二部形式、三部形式の音楽
- 12.西洋人が好きなシンメトリー～複合三部形式の音楽
- 13.ソナタ形式について
- 14.バレエ音楽の歴史 1
- 15.バレエ音楽の歴史 2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席点:25% (2)リアクションペーパー:25%:毎回の講義後に提出
(3)研究レポート:50%:学期末に提出

西洋音楽 B

担当者：稲垣 俊也

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

私たち人間は本質的に「かかわる」存在です。それ故、人がなすことができる最も深い体験とは、他者との関係を築くことと云えましょう。古今東西、音楽はこの「かかわり」をより深く、広く実現するために用いられてきました。本講座では各時代の作曲家と音楽様式を学ぶと同時に、その様式を生み出すに至った文化的背景、歴史的背景を紐解いてゆきます。

2.学びの意義と目標

「音楽様式」とは、彼の時代に音楽を留め置くものではなく、「今」にその音楽を生かす術（すべ）と云えましょう。歴史の淘汰を生き抜き「新しい今」を創り出す音楽の生命力を味わっていただきます。

準備学習(予習)

次回講義予定の時代区分の楽曲を一曲視聴する。 作曲者、作曲年代、楽曲名 楽曲の時代背景（文化史、思想史等）をふまえた感想。とも自由な書式で記し、講義に持参すること。

準備学習(復習)

学期末の研究レポート作成の為、毎回、講義で配布するレジュメ等を精読しておくこと。

授業計画

1. 調性の確立（１～９・ロマン派の時代の音楽）
2. 変奏曲とロンド形式
3. 光と音楽の関係
4. 暗譜の勧め
5. アンサンブルの意味
6. 創造の流れを探る
7. 生活を創る音楽
8. クリスマスの音楽
9. ヴェリズモ・オペラ
10. 映画「アマデウス」鑑賞～より良く鑑賞するために
11. フランス近代音楽（１１～１３・近、現代の音楽）
12. 東欧・ロシアの音楽
13. 新ウィーン楽派 他
14. 朗読法と朗唱法 1
15. 朗読法と朗唱法 2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席点:25% (2)リアクションペーパー:25%:毎回の講義後に提出
(3)研究レポート:50%:学期末に提出

担当者：田中 史高

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容 この科目では、古代から中世、近世へ、さらに近代、現代へと、年代順にヨーロッパ史上の重要な事象や人物を論じていきます。毎回、講義内容の概要と図版を載せたプリント（レジュメ）を配布します。また、なるべく毎時１０分程度をあてて、視覚教材（ビデオ）を用いる予定です。</div>	<div>授業計画</div> <div>1.オリエンテーション</div> <div>2.エーゲ文明</div> <div>3.古代スパルタとアテネ</div> <div>4.ギリシアの古典文化</div> <div>5.ヘレニズム史</div> <div>6.共和政ローマ</div> <div>7.帝政ローマ</div> <div>8.ゲルマン人の移動と部族国家</div> <div>9.ローマ・カトリック教会の発展</div> <div>10.十字軍</div> <div>11.封建制と荘園制</div> <div>12.中世都市</div> <div>13.西欧中世の文化</div> <div>14.イタリア・ルネサンス</div> <div>15.ヨーロッパ世界の拡大</div> <div>16.西欧諸国の国王巡行</div> <div>17.宗教改革</div> <div>18.ロシアの絶対主義</div> <div>19.オランダの独立と繁栄</div> <div>20.市民革命</div> <div>21.ナポレオンとその時代</div> <div>22.西欧ユダヤ人の歴史</div> <div>23.ドイツの統一</div> <div>24.第一次・第二次産業革命</div> <div>25.帝国主義</div> <div>26.第一次世界大戦</div> <div>27.第二次世界大戦</div> <div>28.２０世紀の西洋諸文化</div> <div>29.２０世紀後半の西欧</div> <div>30.２０世紀後半の東欧</div>
<div>準備学習(予習)</div> <div>できれば受講前に、高校世界史の既習者は、その教科書を西洋史関係の部分だけでもう一度目を通しておくとよいでしょう。</div>	<div>教科書</div> <div>成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)</div>
<div>準備学習(復習)</div> <div>毎回授業の最後に１０～１５分をあてて、配布レジュメに即した授業内容のまとめを作成し提出してもらいます。ただしこのまとめは、後日の提出も可とします。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1)授業の出席点:25% (2)授業内容のまとめ:25% (3)小テスト（３回）:50%</div>

西洋史				
担当者：森 齊丈				
開講期：春学期/秋学期		必修・選択：必修科目	授業回数：週2回	単位数：4単位
<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。</p> <p>また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。</p>		<div>授業計画</div> <div>1.歴史とは何か？</div> <div>2.古代オリエント</div> <div>3.地中海世界</div> <div>4.古代ギリシア</div> <div>5.共和政ローマ</div> <div>6.帝政ローマ</div> <div>7.ローマ帝国の社会とキリスト教</div> <div>8.ゲルマン世界の誕生</div> <div>9.中世ヨーロッパ</div> <div>10.十字軍とイスラム世界</div> <div>11.中世ヨーロッパの社会</div> <div>12.キリスト教と世俗君主</div> <div>13.ヨーロッパ世界の拡大</div> <div>14.大航海時代</div> <div>15.ルネサンス</div> <div>16.宗教改革</div> <div>17.宗教戦争とウェストファリア条約</div> <div>18.絶対王政</div> <div>19.市民革命 1</div> <div>20.市民革命 2</div> <div>21.産業革命と労働問題</div> <div>22.帝国主義と民族主義</div> <div>23.第一次世界大戦</div> <div>24.戦間期のヨーロッパ</div> <div>25.第二次世界大戦</div> <div>26.東西冷戦と欧州統合</div> <div>27.冷戦の終結と東欧の民主化</div> <div>28.ポストコロニアリズム</div> <div>29.グローバリズム</div> <div>30.現代の世界</div>		
<div>準備学習(予習)</div> <p>毎授業の最後に次回のテーマを発表するので、教科書の該当部分に目を通すことを勧める。大事なところは板書するので、各自プリント、ノート等へ書き込み、補足し復習するのが望ましい。</p>				
<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で学んだ人物、事項についてプリント・ノート等を見ながら思い出せるようにするとよい。</p>				
		<div>教科書</div> <p>成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)</p>		
		<div>評価方法</div> <p>(1)出席点:20% (2)授業内レポート:20% (3)小テスト 1 :20% (4)小テスト 2 :20% (5)小テスト 3 :20%</p>		

西洋美術史

担当者：瀧井 直子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>本講義では、古代ギリシアから20世紀までの西洋美術を時代によってみていきます。対象とする地域はヨーロッパと北アメリカ、また取り上げる美術は絵画だけでなく、彫刻、建築、装飾美術など多岐にわたります。講義は具体的な作品に焦点をあてながら進め、美術の作り手と受け手、作品の形態、作品が作られた時代の社会や文化背景などの諸問題について考察します。</p>	<div>授業計画</div> <div>1. イントロダクション</div> <div>2. 古代ギリシアの美術と建築 (1)</div> <div>3. 古代ギリシアの美術と建築 (2)</div> <div>4. 古代ローマの美術</div> <div>5. ビザンティン美術</div> <div>6. ロマネスクの美術と建築</div> <div>7. ゴシックの美術と建築</div> <div>8. ルネサンスの美術 (1)</div> <div>9. ルネサンスの美術 (2)</div> <div>10. 北方ルネサンスの美術</div> <div>11. バロックの美術</div> <div>12. ロココの美術</div> <div>13. 講義のまとめ (1)</div> <div>14. 中間試験</div> <div>15. 新古典主義</div> <div>16. ロマン主義の美術 (1)</div> <div>17. ロマン主義の美術 (2)</div> <div>18. 写実主義</div> <div>19. 印象主義</div> <div>20. ポスト印象主義 (1)</div> <div>21. ポスト印象主義 (2)</div> <div>22. 世紀末芸術と象徴主義</div> <div>23. 近現代の彫刻</div> <div>24. フォーヴィスム</div> <div>25. キュビズム</div> <div>26. ダダイスム</div> <div>27. シュルレアリスムの美術</div> <div>28. 抽象表現主義</div> <div>29. ポップ・アート</div> <div>30. 講義のまとめ (2)</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>教科書、配布プリントなどの指定箇所を読み、疑問点などを整理しておくこと。</p>	<div>教科書</div> <p>泉谷淑夫 『美との対話 鑑賞への誘い 』（日本文教出版株式会社）</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>教科書、配布プリント、ノートを再読すること。課題が出された際には、期限内に提出できるように取り組むこと。また、講義中に指示した作品などについては次回までに暗記すること。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)出席、授業態度:30% (2)リアクション・シートの内容:10% (3)中間試験:30% (4)期末試験:30%</p>

専門演習(Pop Culture)

担当者：K . O . アンドアソン

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

このゼミでは、外国の映画を通してその国の文化を学ぶ。13本の短編映画（日本語字幕付き）を鑑賞する。フランス映画3本、イタリア映画1本、イギリス映画6本、カナダ映画2本、日本映画1本。以外について反す時に用いられる語彙を学びいくつかの短い映画評論を読む。映画の登場人物、映画撮影法、ストーリーが繰り広げられている場所や映画のテーマなどについて検証する。映画のストーリーと自分の経験などを重ね合わせ話し合う。Students must also, over the four semesters of the seminar, write a long essay in English on a topic related to cinema, according to the MLA handbook.

2.学びの意義と目標

外国映画を通して、他国の文化を学ぶ。
The purpose of this class is to make students more aware of the themes and techniques of world cinema and to reflect on these themes and how they are expressed through the art of cinema.

準備学習(予習)

Students should read through all material on a film handed out by the teacher before watching the film; conduct research on the filmmaker, the actors, etc.; and be prepared to give opinions about films in class.

準備学習(復習)

After watching a film, students should be willing to discuss the film with other students and later the teacher and then be willing to write essays on the films to clarify their views of the films.

授業計画

1. Crin Blanc (White Mane)
2. Crin Blanc (White Mane)
3. Le Ballon Rouge (The Red Balloon)
4. Les Mistons (The Brats)
5. Les Mistons (The Brats)
6. Anna of Milan (from Ieri, oggi, domani)
7. Anna of Milan (from Ieri, oggi, domani)
8. Communication Problems (from Fawlty Towers)
9. Communication Problems (from Fawlty Towers)
10. The Snowman/Father Christmas
11. The Snowman /Father Christmas
12. Crac!
13. Crac!
14. The Man Who Planted Trees
15. review for the final exam

教科書

Hiroimi Akimoto / Mayumi Hamada 『Casablanca: Cool and Unforgettable English』 (Macmillan Language House)
Mayumi Hamada, Hiroimi Akimoto 『Roman Holiday』 (Macmillan Language House)

評価方法

(1)attendance:10% (2)homework:30% (3)quizzes:30% (4)final exam:30%

専門演習(Pop Culture)

担当者：K . O . アンダスン

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

このゼミは2012年度秋学期、専門演習（Pop Culture）Iの継続授業である。In this course we will continue watching short films and then progress to three longer films: Casablanca, The Third Man, and Roman Holiday.

2.学びの意義と目標

The purpose of this course is to go from watching and commenting on short films to watching and commenting on longer films and go further and deeper in discussing the historical background and underlying themes of the films.

準備学習(予習)

Students should read over and understand all questions connected to films before class. For the longer films, they should watch their own DVD copies at home and familiarize themselves with the actors, the lines of script, and the background history behind the scenes.

準備学習(復習)

After watching scenes in the longer films, the students should review the scripts they have read and discussed in class and relate what they have learned to their own personal lives.

授業計画

1. Cinderella (from Revolting Rhymes)
2. Cinderella (from Revolting Rhymes)
3. The Soldier and Death
4. The Adventure of the Abbey Grange
5. The Adventure of the Abbey Grange
6. The Van Gogh Dream (from Yume)
7. The Van Gogh Dream (from Yume)
8. Casablanca introduction and research
9. Casablanca reports
10. Casablanca
11. Casablanca
12. Casablanca
13. Casablanca
14. Casablanca
15. Review for the final exam

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)attendance :10% (2)homework:30% (3)quizzes:30% (4)final exam:30%

専門演習(アメリカ文化)

担当者：柴田 史子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

アメリカ合衆国は "nation of joiners" (グループに加入する人々によって創られた国) であると言われる。本演習では、アメリカ社会の礎となった集団、運動、クラブについて学ぶことを通して、アメリカ社会・アメリカ文化、そして現代社会のあり方を多面的、立体的に捉えていく。テキストは日本語と英語(プリントを配付)を併用し、テキストの要約、翻訳や発表を行なう。

2.学びの意義と目標

1年半の演習科目を通して、日本語・英語の文献を読む力、自分で問題を発見・設定する力、レポートを書く力、発表しディスカッションする力といった社会人に必要な基本的な力を身につけることを目指す。その第一歩として本演習では、英語の基礎を学びなおすことと、情報収集と収集した情報の分析に重点を置く。

準備学習(予習)

テキストの分からない用語は辞書で調べて授業に出席すること。

準備学習(復習)

学んだことを自分の言葉でまとめること

授業計画

1. ガイダンス
2. 日本語文献の講読
3. 日本語文献の講読
4. 英語文献の講読
5. 英語文献の講読
6. 日本語文献の講読
7. 日本語文献の講読
8. 英語文献の講読
9. 英語文献の講読
10. 日本語文献の講読
11. 日本語文献の講読
12. 日本語文献の講読
13. 英語文献の講読
14. 英語文献の講読
15. まとめ

教科書

綾部恒雄 『クラブが創った国アメリカ』(山川出版社)

評価方法

(1)平常点:80%:出席状況と討論への参加で判断する (2)提出物:20%

専門演習(アメリカ文化)

担当者：柴田 史子

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

アメリカ合衆国は "nation of joiners" (グループに加入する人々によって創られた国) であると言われる。本演習では、アメリカ社会の礎となった集団、運動、クラブについて学ぶことを通して、アメリカ社会・アメリカ文化、そして現代社会のあり方を多面的、立体的に捉えていく。テキストは日本語と英語(プリントを配付)を併用し、各回担当者を決めてテキストの要約、翻訳や発表を行なう。

2.学びの意義と目標

1年半の演習科目を通して、日本語・英語の文献を読む力、自分で問題を発見・設定する力、レポートを書く力、発表しディスカッションする力といった社会人に必要な基本的な力を身につけることを目指す。特に本演習では、問題発見と論理構成の訓練を行なう。

準備学習(予習)

文献の分からない用語は辞書や百科事典で調べた上で授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業ノート、資料、下調べメモの管理をしっかりとすること

授業計画

1. ガイダンス
2. 日本語文献の講読
3. 日本語文献の講読
4. 日本語文献の講読
5. 英語文献の講読
6. 英語文献の講読
7. 日本語文献の講読
8. 日本語文献の講読
9. 英語文献の講読
10. 英語文献の講読
11. 日本語文献の講読
12. 日本語文献の講読
13. 英語文献の講読
14. 英語文献の講読
15. まとめ

教科書

綾部恒雄 『クラブが創った国アメリカ』(山川出版社)

評価方法

(1)平常点:80% (2)提出物:20%

専門演習(英語学)	
担当者：加曾利 実	
開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>言語と人間との関係、及びその本質に係わる諸問題について、英語学を中心に考えていくことが、本演習の目的です。本講義の特色は、授業の最初に履修者の英語力を確認し、基礎力が不十分な場合には、英語基礎力確充特別授業を実施します。十分な場合には、英語学のテキストを輪読します。因みに、過去10年間は、特別基礎力確充授業を実施してきました。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。</p> <p>2.学びの意義と目標</p> <p>本ゼミでは、言語習得理論・インド・ヨーロッパ語族・チョムスキーの生成変形文法などについての、やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、様々な問題について議論を深化させていきたいと思っています。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 英語基礎力確認調査 3. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読1 4. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読2 5. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読3 6. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読4 7. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読5 8. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読6 9. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読7 10. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読8 11. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読9 12. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読10 13. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読11 14. 英語基礎力確充特別授業またはテキスト輪読12 15. 総合的なまとめ
<div>準備学習(予習)</div> <p>毎回、全員に当たるので、授業前に配布プリント及びテキストを熟読し、よく予習しておくこと。予習・復習ノートを提出してもらい、評価の一部とします。</p>	<div>教科書</div> <p>Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』(三修社)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>復習も、必ず励行して下さい。毎回、授業後、学習事項を復習しましょう。また、復習を何回か繰り返すと、より効果的に記憶に残ります。</p>	
	<div>評価方法</div> <p>(1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)課題レポート:30% (4)期末試験:40%</p>

専門演習(英語学)			
担当者：加曽利 実			
開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位			
講義概要 1.内容 専門演習（英語学）Ⅰを踏まえて、言語と人間との関係、及びその本質に係わる諸問題について考えて行きます。テキストを輪読しながら、英語の読解力を養成します。専門演習（英語学）Ⅰで、熱心に英語の基礎を身につけた学生は、専門演習（英語学）Ⅱで英文専門書が読めるようになります。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。		授業計画 1. イントロダクション 2. テキストの輪読: 「言語習得理論」1 3. テキストの輪読: 「言語習得理論」2 4. テキストの輪読: 「言語習得理論」3 5. テキストの輪読: 「言語習得理論」4 6. テキストの輪読: 「言語習得理論」5 7. テキストの輪読: 「言語習得理論」6 8. テキストの輪読: 「言語習得理論」7 9. テキストの輪読: 「言語習得理論」8 10. テキストの輪読: 「言語習得理論」9 11. テキストの輪読: 「言語習得理論」10 12. テキストの輪読: 「言語習得理論」11 13. テキストの輪読: 「言語習得理論」12 14. テキストの輪読: 「言語習得理論」13 15. 総合的なまとめ	
2.学びの意義と目標 やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、言語習得理論を中心として、英語学や言語学について議論を深化させていきたいと思っています。			
準備学習(予習) 毎回、全員が当たるので、テキストの翻訳が出来るように予習し、準備をしておいて下さい。適宜、予習・復習ノートを提出してもらい、これを評価の一部とします。		教科書 Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』（三修社）	
準備学習(復習) 毎回、授業後、学習事項を復習して下さい。また、繰り返し復習すると、確実に記憶に定着します。		評価方法 (1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)課題レポート:30% (4)期末試験:40%	

専門演習(英米文学)

担当者：氏家 理恵

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

英米文学作品や文化論からの抜粋を読んだり、映像作品を観たりしながら、物語を「読み」、その作品を生み出した文化や社会について理解を進める。前半は文献購読を中心とし、後半は発表を中心としたディスカッション形式です。事前に決めた担当者に分担部分についてのまとめ・解説・情報・コメントなどを発表してもらい、その後は発表を受けてのディスカッションとなる。なお、取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決定する。

2.学びの意義と目標

作品の分析方法を学ぶと同時に、作品を題材とした発表の仕方・レジュメの書き方・レポートの書き方などを身につけることも目的とする。物語の「読み方」を学び、また、その背景にある思想や文化、歴史などについて調べ、考察する力を養う。また、ディスカッションを通して自分の意見を積極的に発言することに慣れ、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高める。

準備学習(予習)

毎回読む部分の予習は必ずすること。知らない用語・言い回しは調べておくこと。発表にあたっては内容・ポイントをまとめるだけでなく、調べたことも含めて発表レジュメを作成すること。

準備学習(復習)

自分の発表やレポートに活かせるように、授業で学んだ発表のポイント、レジュメ作成やレポート作成のポイントを常にまとめておくこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. 文学作品・文化を「読む」とは？
3. レジュメ・資料の作り方
4. 文献講読 1
5. 文献講読 2
6. 文献講読 3
7. 文献講読 4
8. 文献講読 5
9. 前半のまとめとゼミ発表のポイント
10. 発表 1
11. 発表 2
12. 発表 3
13. 発表 4
14. 発表 5
15. まとめ - 専門演習IIに向けて

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:30% (2)課題:20% (3)発表:30%:レジュメ作成含む
(4)期末レポート:20%

専門演習(英米文学)			
担当者：氏家 理恵			
開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位			
講義概要 1.内容 前半は「専門演習I」で作成したレポートの合評会、後半は「専門演習I」に引き続き『ライオンと魔女』を読む。 後半は事前に決めた担当者による発表と、発表を受けてのディスカッションです。担当者は内容のまとめ・調べてきたこと・分析・コメントをレジュメを作成した上で発表する。		授業計画 1. イントロダクション:レポートの書き方と読み方 2. 専門演習Iレポート合評会 1 3. 専門演習Iレポート合評会 2 4. 専門演習Iレポート合評会 3 5. 専門演習Iレポート合評会 4 6. 専門演習Iレポート合評会 5 7. レポート総評と作成の諸注意 8. 発表 1 :作品講読と分析 9. 発表 2 :作品講読と分析 10. 発表 3 :作品講読と分析 11. 発表 4 :作品講読と分析 12. 発表 5 :作品講読と分析 13. 発表のまとめ・総評 14. 『ライオンと魔女』分析 15. 卒業研究に向けて	
2.学びの意義と目標 「専門演習I」では、原文で作品を鑑賞しながらレジュメの作り方や発表の仕方を学んだが、IIではさらに調べ物の仕方、引用の仕方、論理的な文章の書き方を学ぶ。特にレポートについては、専門演習Iで作成したレポートを合評しあうことで、レポートを書くコツ・読むコツを知り、アウトラインの組み立てや説得力のある文章・表現に慣れるようにする。また、文学作品を通してイギリスの歴史・社会・文化についての知識を深めることも目標とする。			
準備学習(予習) 予習は必ずしてくること。発表にあたってはあらすじ・ポイントをまとめるだけでなく、調べたことも含めて発表レジュメをワープロで作成すること。		教科書 授業の中で指示する	
準備学習(復習) 授業で学んだ作品を分析するレポートを課すので、常に物語とそのポイントを復習し、まとめておくこと。		評価方法 (1)平常点:30% (2)課題:20% (3)発表:30%:レジュメ作成含む (4)期末レポート:20%	

専門演習(キリスト教文化)

担当者：E . D . オズバーン

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

1. Content – This course is designed to help students gain a deeper understanding of the basic tenets of the Christian faith and how the teachings of the Bible may be applied to their lives. Practical questions, such as What is the meaning of life? What is my purpose in this world? and What is happiness? are discussed from a Christian point of view. This is done with reference to the Bible and through the reading of the life story and witness of Nick Vujcic, an Australian man who was born armless and legless, yet has managed to lead a fulfilling and meaningful life.

2. Role in the Curriculum – This course is available to second-year European-American Culture Dept. students, all of whom are required to take and pass a Specialty Research Seminar of their choosing during the Fall Semester.

2.学びの意義と目標

Learning Objective – The primary objective is to help students gain a deeper understanding of Christianity and themselves, while learning how to express their comments and opinions in a group discussion format.

授業計画

1. Course Introduction
2. What is a worldview?
3. The Christian worldview I
4. The Christian worldview II
5. The Bible and you (practical living) I
6. The Bible and you (practical living) II
7. The Bible and you (practical living) III
8. Discussion of Vujcic book I
9. Discussion of Vujcic book II
10. Discussion of Vujcic book III
11. Discussion of Vujcic book IV
12. Discussion of Vujcic book V
13. Discussion of Vujcic book VI
14. Vujcic 's Principles for Life
15. FINAL REPORT

準備学習(予習)

• Students are expected to complete reading assignments and be prepared to participate in class discussions regarding the content of the reading.

準備学習(復習)

• Students should reflect upon the content of each class discussion and determine how it is applicable to their own lives. They should then be ready to articulate that in the next class.

教科書

ニック・ブイチ 『それでも僕の人生は「希望」でいっぱい』 (三笠書房)

評価方法

(1)class attendance :25% (2)participation :25% (3)reading assignments :25% (4)final report :25%

専門演習(キリスト教文化)

担当者：E . D . オズバーン

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

1. Content – This course builds upon Specialty Research Seminar I and explores the profound influence that Jesus Christ and Christianity have had upon the world in the areas of morality and ethics, freedom and democracy, the elevation of women, charities and volunteerism, and popular culture (e.g. art, music, literature, television/cinema). Particular focus is upon historical figures strongly influenced by Jesus' teaching, such as Rembrandt, Tolstoy, Dostoevsky, Nitobe Inazo, Gandhi, Mother Teresa, and Rev. Martin Luther King, Jr.

2. Role in the Curriculum – This course is a continuation of Specialty Research Seminar (Christianity & Culture) I and is available to third-year European-American Culture Dept. students during the Spring Semester.

2.学びの意義と目標

Learning Objective – The primary objective is to help students gain a deeper understanding of the impact of Christianity on the world and to learn how to do presentations and research papers on a topic related to the course content.

授業計画

1. Course Introduction
2. Christianity's impact on the world I
3. Christianity's impact on the world II
4. Christianity's impact on the world III
5. Christianity's impact on the world IV
6. Christianity's impact on the world V
7. Focus on Rembrandt
8. Focus on Tolstoy
9. Focus on Dostoevsky
10. PRESENTATIONS
11. Focus on Nitobe Inazo
12. Focus on Gandhi
13. Focus on Mother Teresa
14. Focus on Rev. Martin Luther King, Jr.
15. TERM PAPER

準備学習(予習)

• Students are expected to complete reading assignments and be prepared to participate in class discussions regarding the content of the reading.

準備学習(復習)

• Following each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.

教科書

フィリップ・ヤンシー 『『だれも書かなかったイエス』』 (いのちのことば社)

評価方法

(1)class attendance :20% (2)participation :15% (3)reading assignments :20% (4)PPT presentation:20% (5)term paper :25%

専門演習(言語と社会)	
担当者：D . バーガー	
開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>この演習では言語と社会に関するいくつかの研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」/「Language in Society」と並行するが、専門演習II、卒業研究I、IIではこの調べを続けるので、各課題をより深く追求することができる。専門演習Iでは、『言語学的に言えば——ことばにまつわる「常識」をくつがえす』（原作『Language Myths』）から選択された章を読み、話し合い、言語に関する神話（誤った通念）や思い違いに焦点が当てられる。「言語」と「社会」を人間の普遍的な現象として受け止め、また、特定の「言語」や「社会」を取り上げ、比較する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。</p> <p>2.学びの意義と目標</p> <p>この演習の目的は広く信じられている言語に関する誤解をより理解することである。この誤解は他者に関する誤解に導くこともあり、他者との交流に悪影響を及ぼす可能性がある。この授業を通して、学生は言語と社会の相互関係をより理解できるようになる。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業紹介、言語に関する神話（誤った通念）か、事実か：アンケート 2. 言語偏見と言語変種の本質的平等：「言語に優劣はあるの？」を読み、話し合う 3. 「言語に優劣はあるの？」、レポート・発表の仕方 4. 「言語に優劣はあるの？」の要約＋言語偏見や言語変種の本質的平等についての独自の研究発表 5. 女性の言語使用に対する性差別的な誤った通念：「女は男よりおしゃべりってホント？」を読み、話し合う 6. 女性の言語使用に対する性差別的な誤った通念：「女は男よりおしゃべりってホント？」を話し合う 7. 「女は男よりおしゃべりってホント？」の要約＋女性の言語使用に対する性差別的な誤った通念についての独自の研究発表 8. なまり、標準変種、方言：「自分以外はみんななまっている！」を読み、話し合う 9. なまり、標準変種、方言：「自分以外はみんななまっている！」を話し合う 10. 「自分以外はみんななまっている！」の要約＋なまりや標準変種や方言についての独自の研究発表 11. 最終研究レポートの書き方・発表の仕方・パワーポイントの作り方 12. 若者の日本語（英語、中国語など）が乱れている：「最近の子どもは読み書きができない!？」を読み、話し合う 13. 若者の日本語（英語、中国語など）が乱れている：「最近の子どもは読み書きができない!？」を話し合う 14. 「最近の子どもは読み書きができない!？」の要約＋感想 15. 専門演習I最終研究レポートの口頭発表
<div>準備学習(予習)</div> <p>ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>各章について独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)授業への出席:15% (2)授業での参加態度:15% (3)各章についての要約、独自の研究レポート:20% (4)その口頭発表:10% (5)最終研究レポートと口頭発表:40%</p>

専門演習(言語と社会)			
担当者：D . パーガー			
開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位			
講義概要 1.内容 この演習では言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」/「Language in Society」と並行するが、専門演習Iと同様に、より深く追求することができる。専門演習IIでは、方言と標準語という言語変種、またはなまりについて研究する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生はそれぞれの課題を研究し、研究発表をすることが求められている。		授業計画 1. 授業紹介、専門演習IIの課題の紹介:方言と標準語の基本知識(1) 2. 図書館オリエンテーション 3. 方言と標準語:基本知識(2)；レポート・発表の仕方 4. 英語の変種：イギリス英語、アメリカ英語 5. 英語の変種: イギリス英語、アメリカ英語 6. 英語の変種についての独自の研究発表 7. 日本語の変種：標準語と共通語 8. 日本語の変種についての独自の研究発表 9. 言語偏見:ハドソンを読む 10. 言語偏見：ハドソンを読む 11. 言語偏見についての独自の研究発表 12. 言語偏見: パウワー、トラッドギルを読む 13. 言語偏見: パウワー、トラッドギルを読む 14. 言語偏見：パウワー、トラッドギルを読む；最終研究レポート・発表の仕方の復習 15. 専門演習II最終研究レポートの口頭発表	
2.学びの意義と目標 この演習の目的は専門演習Iと同様に、広く信じられている言語に関する誤解をより理解することである。専門演習IIにおいて、英語と日本語の標準変種と標準外の変種（イギリス英語とアメリカ英語や共通語を含む）を比較する。同時に、標準外の言語変種に関する偏見による負の役割を考慮する。			
準備学習(予習) ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。		教科書 プリントを配布する	
準備学習(復習) 各章について独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。		評価方法 (1)授業への出席:15% (2)授業での参加態度:15% (3)各課題についての独自の研究レポート:20% (4)その口頭発表:10% (5)最終研究レポートと口頭発表:40%	

専門演習(現代ヨーロッパ事情)

担当者：佐藤 啓介

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

現代ヨーロッパの諸問題を学びつつ、その社会（政治、企業の理念など）や文化（製品デザイン、景観など）を形成している考え方や価値観について、日本語のテキスト講読を通して理解を深める演習です。各回担当を決め、要約や発表をおこないます。取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決めます。専門演習Iでは主に、20世紀ヨーロッパの製品と都市のデザイン、およびその背後にある思想を扱います。

2.学びの意義と目標

ゆっくりでよいので、専門的に書かれた日本語の文章を自分の言葉で平易に置きかえながら読めるようになることが目標です。また、そこで書かれたことに基づいて、自分なりの考えを他の人に分かるように発言し、相手の発言を受けて議論できるようになることも目標です。ゼミ2年間かけて、現代のヨーロッパの社会や文化の一端を理解・分析できるグローバルな職業人になることを目指し、この科目はその土台作りに相当します。

準備学習(予習)

発表担当回は当然のこととして、そうでない回も、必ずテキストに目を通し、分からない用語などは調べ、議論に備えること。

準備学習(復習)

発表担当回は当然のこととして、そうでない回も、テキストの内容ならびに発表内容について振り返り、その問題点を点検すること。

授業計画

1. イントロダクション
2. 現代ヨーロッパの価値観と社会（講義）
3. まとめ方と読み方、資料の作り方
4. 日本語文献講読（１）： 分担を決めた講読
5. 日本語文献講読（２）： 分担を決めた講読
6. 日本語文献講読（３）： 分担を決めた講読
7. 日本語文献講読（４）： 分担を決めた講読
8. スライドによる講読内容の復習と討議
9. 日本語文献講読（５）： 分担を決めた講読
10. 日本語文献講読（６）： 分担を決めた講読
11. 日本語文献講読（７）： 分担を決めた講読
12. 日本語文献講読（８）： 分担を決めた講読
13. 日本語文献講読（９）： 分担を決めた講読
14. 討議
15. これまでのまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)発表点:40% (2)討論への参加度:20% (3)平常点:20%
(4)期末レポート:20%:レポートに代えて発表の場合もあり

専門演習(現代ヨーロッパ事情)	
担当者：佐藤 啓介	
開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>専門演習Iに続き、現代ヨーロッパの社会や文化を形成している考え方や価値観について、日本語のテキスト講読を通して理解を深める演習です。演習Iでは美的価値が主題だったのに対し、演習IIでは倫理的価値を主題とします。各回ごとに担当者を決め、翻訳や発表、参加者同士の議論をおこないます。取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決めます。また、後半では、特定のテーマを選んで研究を行ない、その成果を発表してもらいます。</p> <p>2.学びの意義と目標</p> <p>専門的な文章を自分の言葉で平易に置きかえながら読む力を磨き、それに基づいて、自分なりの考えを他の人に分かるように発言し、相手の発言を受けて議論できるようになることも目標です。ゼミ2年間かけて、現代のヨーロッパの社会や文化の一端を理解・分析できるグローバルな職業人になることを目指し、この科目はその土台作りに相当します。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 現代ヨーロッパの価値観と社会（講義） 3. 日本語文献講読（1）： 分担を決めた講読 4. 日本語文献講読（2）： 分担を決めた講読 5. 日本語文献講読（3）： 分担を決めた講読 6. 日本語文献講読（4）： 分担を決めた講読 7. 日本語文献講読（5）： 分担を決めた講読 8. 日本語文献講読（6）： 分担を決めた講読 9. これまでのまとめと討論 10. 研究の進め方（演習） 11. 研究の調べ方（演習） 12. 主題研究（1）：中間的な研究のプレゼンテーション 13. 主題研究（2）：中間的な研究のプレゼンテーション 14. 主題研究（3）：中間的な研究のプレゼンテーション 15. 主題研究（4）：中間的な研究のプレゼンテーション
<div>準備学習(予習)</div> <p>発表担当回は当然のこととして、そうでない回も、必ずテキストに目を通し、分からない用語などは調べ、議論に備えること。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>発表担当回は当然のこととして、そうでない回も、必ずテキスト、および発表内容を振り返り、問題点などを点検確認すること。</p>	
	<div>評価方法</div> <p>(1)発表点:60% (2)討論への参加度:20% (3)平常点:20%</p>

専門演習(国際理解)

担当者：M. サベット

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

1. 自らの文化、歴史、社会の基本的要素の知識を深める。
2. コミュニケーションとは何か、そして自らの文化や歴史が、どのように人との接し方に影響を与えるかについて理解を深める。
3. コミュニケーションと国際理解のバリアについて考える。
4. コミュニケーション能力と国際理解の知識、スキル、考え方を身に付けることを目標とする。
5. 他国の人々や文化に理解と尊敬と責任を表す。

2. 学びの意義と目標

Students will have a deeper understanding of their own culture while at the same time show respect and understanding for other cultures.

準備学習(予習)

Students must search for information and data in order to be prepared for discussions in the classroom.

準備学習(復習)

Students will be asked to do further reading and research on topics discussed in the class.

授業計画

1. Introduction to the course
2. Meaning of culture
3. Basic elements of Japanese culture
4. Basic elements of Japanese culture
5. Meaning of communication
6. Influence of culture on communication
7. Meaning of internationalization
8. Barriers to communication; prejudice and discrimination
9. Barrier to communication; stereotyping
10. Eliminating barriers through empathy
11. Eliminating barriers through respect and reflection
12. Becoming familiar with major global issues
13. Becoming familiar with major global issues
14. Presentation
15. Presentation

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)Attendance:15% (2)Participation:15% (3)Presentation:30% (4)Final Report:40%

専門演習(児童英語教育)

担当者：東 仁美

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>文献の読み合わせをしながら、子どもが英語を学ぶことを理論と実践の両面から考えていく。授業は担当者による発表と活動の紹介の形で進める。発表者はレジメを準備し、事前に決められた分担部分についてのまとめ、解説を行なう。</p> <p>小学校、幼稚園、民間の英語教室及び中高の英語科の授業を見学するフィールドワークを課題として行い、授業の中で授業見学の報告を行う。学期中に各自興味のある文献を一冊読み、ブックレビューをまとめる。ブックレビュー集を作成することにより、英語教育の様々な分野の情報交換をし、卒業研究のテーマ決定の題材としていく。</p>	<div>授業計画</div> <div>1.ガイダンス</div> <div>2.子どもが英語を学ぶとは</div> <div>3.学びを中心にした英語の授業</div> <div>4.コミュニケーション活動としてのリスニングとスピーキング</div> <div>5.リスニングのアクティビティ</div> <div>6.スピーキングのアクティビティ</div> <div>7.子どもの外国語学習におけるリタラシー能力の発達</div> <div>8.リーディングのアクティビティ</div> <div>9.ライティングのアクティビティ</div> <div>10.子どもの外国語学習における語彙習得と文法学習</div> <div>11.語彙習得のためのアクティビティ</div> <div>12.文法習得のためのアクティビティ</div> <div>13.子どもの外国語学習の目標、測定、評価</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>卒業研究での研究テーマを決めていくプロセスとして、専門演習 では小学校英語教育についての知識を深め、自分の興味分野を絞り込んでいく。</p>	<div>14.図書館ガイダンス</div> <div>15.ブックレビュー発表</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>発表の担当者は事前にレジメを提出し、発表内容について指導を受けること。</p> <p>テキストの該当箇所を事前に読んで授業に参加すること。</p>	<div>教科書</div> <p>アレン玉井光江 『小学校英語の教育法 理論と実践』(大修館書店)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>授業見学のレポートには、ハンドアウトなども添付し、クラスで発表できるよう詳細にまとめておくこと。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)出席、参加:40% (2)プレゼンテーション:30% (3)レポート:30%</p>

専門演習(比較文化)

担当者：稲田 敦子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

異文化との出会いは、新しい認識の出発となる。
私たちがあたりまえであり、特に何の疑問を抱かなかったことが、他の文化圏の人々にとっては非常な驚きであることがある。異文化に触れるということは、自分がそれまで、当然であると思っていたことや価値観などを捉え直して行く機会があたえられるということである。この演習では基本的な文献（J.Saywell, “ Beneath the Surface ” ）を中心に、主題の内容を検討し、テーマ別の発表も行う。
欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。

2.学びの意義と目標

本演習の目標は、比較文化を学ぶ上での基礎的な資料を原文を通して読み解き、理解することを通して、専門性への足がかりとすることである。

準備学習(予習)

ゼミでの資料を事前に予習し、キーワードおよびトピック・センテンスを提示すること。

準備学習(復習)

自分のテーマ発表のミニレポートを書くこと。

授業計画

1. オリエンテーション:比較文化の複眼的な視点
2. 資料解説:「沈黙の言葉」の意味
3. 資料解説:文化の2つの側面
4. 資料にみる異文化心理（1）
5. 資料にみる異文化心理（2）
6. 比較文化の諸問題:事例研究（1）
7. 比較文化の諸問題:事例研究（2）
8. 異文化衝突:事例研究（1）
9. 異文化衝突:事例研究（2）
10. 異文化交流事例研究（1）
11. 異文化交流事例研究（2）
12. 項目別テーマ発表（1）
13. 項目別テーマ発表（2）
14. 項目別テーマ発表（3）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)テーマ別レポート:50% (2)プレゼンテーション:25%
(3)授業への参加度:25%

専門演習(比較文化)	
担当者：稲田 敦子	
開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
講義概要 1.内容 専門演習I（比較文化）をふまえて、それぞれに異なった文化を背景とする個別の具体的事例をとりあげることにより、目に見える表層的なものだけではなく、その奥にある目に見えない深層の部分にも踏み込んで考えながら、視野を広げ、柔軟に考えていく一助になることを期待している。 欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。	授業計画 1. Path to the Presentをめぐる歴史的背景（１） 2. Path to the Presentをめぐる歴史的背景（２） 3. Path to the Presentをめぐる歴史的背景（３） 4. 資料にみる異文化心理（１） 5. 資料にみる異文化心理（２） 6. 項目別テーマ発表（１） 7. 項目別テーマ発表（２） 8. 項目別テーマ発表（３） 9. 異文化衝突をめぐる文化心理 10. 異文化衝突:事例研究（１） 11. 異文化衝突:事例研究（２） 12. 異文化交流事例研究（１） 13. 異文化交流事例研究（２） 14. レポート集製本（１） 15. レポート集製本（２）
2.学びの意義と目標 本演習の目標は、比較文化を学ぶ上での基礎的な資料を原文を通して読み解き、理解することを通して、専門性への手がかりとすることである	
準備学習(予習) 事前に配布されている講読資料を読み、キーワード、トピックセンテンスを提示すること。またテーマ発表の準備をしておくこと。	
	教科書 授業の中で指示する
準備学習(復習) 各自のテーマ発表の準備として、ミニレポートを作成する。	評価方法 (1)テーマ別レポート:50% (2)プレゼンテーション:25% (3)授業への参加度:25%

専門演習(フランス文学)

担当者：鹿瀬 颯枝

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この授業は、講義科目ではなく専門演習ですから、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思います。

最初は、ゼミ生全員にフランス語基礎力とフランス文学の基礎知識を確かなものにするため、やさしいフランス語教材を使用しながら、フランス文学への関心を高めます。

第二段階で個々の関心分野、研究したい分野を報告してもらい、共通文学テキストを決め、精読に入っていきます。この段階から各人の研究発表も順次行います。

第三段階、仕上げの段階では、次の秋学期に始まる「卒業研究」に向けて、研究テーマについて全員で議論を重ね、参考文献などについてもアドヴァイスをしながら、まとめていく予定です。

テキストは、Jacques Prévert "Paroles" で導入、続いて永遠のベストセラーAntoine de Saint-Exupéry "Petit Prince" を精読していきたいと考えています。

2.学びの意義と目標

フランス語を1年次&2年次と習得した学生たちが、さらに実力をつけながら、フランス文学への関心を高め、原書で読む愉しみを味わってほしいと願っています。欧米文化への導入をフランス文学から始めます。

準備学習(予習)

- 1) 常にフランス語の基礎力向上のため、楽しみながら努力をしましょう
- 2) テキストの予習(下調べをする)

準備学習(復習)

- 1) 常にフランス語の基礎力向上のため、楽しみながら努力をしましょう
- 2) テキストの復習(まとめてノートする)

授業計画

1. フランス文学ゼミへの導入ガイダンス
2. Jacques Prévert "Paroles" 講読 (1)
3. Jacques Prévert "Paroles" 講読 (2)
4. Jacques Prévert "Paroles" 講読 (3)
5. Jacques Prévert "Paroles" 講読 (4)
6. Jacques Prévert "Paroles" 講読 (5)
7. Jacques Prévert "Paroles" 講読 (6)
8. まとめ & 精読するための文学作品を決定
9. Antoine de Saint-Exupéry "Petit Prince" 精読 (1)
10. Antoine de Saint-Exupéry "Petit Prince" 精読 (2)
11. Antoine de Saint-Exupéry "Petit Prince" 精読 (3)
12. Antoine de Saint-Exupéry "Petit Prince" 精読 (4)
13. Antoine de Saint-Exupéry "Petit Prince" 精読 (5)
14. Antoine de Saint-Exupéry "Petit Prince" 精読 (6)
15. まとめ & 演習 I I のための各人研究発表プラン決定

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)授業出席:50%:積極的な授業参加が最小限の条件です
(2)研究発表:25% (3)研究レポート:25%

専門演習(フランス文学)

担当者：鹿瀬 颯枝

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この授業は、講義科目ではなく専門演習ですから、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思います。

最初は、ゼミ生全員にフランス語基礎力とフランス文学の基礎知識を確かなものにするため、やさしいフランス語教材を使用しながら、フランス文学への関心を高めます。

第二段階で個々の関心分野、研究したい分野を報告してもらい、共通文学テキストを決め、精読に入っていきます。この段階から各人の研究発表も順次行います。

第三段階、仕上げの段階では、次の秋学期に始まる「卒業研究」に向けて、研究テーマについて全員で議論を重ね、参考文献などについてもアドバイスをしながら、まとめていく予定です。

テキストは、Jacques Prévert " Paroles "で導入、続いて永遠のベストセラーAntoine de Saint-Exupéry "Petit Prince"を精読していきたいと思います。

2.学びの意義と目標

フランス語を1年次&2年次で習得した学生たちが、さらにフランス語を磨き、フランス文学へと関心を広げ、原書で読む愉しみを味わってほしいと願っています。欧米文化への導入をフランス文学から始めます。

準備学習(予習)

- 1) 常にフランス語の基礎力をつけるため、楽しみながら努力をしましょう
- 2) テキストの予習 & 発表前の準備

準備学習(復習)

- 1) 常にフランス語の基礎力をつけるため、楽しみながら努力をしましょう
- 2) テキストの復習 & 発表後のレポート作成

授業計画

1. 演習ⅠからⅡへ テキスト精読 & 各人研究発表について
2. Saint-Exupéry "Petit Prince" (1) & 研究発表 (1)
3. Saint-Exupéry "Petit Prince" (2) & 研究発表 (2)
4. Saint-Exupéry "Petit Prince" (3) & 研究発表 (3)
5. Saint-Exupéry "Petit Prince" (4) & 研究発表 (4)
6. Saint-Exupéry "Petit Prince" (5) & 研究発表 (5)
7. 口頭発表した研究レポート提出に向けての指導
8. まとめ
9. 「卒業研究」のテーマについて (1)
10. 「卒業研究」のテーマについて (2)
11. 「卒業研究」のテーマについて (3)
12. 「卒業研究」のテーマについて (4)
13. 各人の研究テーマ発表
14. 各人の研究テーマ発表
15. 総括

教科書

Antoine de Saint-Exupéry 『Le Petit Prince』 (Folio)

評価方法

- (1)授業出席:50%:積極的授業参加が最小限の条件です (2)研究発表:25% (3)研究レポート:25%

専門演習(ヨーロッパ史)

担当者：和田 光司

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>この授業では、「砂糖の世界史」をテキストにし、各学生がその中の中から関心がある部分を選択して発表する。このテキストは現在史学界で注目されている世界システム論の入門書としては最適であり、それにより現代の歴史学の発想方法に触れることができるであろう。</p>	<div>授業計画</div> <div>1.オリエンテーション 1</div> <div>2.オリエンテーション 2</div> <div>3.オリエンテーション 3</div> <div>4.教科書の内容を各自発表 1</div> <div>5.教科書の内容を各自発表 2</div> <div>6.教科書の内容を各自発表 3</div> <div>7.教科書の内容を各自発表 4</div> <div>8.教科書の内容を各自発表 5</div> <div>9.教科書の内容を各自発表 6</div> <div>10.教科書の内容を各自発表 7</div> <div>11.教科書の内容を各自発表 8</div> <div>12.教科書の内容を各自発表 9</div> <div>13.教科書の内容を各自発表 1 0</div> <div>14.教科書の内容を各自発表 1 1</div> <div>15.教科書の内容を各自発表 1 2</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>レジュメの作成、およびプレゼンテーションに慣れる。この段階は入門と位置づける。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>発表者は自分の担当分の発表を準備する。レジュメを作成しリハーサルを行っておく。担当に当たっていない学生は次回該当箇所を読んでおく。</p>	<div>教科書</div> <p>川北 稔 『砂糖の世界史 (岩波ジュニア新書)』 (岩波書店)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>他学生や教員からのコメントを参考にして、再度レジュメを作り直す。また反省点に注意し、もう一度自分でプレゼンテーションを行ってみること。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)平常点:40% (2)授業内発表:60%</p>

専門演習(ヨーロッパ史)

担当者：和田 光司

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この授業では、専門演習Ⅰの延長線上にプレゼンテーション能力の一層の向上を図る。第二次世界大戦についてすでに通達した小テーマから各学生関心がある部分を選択して発表する。同じテーマを様々な角度より眺めることにより、歴史的視点の多様性、重層性を学んでいく。また、専門演習Ⅰからさらに進んで、細かい評価表により学生相互に批評を行うことにより、プレゼンテーション能力をより発展させる。

2.学びの意義と目標

プレゼンテーション技術の向上。相互評価による他者からの批判に柔軟に対応しうる人格性の養育、複史的歴史理解力の養成

準備学習(予習)

自分の発表の準備を行う。構想を立て、資料を集め、読み、分析し、レジュメを作成する。発表の前にリハーサルを行う。また第二次世界大戦の通史やTV番組、映画などでこの分野に親しむ。

準備学習(復習)

他学生からの評価をもとに、反省点に注意してレジュメを作成し直す。また同様に自分でもう一度プレゼンテーションを試みる。

授業計画

1. オリエンテーション 1
2. オリエンテーション 2
3. オリエンテーション 3
4. 各自自分のテーマを発表 1
5. 各自自分のテーマを発表 2
6. 各自自分のテーマを発表 3
7. 各自自分のテーマを発表 4
8. 各自自分のテーマを発表 5
9. 各自自分のテーマを発表 6
10. 各自自分のテーマを発表 7
11. 各自自分のテーマを発表 8
12. 各自自分のテーマを発表 9
13. 各自自分のテーマを発表 1 0
14. 各自自分のテーマを発表 1 1
15. 各自自分のテーマを発表 1 2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:40% (2)授業内発表:60%

卒業研究(Pop Culture)

担当者：K . O . アンダスン

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

Casablanca』、『The Third Man』についてより深く調査・研究し、オーラル・レポートと小論文の書き方を学ぶことに重きを置く。

This course is a continuation of Semmon Enshu I and II (Pop Culture I and II).

2.学びの意義と目標

調査・研究方法と小論文の書き方を学ぶ。Students should become aware of World War II and how it influenced the making of Casablanca, The Third Man, and Roman Holiday. they should be able to compare all three long films with each other and compare and contrast the protagonists and antagonists of the three films.

授業計画

1. Casablanca
2. Casablanca, continued
3. Casablanca, continued
4. Casablanca, continued
5. Casablanca, continued
6. Casablanca, continued
7. Casablanca, continued
8. Casablanca, continued
9. Casablanca, continued
10. The Third Man, introduction and research
11. The Third Man, oral reports
12. The Third Man, continued
13. The Third Man, continued
14. The Third Man, continued
15. Review for the final exam

準備学習(予習)

Students should prepare for class by watching DVD scenes at home and familiarizing themselves with the history behind the scenes, the meaning of the script, and the techniques involved in filming.

教科書

授業の中で指示する

準備学習(復習)

After watching a scene, students should be prepared to discuss such concepts as foreshadowing, flashback, metaphor, motivation, etc., in relation to the films and their own lives.

評価方法

(1)attendance :10% (2)homework:30% (3)quizzes:30% (4)final exam:30%

卒業研究(Pop Culture)

担当者：K . O . アンダスン

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この卒業研究は2012年度秋学期卒業研究Iの継続である。In this course students will finish watching the final long film, Roman Holiday, and also finally wrap up the writing and revision of their long essays on themes related to the cinema.

2.学びの意義と目標

It is hoped that the process, over four seminars, will have sharpened students' critical thinking, deepened their knowledge and awareness of world film, and help them reflect on their own culture and that of others.

準備学習(予習)

Students should be familiar with each scene and the script before they come to class in order to discuss the scenes. They should conduct research on background history in order to better understand the film.

準備学習(復習)

After watching a scene, students should review the scenes they have watched and go over the script again to confirm their understanding of the film and to better appreciate the art in the making of the film.

授業計画

1. The Third Man discussion
2. The Third Man discussion, continued
3. The Third Man, continued
4. Roman Holiday introduction and background research
5. Roman Holiday DVD viewing
6. Roman Holiday DVD viewing, homework chapters 1-3
7. Roman Holiday, episodes 1,2,3, continued
8. Roman Holiday, episodes 1,2,3 continued
9. Roman Holiday, episodes 4,5,6 continued
10. Roman Holiday, episodes 4,5,6 continued
11. Roman Holiday episodes 7,8,9 continued
12. Roman Holiday episodes 7,8,9
13. Roman Holiday episodes 10,11,12
14. Roman Holiday episodes 10, 11, 12 continued
15. review for the final exam

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)attendance :10% (2)homework:30% (3)quizzes:30% (4)final exam:30%

卒業研究(アメリカ文化)

担当者：柴田 史子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容 アメリカ社会、アメリカ文化の範囲で各自が選んだテーマで4000字程度の研究レポートを執筆する。進捗状況を報告し、質疑応答をすることを通して、批判への免疫力をつけ、また討論や説得の仕方を習得する。</div>	<div>授業計画</div> <div>1. レポート・論文の書き方についての講義</div> <div>2. レポートのテーマの発表と質疑応答</div> <div>3. 参考文献の見つけ方</div> <div>4. 目次の提出と質疑</div> <div>5. レポートの進捗状況報告</div> <div>6. レポートの進捗状況報告</div> <div>7. レポートの進捗状況報告</div> <div>8. レポート第一章口頭発表</div> <div>9. レポートの進捗状況報告</div> <div>10. レポートの進捗状況報告</div> <div>11. レポートの進捗状況報告</div> <div>12. レポートの進捗状況報告</div> <div>13. レポートの進捗状況報告</div> <div>14. レポートの進捗状況報告</div> <div>15. レポートの進捗状況報告</div> <div>16. レポート第二章口頭発表</div> <div>17. レポートの進捗状況報告</div> <div>18. レポートの進捗状況報告</div> <div>19. レポートの進捗状況報告</div> <div>20. レポートの進捗状況報告</div> <div>21. レポートの進捗状況報告</div> <div>22. レポートの進捗状況報告</div> <div>23. レポートの進捗状況報告</div> <div>24. レポート第三章口頭発表</div> <div>25. レポートの進捗状況報告</div> <div>26. レポートの進捗状況報告</div> <div>27. レポートの進捗状況報告</div> <div>28. レポートの進捗状況報告</div> <div>29. 最終稿の確認</div> <div>30. レポート集制作</div>
<div>準備学習(予習)</div> <div>自分のテーマについて毎週報告できるように、各自で調査を進めること</div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div>
<div>準備学習(復習)</div> <div>報告に対して受けたコメントや批判を書きとめ、参考にとすること</div>	<div>評価方法</div> <div>(1)平常点:20% (2)口頭発表:30%:4回 (3)中間レポート:10%:冬季休暇明けに提出 (4)卒業研究レポート:40%</div>

卒業研究(英語学)	
担当者：加曽利 実	
開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>卒業研究(英語学)I では、やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、「インド・ヨーロッパ語族」をめぐって議論を深化させていきたいと思っています。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。</p> <p>2.学びの意義と目標</p> <p>インド・ヨーロッパ語族を中心として、英語だけでなく、世界の言語についても考えます。特に、英語と日本語の言語構造的異同について議論します。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション テキストの輪読:「インド・ヨーロッパ語族」1 テキストの輪読:「インド・ヨーロッパ語族」2 テキストの輪読:「インド・ヨーロッパ語族」3 テキストの輪読:「インド・ヨーロッパ語族」4 テキストの輪読:「インド・ヨーロッパ語族」5 テキストの輪読:「インド・ヨーロッパ語族」6 テキストの輪読:「インド・ヨーロッパ語族」7 テキストの輪読:「インド・ヨーロッパ語族」8 テキストの輪読:「インド・ヨーロッパ語族」9 テキストの輪読:「インド・ヨーロッパ語族」10 テキストの輪読:「文法について」1 テキストの輪読:「文法について」2 テキストの輪読:「文法について」3 総合的なまとめ
<div>準備学習(予習)</div> <p>毎回、全員に当たるので、各自、予習・復習ノートを作成し、テキストを翻訳しておいて下さい。このノートは、提出してもらい、評価の一部とします。</p>	<div>教科書</div> <p>Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』(三修社)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>復習も、励行して下さい。授業後、なるべく早期に復習すること。繰り返し復習すると、より効果的に記憶に定着します。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)課題レポート:30% (4)期末試験:40%</p>

卒業研究(英語学)

担当者：加曽利 実

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容 ソシユールの構造主義言語学について研究を深化させます。また、意味論の究極的目的と考えられる比較文化論についても、日米比較文化論の英語プリント教材を輪読することによって考究します。また、憲法談義の盛んな今日、学生の皆さんの将来を鑑みて、英語で日本国憲法を読む必要があると思い、これも授業に入れることとします。最初の授業時に、プリントで授業の詳細について説明します。</div>	<div>授業計画</div> <div>1.オリエンテーション 2.ソシユール入門 3.ソシユール理論1 4.ソシユール理論2 5.ソシユール理論3 6.ソシユール理論4 7.日米比較文化論1 8.日米比較文化論2 9.日米比較文化論3 10.日米比較文化論4 11.英語で日本国憲法を読む1 12.英語で日本国憲法を読む2 13.英語で日本国憲法を読む3 14.英語で日本国憲法を読む4 15.総合的なまとめ</div>
<div>準備学習(予習)</div> <div>毎回、全員に当たります。テキスト及びプリント教材を熟読し、必ず予習して、授業に臨みましょう。予習・復習ノートを提出してもらい、これを評価の一部とします。</div>	<div>教科書</div> <div>丸山圭三郎『言葉とは何か』(ちくま学芸文庫) 講談社『日本国憲法』(講談社学術文庫678)</div>
<div>準備学習(復習)</div> <div>必ず復習を励行すること。毎回、授業終了後、なるべく早期に復習をして下さい。繰り返し復習すると、より効果的に記憶に定着します。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1)出席及び態度:20% (2)予習・復習ノート:10% (3)課題レポート:30% (4)期末試験:40%</div>

卒業研究(英米文学)	
担当者：氏家 理恵	
開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容 「専門演習」に引き続き、前半はレポート合評会、後半は発表とディスカッションを行う。発表する際には事前にレジюмеを作成し、担当部分のまとめ・調べてきたこと・考察を述べてもらう。なお、各自の卒業研究テーマについても発表する機会を持ち、ディスカッションを通してそれぞれの研究テーマ決定への足掛りとする。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. レポート合評会 1 3. レポート合評会 2 4. レポート合評会 3 5. レポート合評会 4 6. 研究の進め方について - 理論と方法 7. 研究テーマ発表 1 8. 研究テーマ発表 2 9. 発表とディスカッション 1 10. 発表とディスカッション 2 11. 発表とディスカッション 3 12. 発表とディスカッション 4 13. 卒業研究アウトライン発表 1 14. 卒業研究アウトライン発表 2 15. まとめ - 卒業研究II・卒業論文に向けて
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>「専門演習」I・IIでは、作品を読みながら作品分析に慣れると共にレジюмеの作り方や発表の仕方を身につけた。「卒業研究I」では、引き続きレジюмеやレポートの書き方、プレゼンテーションの仕方の指導を行う。また、授業最終時までに各自の卒業研究テーマを決定し、簡単な研究計画とレポート・卒業論文への準備をする期間とする。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>予習は必ずしてくること。発表にあたってはあらすじ・ポイントをまとめるだけでなく、調べたことも含めて発表レジюмеをワープロで作成すること。</p>	
<div>準備学習(復習)</div> <p>読んでいる作品の物語のポイントを常に復習し、まとめておくこと。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
	<div>評価方法</div> <p>(1)平常点 :30% (2)課題 :20% (3)発表 :30%:レジюме作成含む (4)期末レポート :20%</p>

卒業研究(英米文学)

担当者：氏家 理恵

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容 ＜ゼミ＞での学びの集大成として、卒業研究レポートとその論集を作成する。まず、「卒業研究I」で作成した各自の卒業研究テーマに関するレポートを題材にして、アウトライン作成・引用の仕方・注の書き方・画像の使い方など、全員に共通する注意事項をお互いに添削しながら確認する。また、数本ずつ合評をしていき、それぞれの課題を明らかにする。最後に、書式や表現なども含め、説得力のある論理的なレポート作成をするためのポイントの最終確認をしながら、卒業研究レポートを完成させる。</div>	<div>授業計画</div> <div>1. イントロダクション - 卒業研究経過報告</div> <div>2. アウトライン再確認</div> <div>3. レポート完成までの諸注意</div> <div>4. 卒業研究Iレポート合評会 1</div> <div>5. 卒業研究Iレポート合評会 2</div> <div>6. レポート的な文章表現について</div> <div>7. 卒業研究Iレポート合評会 3</div> <div>8. 卒業研究Iレポート合評会 4</div> <div>9. 卒業研究Iレポート合評会 5</div> <div>10. レポート・論文の書式について（確認）</div> <div>11. レポート再提出と総評</div> <div>12. 個別面談 1 / 相互コメント作成</div> <div>13. 個別面談 2 / 相互コメント作成</div> <div>14. 最終レポート提出と相互チェック</div> <div>15. 論集作成</div>
<div>準備学習(予習)</div> <div>卒業研究レポートの合評会に向けて、お互いのレポートのチェックを随時行うこと。自分の卒業研究レポートの完成に向けて、自分の分析・考察を入れ、オリジナリティをできるだけ出せるように常に考えていること。</div>	<div>教科書</div> <div>プリントを配布する</div>
<div>準備学習(復習)</div> <div>合評会で確認したレポートのポイントに基づきながら卒業研究レポートを作成すること。最終レポートは原稿用紙換算20枚以上を目指す。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1)平常点:30% (2)課題:30% (3)期末レポート:40%</div>

卒業研究(外国語教授法)

担当者：長崎 睦子

開講期：春学期集中 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容 卒業研究Iで提出した研究計画書を基に卒業研究レポートを完成させる。各自が興味・疑問を持ち決定した卒業研究の議題についてさらに調べ、分析、考察し、自分の考えをまとめ、読み手に向けて論文を書く。</div>	<div>授業計画</div> <div>1. 卒業研究レポートの書き方、資料収集 2. 卒業研究レポートの書き方、資料収集 3. 研究の経過報告 1 & ディスカッション 4. 研究の経過報告 1 & ディスカッション 5. 研究の経過報告 1 & ディスカッション 6. 原稿（ドラフト）の提出 7. 研究の経過報告 2 & ディスカッション 8. 研究の経過報告 2 & ディスカッション 9. 研究の経過報告 2 & ディスカッション 10. 最終原稿の提出 11. 卒業研究レポート集の作成 12. 卒業研究レポートの発表 13. 卒業研究レポートの発表 14. 卒業研究レポートの発表 15. 総括</div>
<div>準備学習(予習)</div> <div>発表や原稿提出の期限を守るよう、計画的に準備をすすめる。</div>	<div>教科書</div> <div>授業の中で指示する</div>
<div>準備学習(復習)</div> <div>授業でのフィードバックを受け、レポートを修正していく。</div>	<div>評価方法</div> <div>(1)平常点:30%:授業へ取り組み、ディスカッションへの参加などから判断 (2)卒業研究レポート:40% (3)卒業研究レポート発表:30%</div>

卒業研究(キリスト教文化)

担当者：E . D . オズバーン

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

1. Content – This course is designed to train students to do academic research on a topic related to themes on Christianity and culture that were covered in the Specialty Seminar courses in preparation for producing a graduation thesis during their final year at Seigakuin. Students will select a topic of particular interest to them and will then do in-depth research on it, reporting their progress and results during class discussions. The culmination of their effort will be an individual academic research paper at the end of the semester.

2. Role in the Curriculum – This course is available to third-year European-American Culture Dept. students during the Fall Semester and is meant to build upon the skills learned in the Specialty Seminar series. All third-year students are required to take and pass a Graduation Research Seminar.

2.学びの意義と目標

Learning Objective – The primary objectives are for students to develop in-depth knowledge of a topic related to Christianity and culture by doing academic research on it and then articulating the results in a properly formatted research paper.

授業計画

1. Course Introduction
2. Overview of potential research topics
3. Conducting academic research I
4. Conducting academic research II
5. MLA research writing style guidelines I
6. MLA research writing style guidelines II
7. MLA research writing style guidelines III
8. Individual research topic selection
9. Interim report and discussion I
10. Interim report and discussion II
11. Interim report and discussion III
12. Interim report and discussion IV
13. Interim report and discussion V
14. ACADEMIC RESEARCH PAPER
15. PRESENTATION

準備学習(予習)

- Students are expected to complete readings and do library research on their individual topics. They will then articulate their findings during group discussions.

準備学習(復習)

- Students must individually conduct academic research outside of class on a regular basis and produce written interim reports on their progress.

教科書

Various authors *MLA handbook for writers of research papers (7th ed.)_a (The Modern Language Association of America)

評価方法

(1)class attendance and participation :20% (2)interim reports :20% (3)academic research paper:40% (4)presentation on the research paper :20%

卒業研究(言語と社会)

担当者：D . バーガー

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>このゼミでは言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語とグローバル社会」/「Language in Society」と並行するが、専門演習I、IIと同様に、より深く追求することができる。卒業研究Iの主要課題は危機言語と言語復興である。主に、アイヌ語、琉球語、ハワイ語、アメリカ先住民の諸言語を始め、それぞれの社会において英語と日本語がその言語の危機状態に貢献する役割を果たすことを研究する。受講生は各課題について研究し、書面でも口頭でも発表する。学期末にその課題の中から1つ選び、または専門演習I、IIに調べたテーマを続き、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められている。</p>	<div>授業計画</div> <div>1. 授業紹介、卒業研究Iの課題の紹介: 少数言語、危機言語、言語死、言語復興</div> <div>2. 少数言語、危機言語、言語衰退、言語復興</div> <div>3. アイヌ語の例</div> <div>4. 北海道旧土人保護法、アイヌ文化振興法</div> <div>5. アイヌ語についての独自の研究発表</div> <div>6. 琉球語の例</div> <div>7. 琉球語の例</div> <div>8. 琉球語についての独自の研究発表</div> <div>9. ハワイ語の例</div> <div>10. ハワイ語の例</div> <div>11. ハワイ語についての独自の研究発表</div> <div>12. アメリカ先住民の諸言語の例</div> <div>13. アメリカ先住民の諸言語の例</div> <div>14. アメリカ先住民の諸言語についての独自の研究発表</div> <div>15. 卒業研究I最終研究レポートの口頭発表</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>この演習の目的は、まず、日本は多言語社会であることを紹介することである。そして、日本とアメリカの危機言語についての理解を深めることである。国の結束に対する標準語の良い影響、または言語的や民族的多様性に対する標準語の悪影響を調べる。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>各章について独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)授業への出席:15% (2)授業での参加態度:15% (3)それぞれの課題についてのレポート:20% (4)その口頭発表:10% (5)最終研究レポートと口頭発表:40%</p>

卒業研究(言語と社会)	
担当者：D . バーガー	
開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>卒業研究IIの主要課題は差別語である。主に、日本とアメリカ社会における人種・民族差別語、性差別語、包括語（男女包括用語）について研究する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生は今までのゼミと同様に、各課題について研究し、書面でも口頭でも発表する。</p> <p>学期末にその課題の中から1つ選ぶか、または専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰで調べたテーマを引き続き調べ、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められている。卒業論文を書きたい学生はテーマを選び、研究を今学期中に始めるべきである。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業紹介、卒業研究IIの課題の紹介:差別語 2. 差別語 3. 人種、民族差別語と非差別語変革:日本語の例 (1) 4. 人種、民族差別語と非差別語変革:日本語の例 (2) 5. 先住民に対する差別語 (1) 6. 先住民に対する差別語 (2) 7. アフリカ系の人々に対する英語の差別語・非差別語変革 (1) 8. アフリカ系の人々に対する英語の差別語・非差別語変革 (2) 9. 差別語についての独自の研究 10. 性差別語と男女包括語変革：日本語の例 (1) 11. 性差別語と男女包括語変革：日本語の例 (2) 12. 性差別語と男女包括語変革:英語の例 (1) 13. 性差別語と男女包括語変革:英語の例 (2) 14. 性差別語と男女包括語変革：英語の例 (3) 15. 卒業研究II最終研究レポートの口頭発表
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>この演習の目的は社会における差別を考慮することである。日本とアメリカの社会で差別されている人々（女性を含む）を調べる。また、私たちの言語使用はその人々の存在を認めたり否定したりして、平等、または不平等な扱いに貢献する可能性があることを考慮する。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。</p>	
<div>準備学習(復習)</div> <p>各章について独自の研究を行い、書面と口頭で発表すること。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
	<div>評価方法</div> <p>(1)授業への出席:15% (2)授業での参加態度:15% (3)それぞれの課題についてのレポート:20% (4)その口頭発表:10% (5)最終研究レポートと口頭発表:40%</p>

卒業研究(現代ヨーロッパ事情)	
担当者：佐藤 啓介	
開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
講義概要 1.内容 専門演習で身につけた知識と技術を用いて、実際に自分で関心のあるテーマを選び、卒業研究IIで仕上げを目指し、また卒業論文につながるような研究を進めていきます。同時に、卒業研究Iでは、研究を具体的に進めるのに必要な情報検索技術、研究を他人に発表するのに必要なパワーポイントなどの活用法についても、指導をおこないます。	授業計画 1. イントロダクション 2. 各自の研究中間報告（１） 3. 各自の研究中間報告（２） 4. 各自の研究中間報告（３） 5. 各自の研究中間報告（４） 6. 専門的な文章の書き方（１） 7. 専門的な文章の書き方（２） 8. 情報検索（演習） 9. パソコン演習（１）： ワードの高度な使い方 10. パソコン演習（２）： パワーポイント応用講座 11. パソコン演習（３）： 良いパワーポイント、悪いパワーポイント 12. 卒業研究II・卒業論文へ向けて 13. 各自の研究テーマ報告（１） 14. 各自の研究テーマ報告（２） 15. 各自の研究テーマ報告（３）
2.学びの意義と目標 これまで体験することのなかった「まとまった分量の研究」を遂行できる力と技術を習得し、それによって、社会人として求められる調査力・考察力・発表力と、国際人として求められるグローバルな視点を養うことを目指します。	
準備学習(予習) 発表については、直前でできる作業ではないので、中期的～長期的な計画を立てて、自分の立てたテーマを調べてほしい。また、発表についても配布資料の作成など、丁寧な準備が望まれる。	
準備学習(復習) 自分の発表だけでなく、他人の発表も含めて、それぞれの発表に対して寄せられたコメントを振り返り、各自の研究を修正・発展するように。	教科書 プリントを配布する
	評価方法 (1)発表点:60% (2)討論への参加度:20% (3)課題実習:20%:パワーポイント課題など

卒業研究(現代ヨーロッパ事情)	
担当者：佐藤 啓介	
開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容 専門演習で身につけた知識と技術を用いて、実際に自分で関心のあるテーマを選び、卒業研究Iで準備してきた研究レポートの完成を目指します。卒業研究IIでは、卒業論文の執筆が可能になるために、大きなテーマを一つの文章にまとめる文章技法、人に伝わる表現技法など、文章指導を重視します。</p> <p>2.学びの意義と目標 これまで体験することのなかった「まとまった分量の研究」を遂行できる力と技術を習得し、それによって、社会人として求められる調査力・考察力・発表力・文章力と、国際人として求められるグローバルな視点を養うことを目指します。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 表現力を鍛える（１）： プレゼン技術の向上 3. 表現力を鍛える（２）： ディスカッション技術の向上 4. 各自の研究報告（１） 5. 各自の研究報告（２） 6. 各自の研究報告（３） 7. 相互に報告内容を批判しあう（１） 8. 相互に報告内容を批判しあう（２） 9. 各自の最終報告（１） 10. 各自の最終報告（２） 11. 各自の最終報告（３） 12. 各自の最終報告（４） 13. 各自の最終報告（５） 14. ゼミの総まとめ（１） 15. ゼミの総まとめ（２）
<div>準備学習(予習)</div> <p>発表については、直前でできる作業ではないので、中期的～長期的な計画を立てて、自分の立てたテーマを調べてほしい。また、発表についても配布資料の作成など、丁寧な準備が望まれる。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>自分の発表・レポートだけでなく、他人のそれに対しても寄せられたコメント・批判を振り返り、それを自分の研究レポートに反映させ、研究を修正することが望まれる。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)発表点:30% (2)研究レポート:50% (3)議論への参加度:20%</p>

卒業研究(児童英語教育)

担当者：東 仁美

開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>文献購読をしながら、卒業研究レポートのテーマ選び、研究方法の指導、論文作成にとりかかる。英語教育学の分野の中から、自分が興味を持てるテーマを選び、資料検索、データ集めを個別指導を交えながら行っていく。</p>	<div>授業計画</div> <div>1. 演習の概説</div> <div>2. テーマ設定</div> <div>3. 論文の書き方</div> <div>4. 資料検索</div> <div>5. テーマ発表、討論（１）</div> <div>6. テーマ発表、討論（２）</div> <div>7. テーマ発表、討論（３）</div> <div>8. 論文作成指導（１）</div> <div>9. 論文作成指導（２）</div> <div>10. 中間報告、討論（１）</div> <div>11. 中間報告、討論（２）</div> <div>12. 中間報告、討論（３）</div> <div>13. プレゼンテーション（１）</div> <div>14. プレゼンテーション（２）</div> <div>15. まとめ</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>専門演習、卒業研究のまとめとして、自分のテーマを深めるとともに卒論執筆に向けての準備をする。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>参考文献を積極的に検索し、資料を読み込む。自分のテーマを掘り下げて研究していくこと。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>レポートの添削指導の後には、修正レポートを作成し、再度提出する。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)出席、参加:30% (2)プレゼンテーション:30% (3)レポート:40%</p>

卒業研究(比較文化)	
担当者：稲田 敦子	
開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容 「専門演習」でとりあげた比較文化に関する文化を問題関心の領域として、各自が論文の主題を決定し、論文作成にとりくむ。ゼミ論文集を作成するために、個別指導、中間発表、走行の執筆を経て、論文を完成する研究態度の育成をする。</p> <p>2.学びの意義と目標 比較文化の専門演習および卒業研究の集大成として、各自の問題意識の醸成を促進するとともに、論文を仕上げることにより、主体的な学びの内実化」をめざす。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習の概略 2. 比較文化の基本資料の検索（１） 3. 比較文化の基本資料の検索（２） 4. 各主題をめぐるブックレポート（１） 5. 各主題をめぐるブックレポート（２） 6. テーマ別事例研究（１） 7. テーマ別事例研究（２） 8. テーマ別プレゼンテーション（１） 9. テーマ別プレゼンテーション（２） 10. 卒研レポート作成（１） 11. 卒研レポート作成（２） 12. レポート集準備作業 13. レポート集作成・製本（１） 14. レポート集作成・製本（２） 15. まとめ
<div>準備学習(予習)</div> <p>テーマ発表にむけて、事前の資料検索およびブックレポートを確実に行うこと。</p>	<div>教科書</div> <p>授業の中で指示する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>テーマ発表のあと、ミニレポートを作成すること。</p>	
	<div>評価方法</div> <p>(1)テーマ別レポート:50% (2)プレゼンテーション:25% (3)授業への参加度:25%</p>

卒業研究(比較文化)

担当者：稲田 敦子

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>比較文化論を問題関心の領域とし、「専門演習」および「卒業研究」Iでとりあげた文献を終身にして、論文の主題を決定し、章立ての内容をつめる。</p> <p>これまでの演習の集大成として、ゼミ論文集を作成するため、各履修者の主題についての個別指導、中間発表、草稿の執筆を経て、論文を完成する研究態度が身につくようにしたい。</p>	<div>授業計画</div> <div>1. 演習の概略</div> <div>2. 論文作成の基本作業（１）</div> <div>3. 論文作成の基本作業（２）</div> <div>4. 主題をめぐる資料検索</div> <div>5. 各主題をめぐるブックレポート（１）</div> <div>6. 各主題をめぐるブックレポート（２）</div> <div>7. 各主題をめぐるブックレポート（３）</div> <div>8. テーマ別事例研究（１）</div> <div>9. テーマ別事例研究（２）</div> <div>10. テーマ別事例建久（３）</div> <div>11. 基礎知識確認</div> <div>12. レポート集準備作業</div> <div>13. レポート集作成・製本（１）</div> <div>14. レポート集作成・製本（２）</div> <div>15. まとめ</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>比較文化の専門演習および卒業研究の集大成として、各自の問題意識の醸成を促進するとともに、論文を作成する基本作業としての資料検索および草稿段階の論理構成を学び、論文を完成させることを目標とする。</p>	<div>教科書</div> <p>授業の中で指示する</p> <div>評価方法</div> <p>(1)テーマ別レポート:50% (2)プレゼンテーション:25% (3)授業への参加度:25%</p>
<div>準備学習(予習)</div> <p>テーマ発表に向けて、事前の資料検索およびブックレポートを確実に行うこと。</p>	
<div>準備学習(復習)</div> <p>テーマ発表のあと、ミニレポートを作成すること。</p>	

卒業研究(フランス文学)	
担当者：鹿瀬 颯枝	
開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>この授業は、講義科目ではなく専門演習後の総仕上げとなる「卒業研究」ですから、引き続き、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきます。</p> <p>既に「専門演習（フランス文学）」の終了前に各人の卒業研究テーマが提出されていますので、変更のない限り、それに沿って指導していきます。それぞれが関心を持ったテーマについて十分に研究が成されるよう、参考文献などの紹介、レポート添削、中間発表などを充実させます。全員が満足のいくような研究レポートを仕上げられるように願っています。</p> <p>2.学びの意義と目標</p> <p>専門演習で学んだことから個別に研究テーマを決め、卒業研究レポートへと準備を進めます。仕上げに向けていく段階で、すでに一歩先の卒業論文を意識させたいと思います。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門演習終了時に決定したテーマの確認および変更報告 2. 各人の研究テーマについて&共同研究 （１） 3. 各人の研究テーマについて&共同研究 （２） 4. 各人の研究テーマについて&共同研究 （３） 5. 各人の研究テーマについて&共同研究 （４） 6. 各人の研究テーマについて&共同研究 （５） 7. 各人の研究テーマについて&共同研究 （６） 8. 各人の研究テーマについて&共同研究 （７） 9. 各人の研究テーマについて&共同研究 （８） 10. 中間発表&コメント（１） 11. 中間発表&コメント（２） 12. 中間発表&コメント（３） 13. 研究レポート仕上げに向けて(1) 14. 研究レポート仕上げに向けて(2) 15. 研究レポート仕上げに向けて(3)
<div>準備学習(予習)</div> <ol style="list-style-type: none"> 1）研究テーマの準備をしましょう。 2）参考文献3点以上読破しましょう。 	
	<div>教科書</div> <p>授業の中で指示する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <ol style="list-style-type: none"> 1）研究テーマの準備をしましょう。 2）参考文献3点以上読破しましょう。 	<div>評価方法</div> <p>(1)授業出席:40% (2)研究発表:20% (3)研究レポート:40%</p>

卒業研究(フランス文学)			
担当者：鹿瀬 颯枝			
開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位			
講義概要 1.内容 この授業は、講義科目ではなく専門演習後の総仕上げとなる「卒業研究」ですから、引き続き、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきます。 既に「専門演習（フランス文学）」の終了前に各人の卒業研究テーマが提出されていますので、変更のない限り、それに沿って指導していきます。それぞれが関心を持ったテーマについて十分に研究が成されるよう、参考文献などの紹介、レポート添削、中間発表などを充実させます。全員が満足のいくような研究レポートを仕上げられるように願っています。		授業計画 1. 研究レポート仕上げに向けて個別指導（１） 2. 個別指導（２） 3. 口頭発表＆コメント（１） 4. 口頭発表＆コメント（２） 5. 口頭発表＆コメント（３） 6. 研究レポート提出開始＆添削（１） 7. 研究レポート提出開始＆添削（２） 8. 研究レポート提出開始＆添削（３） 9. 全員の研究レポート提出最終締切 10. 「卒業研究レポート集」のコピー＆誤植チェック（１） 11. 「卒業研究レポート集」のコピー＆誤植チェック（２） 12. 「卒業研究レポート集」のコピー＆誤植チェック（３） 13. 「卒業研究レポート集」の製本 14. 「卒業研究レポート集」全員に配布 15. 総括	
2.学びの意義と目標 専門演習で学んだことから個別に研究テーマを決めたので、研究レポートの完成を目指すと同時に一歩先の卒業論文への意識を高めたいと思います。			
準備学習(予習) 1) 卒業研究レポートの準備をしましょう。 2) 仕上げプランの検討をお願いします。			
		教科書 授業の中で指示する	
準備学習(復習) 1 卒業) 研究レポートの準備をしましょう。 2) 仕上げプランの検討をお願いします。		評価方法 (1)授業出席:40% (2)研究発表:20% (3)研究レポート:40%	

卒業研究(ヨーロッパ史)

担当者：和田 光司

開講期：秋学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>(内容) 本講義では、専門演習で養成したプレゼンテーション能力を基礎として、これの実践的発展を志す。従来と同様細かい評価表により学生相互に批評を行う。また実社会での基礎スキルと見なされているパワーポイントの習得に努める。テーマとしては、各学生が欧米文化の中から自らの関心に合うものを自由に選択し、各自の知的関心を高める。</p>	<div>授業計画</div> <div>1. オリエンテーション、パワーポイント実習 1</div> <div>2. オリエンテーション、パワーポイント実習 2</div> <div>3. オリエンテーション、パワーポイント実習 3</div> <div>4. 各自自由発表 1</div> <div>5. 各自自由発表 2</div> <div>6. 各自自由発表 3</div> <div>7. 各自自由発表 4</div> <div>8. 各自自由発表 5</div> <div>9. 各自自由発表 6</div> <div>10. 各自自由発表 7</div> <div>11. 各自自由発表 8</div> <div>12. 各自自由発表 9</div> <div>13. 各自自由発表 1 0</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>パワーポイント技術の習得、歴史研究方法の理解、自由研究による自発的問題発見、解決能力の向上</p>	<div>14. 各自自由発表 1 1</div> <div>15. 各自自由発表 1 2</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>自分の発表の準備を行う。構想を立て、資料を集め、読解し、分析し、発表原稿を作りパワーポイントを作成する。また発表前にリハーサルを行う。</p>	<div>教科書</div> <p>授業の中で指示する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>他学生からのコメントをもとに、発表原稿、パワーポイントを作成し直す。もう一度プレゼンテーションを試みる。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)平常点:40% (2)授業内発表:60%</p>

卒業研究(ヨーロッパ史)	
担当者：和田 光司	
開講期：春学期 必修・選択：選択必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容 (内容) 本講義では、卒業研究Iに続いてプレゼンテーション能力の一層の実践的発展を志す。特に卒業レポート作成により文章力の向上を目指す。また他ゼミとの交流発表会により、より開かれた形でのプレゼンテーションの機会を持つ。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 自由発表 1 自由発表 2 自由発表 3 自由発表 4 自由発表 5 自由発表 6 自由発表 7 自由発表 8 自由発表 9 自由発表 1 0 自由発表 1 1 自由発表 1 2 自由発表 1 3 自由発表 1 4 自由発表 1 5
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>自由研究による知的関心の育成、問題解決能力の向上、文書作成技術の涵養、オープンな場での発表による対社会的なコミュニケーション力の向上</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>卒業レポート作成のための準備、調査、草稿執筆、研究発表のためのレジュメ、パワーポイント作成</p>	<div>教科書</div> <p>授業の中で指示する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>教員からの指示に基づき、レポートの訂正。発表後、反省点に従いレジュメ、パワーポイントの修正、自分でプレゼンテーションを再度試みる。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)平常点:40% (2)卒業レポート:40% (3)研究発表:20%</p>

大衆文化論

担当者：畠山 宗明

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

現代の社会が「大衆社会」と呼ばれるようになって久しいが、それに合わせて文化の中にも「大衆文化」と呼ばれる領域が考えられるようになった。この授業では、大衆文化がどのような歴史を持っているのか、そしてどのような広がりを持つものなのか考えてみたい。

2. 学びの意義と目標

空気のように当たり前に周りにあるせいで、あまり意識することのない大衆文化の歴史や背景を学ぶことで、現代の文化を広い視野から眺めることができるようになること、また大衆文化を学ぶことで、グローバル時代の文化の有り様を学ぶことが本講義の目的である。

準備学習(予習)

授業中に次の内容を予告するので、下に挙げた参考文献を中心に、該当する部分を予め予習しておくことが望ましい。

準備学習(復習)

配布したプリントやそこで示されている参考文献を元に、インターネットや図書館で調査を行うこと。

授業計画

1. イントロダクション 大衆文化とは？
2. イントロダクション 大衆社会 その様々な始まり
3. イントロダクション 大衆文化の両義性
4. 大衆文化の両義性 大衆文化の「浅さ」について
5. 大衆文化の両義性 大衆文化における精神と肉体
6. 大衆文化の両義性 大衆文化における機械と自然
7. 大衆文化の歴史 19世紀ヨーロッパ市民社会における大衆文化
8. 大衆文化の歴史 20世紀の大衆文化
9. 大衆文化の歴史 「大衆の時代」の始まり
10. 大衆文化の歴史 ビートルズ グローバル社会における大衆文化
11. 大衆文化とアメリカ なぜアメリカ文化が中心にあるのか？
12. 大衆文化とアメリカ アメリカ社会の特徴
13. 大衆文化とアメリカ 大衆文化とデモクラシー、そしてアメリカ
14. 前半のまとめ
15. 中間テスト
16. モダンとポストモダン 現代社会の大衆文化
17. モダンとポストモダン 「反抗の時代」とは何だったのか？
18. 大衆文化と「スタイル」 消費社会における「受け手」の問題
19. 大衆文化と「スタイル」 不良少年たち
20. 大衆文化と「スタイル」 ロックンロールとスタイル
21. 大衆文化と「スタイル」 消費社会の中の反抗
22. 大衆文化と「スタイル」 黒人音楽の中の政治
23. 大衆文化と「スタイル」 カウンター・カルチャー グローバル時代の「正しさ」を求めて
24. グローバリズムと大衆文化 ビートルズとは何だったのか
25. グローバリズムと大衆文化 パンクとレゲエ
26. グローバリズムと大衆文化 マイケル・ジャクソンというジャンル
27. 日本の大衆文化
28. 日本の大衆文化
29. 後半のまとめ
30. 全体のまとめ

教科書

プリントを配布する
教科書は指定しないが、参考文献としては大和田 俊之著『アメリカ音楽史 ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』（講談社選書メチエ）、ロバート・スクラー著『アメリカ映画の文化史 映画がつくったアメリカ』（講談社学術文庫）などがある。その他演歌やビートルズに関するものなど参考文献は随時提示する。

評価方法

(1)期末テスト:30% (2)中間テスト:30% (3)出席:20%
(4)ミニッツレポート:20%
中間試験と期末試験が大きな判断基準となるが、その他出席も考慮する。また、授業後にミニッツレポートの提出を求める場合がある。

多文化共生論	
担当者：稲田 敦子	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
講義概要 1.内容 多文化との出会いは、新しい認識の出発となる。この講義では、目に見える文化の領域だけではなく、その奥にある深層心理の部分にも光をあて事例研究をとおして、文化をめぐるはばひろくまた深い問題を¥を検討し、問題意識の醸成をはかる。	授業計画 1.文化とは何か 2.文化の重層性（１） 3.文化の重層性（２） 4.多文化共生の意味と支店（１） 5.多文化共生の意味と視点（２） 6.「国境を越えるもの・越えないもの」（１） 7.「国境を越えるもの・超えないもの」（２） 8.「12人の怒れる男たち」（１） 9.「12人の怒れる男たち」（２）と陪審制 10.「12人の優しい日本人」（１） 11.「12人の優しい日本人」（２）と裁判員制度 12.個人意識と集団意識（１） 13.個人意識と集団意識（２） 14.人間形成をめぐる事例研究（１） 15.人間形成をめぐる事例研究（２） 16.民族問題をめぐる事例研究（１） 17.民族問題をめぐる事例研究（２） 18.偏見の構造（１） 19.偏見の構造（２） 20.マイノリティの事例研究（１） 21.マイノリティの事例研究（２） 22.タブーとは 23.タブーの意味と文化装置 24.言葉のタブー（１） 25.言葉のタブー（２） 26.死生観をめぐる比較文化（１） 27.死生観をめぐる比較文化（２） 28.多文化共生への道（１） 29.多文化共生への道（２） 30.まとめ
2.学びの意義と目標 多様な文化のあり方を検討することにより、自己以外の他者や、自文化を取り巻く異文化を認識することによって、現代社会におけるグローバルな視点を育成することを目指している。	
準備学習(予習) 事前に配布しているの課題にとりくむこと。	教科書 授業の中で指示する
準備学習(復習) 各講義の基礎知識のフィードバックを確認する。	評価方法 (1)事例研究:20% (2)ブックレポート:20% (3)期末レポート:30% (4)授業への参加度:30%

哲学			
担当者：勝西 良典			
開講期：春学期/秋学期		必修・選択：必修科目	授業回数：週2回
		単位数：4単位	
講義概要 1.内容 何かについて根本的に理解すること、そして、そのような理解とはどのようなものかを明らかにすることが哲学の課題です。目の前に広がっていると同時に自分がそこに住んでいる世界の本当の姿とはいかなるものか、あるいは、そのような問いにかかわっている自分自身はいったいどんな存在なのかを問うためには、先達が練り上げた言葉が示す当座の理解内容に助けられながら、主体的にこの問いを引き受けて少しでもクリアーな答えを求めていくしかありません。 この講義では哲学の中心的テーマ、特に認識論、存在論、人間論と呼ばれるものを包括的に取り扱い、現代的な関心に引きつけながら、その解明に努めます。予備知識は前提とせず、諸テーマを哲学的・思想的に紹介したうえで問題それ自体を考察する方法を採ります。		授業計画 1. イントロダクション 2. 哲学の問いと個別科学の問い：知的関心の多様性 3. 知るとはいかなることか：認識の問題 4. 知られるものとは何か：認識論と存在論 5. 知ることの意義：哲学の問いの人間論的意義 6. 知る者とはいかなるものか：「存在」理解と自己認識 7. 自己同一性与他者とのかわり：孤立的存在 v s 関係的存在 8. 真理とは何か（１）：真理と知られるものとの関係 9. 真理とは何か（２）：真理と知る者との関係：精神形而上学 10. 「存在する」とはいかなることか（１）：個別性・特殊性と普遍性・一般性 11. 「存在する」とはいかなることか（２）：有限性（目に見えるもの）と（目に見えないもの）：存在論と形而上学 12. 善と価値（１）：知られるものとの関係：倫理学（１） 13. 善と価値（２）：知る者との関係と悪の問題：倫理学（２） 14. 美しいことと「存在」：美学・美術学 15. まとめ（１） 16. 問いを立てるものとしての人間：哲学と人間論 17. 身体としての人間 18. 経験するとはいかなることか：人間の生の根源的受容性 19. 主体性と自己意識 20. 応答するものとしての人間：人間の人格性 21. 人間の生を駆動するもの（１）：「存在」の知的肯定と価値的肯定 22. 人間の生を駆動するもの（２）：意思・自由・目的 23. 人生の意義の追求（１）：意義の個人的探求としての自律 24. 人生の意義の追求（２）：意義の社会的共有としての共同 25. 人生の意義の追求（３）：相対主義とニヒリズム 26. 人間の超越とのかかわり：宗教 27. 人称性と社会的共同の成立：愛 28. 態度決定としての語り：言語の多様性 29. 人間の時間性と歴史性 30. まとめ（２）	
2.学びの意義と目標 この講義を通して哲学的問題意識と思考力の発展をめざすともに、思考過程や理解内容を論理的に表現する力を養います。そうすることによって、たんなる受け売りではなく、自分で考える力が身につきます。			
準備学習(予習) ・教科書の関連箇所を読んでおくこと。 ・講義で扱う内容にかんする現時点での自分の考えをまとめておくこと。		教科書 ミシェル・オンフレ、嶋崎 正樹 『<反>哲学教科書』(NTT出版)	
準備学習(復習) ・配布プリントやノートなどを読み返し、講義で扱った内容にかんする哲学者の考えについて説明できるようにすること。 ・そうした内容にかんする自分の考えを整理すること。		評価方法 (1)中間レポート:30% (2)学期末レポート:40% (3)平常点:30%:授業態度、リアクションペーパー、授業中の発言を含む	

哲学

担当者：高橋 章仁

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（春学期）では、近代以降の哲学史の流れを、実際に哲学者が語ったテキストを通じて丹念にたどり、ともに考えながら、なるべくわかりやすく解説していきたいと思っている。なお、一人の哲学者の思想をじっくりと読みたいという人は、秋学期の「哲学」を受講されたい。

2.学びの意義と目標

取り上げる思想のどれもが、単なる過ぎ去った思想ではなく、現代にも十分通用しうるものを備えており、そこから学ぶべきところは決して少なくないはずである。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待している。

準備学習(予習)

毎回授業の最後に、次回取り上げる哲学者を伝達するので、何らかの哲学史の本などを利用して、その思想に関する予備的な知識を得ておくこと。詳しくは最初の授業のときに指示する。

準備学習(復習)

授業で提示されたテーマや事柄についてもう一度深く考え、可能な限り自分の言葉に置き換える努力してほしい。そうした言語化の作業を通じて、自身の立場や思想を明確にしていくことを求めたい。

授業計画

1. ガイダンスと哲学とは何か
2. 歴史的概観
3. デカルト（１） 近代的自我の確立
4. デカルト（２） 道徳の問題
5. スピノザ・ライプニッツ デカルトの克服
6. パスカル 理性と信仰
7. イギリス経験論（１） ロックとバークリ
8. イギリス経験論（２） ヒューム
9. 功利主義 ベンサムとＪ．Ｓ．ミル
10. カント（１） 理性の特殊な運命
11. カント（２） 義務と定言命法
12. カント（３） 自律とアンチノミー
13. フィヒテ 自我の三原則
14. ドイツ観念論の展開
15. ヘーゲル（１） 弁証法の確立
16. ヘーゲル（２） 自由と歴史
17. ショーペンハウアー 生への意志
18. キルケゴール 実存哲学の誕生
19. ニーチェ（１） 強者の生
20. ニーチェ（２） ニヒリズムを生きる
21. ハイデガー（１） 現存在と実存
22. ハイデガー（２） 死への存在
23. サルトル（１） 即自存在と対自存在
24. サルトル（２） 対他存在
25. 実存思想概観
26. ヤスパース（１） 交わり
27. ヤスパース（２） 限界状況・その１
28. ヤスパース（３） 限界状況・その２
29. マックス・ウェーバー 責任倫理
30. 理解度の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)学期末試験:70%:教場での論述試験を行う。
- (2)平常点:30%:出席・授業態度の他に、状況に応じて小テストを行う。

哲学

担当者：高橋 章仁

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（秋学期）では、20世紀ドイツの哲学者カール・ヤスパースの『哲学入門』（新潮文庫）を精読し、その思想を解説していく。「入門」を銘打った著作ではあるが、内容は必ずしも平易ではないので、哲学的な知識をつねに確認しながら、読み進めていくことにしたい。なお、様々な哲学者のテキストを読みたいという人は、春学期の「哲学」を受講されたい。

2.学びの意義と目標

哲学の正確な知識を身につけることは必要であるが、単なる暗記に終始しては意味がない。テキストの内容理解を深めることはもちろんであるが、自らが主体的に哲学と向き合うことを通じて、哲学することの意義を体感してほしいと思っている。

準備学習(予習)

次回読み進めることになる箇所を、予め読み込んでおくこと。そして、どこが分かって、どこが分からないかを把握したうえで、授業にのぞんでほしい。

準備学習(復習)

授業で提示されたテーマや事柄についてもう一度深く考え、可能な限り自分の言葉に置き換える努力してほしい。そうした言語化の作業を通じて、自身の立場や思想を明確にしていくことを求めたい。

授業計画

- ガイダンスと予備的講義
- 第1講「哲学とは何ぞや」（1）
- 第1講「哲学とは何ぞや」（2）
- 第1講「哲学とは何ぞや」（3）
- 第2講「哲学の根源」（1）
- 第2講「哲学の根源」（2）
- 第2講「哲学の根源」（3）
- 第3講「包括者」（1）
- 第3講「包括者」（2）
- 第3講「包括者」（3）
- 第4講「神の思想」（1）
- 第4講「神の思想」（2）
- 第4講「神の思想」（3）
- 第5講「無制約的な要求」（1）
- 第5講「無制約的な要求」（2）
- 第6講「人間」（1）
- 第6講「人間」（2）
- 第7講「世界」（1）
- 第7講「世界」（2）
- 第8講「信仰と啓蒙」（1）
- 第8講「信仰と啓蒙」（2）
- 第9講「人類の歴史」（1）
- 第9講「人類の歴史」（2）
- 第10講「哲学する人間の独立性」（1）
- 第10講「哲学する人間の独立性」（2）
- 第11講「哲学的な生活態度」（1）
- 第11講「哲学的な生活態度」（2）
- 第12講「哲学の歴史」（1）
- 第12講「哲学の歴史」（2）
- 理解度の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)学期末試験:70%:教場での論述試験を行う。
(2)平常点:30%:出席・授業態度の他、状況に応じて小テストを行う。

ドイツ語(総合)

担当者：小谷 哲夫

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

本講義はドイツ語I・IIで学習したドイツ語をブラッシュ・アップするために、ドイツ語の作文練習をします。また、文法も一から再確認していきます。更に、I・IIで学習できなかった文法内容も学習していきます。

2.カリキュラム上の位置づけ

基礎教育科目のなかの第二外国語の科目であり、ドイツ語1・IIを学んだ学生が、更に具体的にドイツ語の文章に触れ、より深くドイツ語を理解するための選択必修科目です。

3.学びの意義と目標

ドイツ語の作文練習を通して、これまでのドイツ語を「知っている」というレベルから「使える」レベルに高め、更には、日本語とドイツ語の表現法の違いも理解出来ることとなります。また、それは文法内容の再確認にもつながります。文章構造を詳しく捉えることは、一年次での学習内容とは大きな隔りがあるかもしれませんが、本講義をもってしてドイツ語の総合的な理解に結び付けていきます。

2.学びの意義と目標

独作文を通してより深くドイツ語の文章構造や特徴が理解できるようになります。

準備学習(予習)

ほぼ毎回予習の内容を指示しますので、必ずやってきてもらいます。

準備学習(復習)

各回で学習した文法と作文の再確認。特に注意しなければならない箇所は、必ず指摘します。

授業計画

1.ガイダンス

2.第1課 動詞の現在人称変化/練習問題

3.同上の続き

4.第2課 名詞の性・格と冠詞の変化/練習問題

5.同上の続き

6.第3課 不規則動詞と名詞の複数形/練習問題

7.同上の続き

8.第4課 人称代名詞/練習問題

9.同上の続き

10.第5課 所有冠詞・否定冠詞・指示代名詞/練習問題

11.同上の続き

12.第6課 前置詞/練習問題

13.同上の続き

14.第7課 分離動詞と非分離動詞/練習問題

15.同上の続き

16.第8課 再帰代名詞と再帰動詞/練習問題

17.同上の続き

18.第9課 形容詞の格変化と比較変化/練習問題

19.同上の続き

20.第10課 話法の助動詞と未来の助動詞/練習問題

21.同上の続き

22.第11課 副文と命令形/練習問題

23.第12課 過去形/練習問題

24.第13課 現在完了形/練習問題

25.同上の続き

26.第14課 zu 不定詞/練習問題

27.受動文/練習問題

28.関係代名詞/練習問題

29.同上の続き

30.定期試験問題の説明

教科書

池内宣夫 『ドイツ語表現への誘い 新訂版 』(郁文堂)

評価方法

(1)定期試験:40% (2)中間試験:30% (3)出席・授業態度等の平常点:30%

ドイツ語(総合)

担当者：清水 威能子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ドイツ語 と で修得した基礎的な知識を踏まえ、ドイツ語会話とリスニング、読解練習、ドイツ語圏の国の文化理解といった3つの柱を軸に多角的に言語と文化を学びます。特に最近の受講者の関心が高い、ドイツ語検定試験対策や留学・旅行の準備などに対応できるような、実用的なドイツ語の総合的運用能力を養成します。最後は受講生の皆さんに、ドイツ語圏の国の情報を収集してグループ発表をしてもらいます。

2.学びの意義と目標

世界の多様な価値観や考え方を学び、将来の選択肢を広げるためには語学力が必要であり、特に今日では外国語でのコミュニケーション能力や、情報活用能力が求められています。この授業は、そのような社会的要請に応えられるように、1)日常生活においてドイツ語で自己表現ができ、2)中級程度のドイツ語の文意を、辞書を用いて理解でき、3)異文化との比較から、日本の文化や社会に対する多角的な視点を獲得できることを目標とします。

準備学習(予習)

独和辞典で意味を調べながら、ドイツ語のテキストを読んでおく。或いは、付属のCDを理解できるまで繰り返し聴き、リスニングの練習を行う。

準備学習(復習)

重要な構文や会話表現を暗唱する。

授業計画

- ガイダンス、ドイツ語圏の都市概観
- 1 課 人の紹介に関する表現
- 2 課 趣味に関する表現
- 3 課 道案内に関する表現(1)
- 3 課 道案内に関する表現(2)
- 4 課 持ち物や好みに関する表現(1)
- 4 課 持ち物や好みに関する表現(2)
- 5 課 食に関する表現
- 1～5 課の復習、ミュンヘン、ベルリン、ウィーンの名所
- ベルリンの壁の崩壊とドイツ再統一(1)
- ベルリンの壁の崩壊とドイツ再統一(2)
- 6 課 予定に関する表現
- 6 課 ホテルの予約の仕方、メールの書き方
- 7 課 駅での会話表現
- 7 課 日常の動作表現
- 8 課 過去の出来事に関する表現
- 8 課 手紙を読む
- 9 課 文法の補足（受動態、関係代名詞）
- 9 課 観光地を説明する
- 9 課 料理のレシピの読み方
- 10 課 日本の習慣の紹介文を読む
- 10 課 日本とドイツの新年の祝い方
- グループ発表(1)
- グループ発表(2)
- グリム兄弟の生涯とグリム童話の時代的背景
- メルヘンの法則とグリム童話（白雪姫）(1)
- グリム童話（白雪姫）(2)
- グリム童話とディズニー映画との比較考察
- 読解の応用練習
- まとめ

教科書

伊藤 直子, クリスタ 柴田, 末松 淑美, 山川 和彦 『ゲーテ・ライゼ! <新訂増補版>』 (郁文堂)

評価方法

- (1)平常点:30%:積極的な姿勢を評価 (2)小テスト:20%
(3)グループ発表:20% (4)期末試験:30%

ドイツ語講読	
担当者：原 一子	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位	
講義概要 1.内容 4年次生を対象とする、大学・大学院共通の科目である。「ドイツ語(総合)」または「ドイツ語コミュニケーション」を修得済みか、同等以上の学力があると担当者が認めた者が履修できる。 文法の復習を希望する学生が多いことから、例年、初めの5,6回は『ABCドイツ語文法読本』によって文法をざっとさらった後、ドイツ語の平易な文献を1,2冊講読している。受講者数が少ないので、学力、卒業論文などのテーマ、興味・関心に応じて、学生と相談の上、時間配分や教材を決めている。2冊目の教材としては、過去には、易しいドイツ語の民話集、ヤスパース『歴史の起源と目標』の中から受講生に興味のあるテーマ、ニーチェ『ツァラトゥストラ』などを選んだ。受講生の学力、自宅での勉強量、熱心さによって、進む速度や分量に変化が見られる。	授業計画 1. 授業の進め方の説明、教材の選択、担当者の決定 2. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習 3. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習 4. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習 5. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習 6. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習 7. 1冊目のテキスト講読 8. 1冊目のテキスト講読 9. 1冊目のテキスト講読 10. 1冊目のテキスト講読 11. 1冊目のテキスト講読 12. 1、ないし2冊目のテキスト講読 13. 1、ないし2冊目のテキスト講読 14. 1、ないし2冊目のテキスト講読 15. 1、ないし2冊目のテキスト講読
2.学びの意義と目標 ドイツ語のより高度な文献を多読することによって語学力を磨くことが本授業の目標である。大学院生と一緒にドイツ語の文法を復習し、文献を多読することで、ドイツ語の総合的学力の向上を図る。大学院進学を志す者にも益すること大である。	
準備学習(予習) 読本の日本語訳、文法問題など、自宅での予習は不可欠である。自宅での学習が疎かになると授業が成り立たないことを理解し、自宅で少しでも多く学習して授業に臨むことを期待する。	教科書 大岩信太郎『ABCドイツ語文法読本』(三修社)
準備学習(復習) 練習問題が十分に出来ていなかった部分などについて、自主的に、文法事項を重点的に復習することは必須である。授業でも学生一人一人に復習の課題を課す。	評価方法 (1)出席率:30% (2)課題の修得度:70% 期末試験を行うか否かは受講者数によって決定する。

ドイツ文化

担当者：満留 伸一郎

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

ドイツ文化とは現在のドイツ連邦共和国に限定されるものではない。これをドイツ語「圏」文化ととらえると、オーストリアやスイスの一部が含まれ、さらに歴史的には、リトアニアの一部を含むかつての東プロイセン、オーストリア＝ハプスブルク帝国に属していた東ヨーロッパの広大な地域も含まれる。ドイツ文化を支えた著名な「ドイツ人」の多くは、こういった地域で生まれ、活動した。このようなドイツ文化のひろがりや多様性を、図版、音楽、映像、インターネット・コンテンツを多用しながら解説する。情報量の多い講義となるが、今回はこれまでよりも造形芸術の割合が大きくなる予定。

2.学びの意義と目標

他文化理解とは、イメージの固定と解体という往復運動のくりかえしであり、そのきっかけを与えることが本講義の目的。安易な単純化によって他文化を型にはめることの危うさを学び、そのような意識をドイツに限らず広く応用できるようになってほしい。

準備学習(予習)

毎回配布するコピーに目を通しておくこと。

準備学習(復習)

紹介する参考文献のうち特に興味を持ったものはしっかり読み、試験の参考にする。

授業計画

1. ガイダンス ドイツに関する基本情報の確認 ドイツ語「圏」文化とは？
2. ドイツ・イメージとプロイセン的なもの
3. 南北の違い 地理・建築・言語の観点から
4. ルターとドイツ語
5. 北方ルネサンス1 デューラー
6. 北方ルネサンス2 クラーナハ
7. バッハの音楽とルター
8. 文学 ゲーテ1
9. 文学 ゲーテ2
10. 文学 トーマス・マン1
11. 文学 トーマス・マン2
12. 予備日
13. ロマン派文学とグリム童話
14. ロマン派絵画 C・D・フリードリヒ
15. 音楽1 ベートーヴェン 「絶対音楽」
16. 音楽2 ワーグナー 「絶対音楽」と「総合芸術」
17. 補論：現代ドイツ人の生活
18. ヴァイマル文化1 総論
19. ヴァイマル文化2 写真・映画
20. ナチスと「退廃芸術展」
21. ナチスと映画
22. 東西分裂とベルリン
23. 東ドイツへの郷愁（オスタルギー）
24. 東ドイツの文学（演劇を中心に）
25. ドイツ文学の広がり
26. オーストリア文化 オーストリア的なもの
27. オーストリア文化 造形芸術（クリムト）
28. オーストリア文化 音楽（モーツァルト、マーラー）
29. まとめ
30. 試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席:40%:20分以上の遅刻は出席としてカウントされない。
(2)期末試験:60%

南北アメリカと多文化社会	
担当者：増田 直子	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容 難民や頭脳流出などの人の移動が現在世界規模で起こっている。移住の理由、移住先でのコミュニティの成立、ホスト社会との関係、多様な人から成り立つ多文化社会の問題と可能性について、アメリカ・カナダの事例を中心に学ぶ。また、南米日系人の日本への逆流といった日本の事例も取り上げる。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 - 人口構成、国勢調査 2. アメリカの国土 3. アメリカへの移民の流れ（１）「旧移民」 4. アメリカへの移民の流れ（２）「新移民」 5. アメリカへの移民の流れ（３）移民制限 6. 日系アメリカ人（１）排斥 7. 日系アメリカ人（２）強制立ち退きから補償運動へ 8. 『ミリキタニの猫』 レポート 9. 戦後アメリカ社会と人種・民族的マイノリティ（１） 10. 戦後アメリカ社会と人種・民族的マイノリティ（２） 11. 黒人公民権運動 12. 『ボイコット』 レポート 13. 先住アメリカ人 14. アジア系アメリカ人 15. ヒスパニック/ラティーノ・ラティーナ 16. 同時多発テロとアメリカのムスリム 17. 性の解放と性をめぐる論争 18. ステレオタイプ（１）スポーツと人種 19. ステレオタイプ（２）映画に見られる黒人像 20. ステレオタイプ（３）映画に見られる日本人像 21. 博物館・記念碑をめぐるマイノリティの記憶 22. 同化の概念と多文化主義 23. カナダへの移民 24. 日系カナダ人 25. ケベック - 二言語主義と独立問題 26. カナダの多文化主義 27. 南米諸国への移民 28. 南米日系人（１） 29. 南米日系人（２） 30. まとめ
<div>準備学習(予習)</div> <p>事前に指示された用語を調べておくこと。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>配布プリントを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにする。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)期末試験:60% (2)レポート:40%</p>

ファンタジー論	
担当者：松本 祐子	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
講義概要 1.内容 この授業では、まず、神話・伝説・昔話の中にファンタジーの源流を探り、次に、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品の分析を試みる。また、おとぎ話、児童文学を下敷きにしたディズニー映画をその原作と比較しつつ、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について考える。	授業計画 1. ファンタジーとは何か 2. 神話・伝説:ファンタジーの原型 3. 神話・伝説:予言の意味 4. 神話・伝説:ギリシャ神話（１） 5. 神話・伝説:ギリシャ神話（２） 6. 神話・伝説:北欧神話（１） 7. 神話・伝説:北欧神話（２） 8. 神話・伝説:アーサー王伝説 9. ファンタジーの生き物:ドラゴン(1) 10. ファンタジーの生き物:ドラゴン(2) 11. ファンタジーの生き物:ユニコーン、その他 12. ファンタジーの空間:現実から異世界への移動法 13. ファンタジーの空間:異世界の物語 14. ファンタジーの空間:ディズニーランド 15. ファンタジーの空間:おとぎ話とディズニー・アニメ（１） 16. ファンタジーの空間:おとぎ話とディズニー・アニメ（２） 17. ファンタジーの空間:日常の中の魔法 18. ファンタジーの空間:「私」の中の「他人」 19. ファンタジーの空間:夢 20. ファンタジーの空間:バーチャル・リアリティー 21. ファンタジーの時間:過去と未来 22. ファンタジーの時間:時間旅行の方法 23. 異形のものたち:ヴァンパイア(1) 24. 異形のものたち:ヴァンパイア(2) 25. 異形のものたち:人造人間(1) 26. 異形のものたち:人造人間(2) 27. 異形のものたち:不老不死 28. 魔法使いと魔女 29. 魔法の食べ物 30. まとめ
2.学びの意義と目標 「夢とおとぎの国への逃避」といったような一般的なファンタジーのイメージに疑問を投げかけ、むしろ、人間の本質を見つめ、現実を生きる力を身につけるためのファンタジーの在り方について考えたい。	
準備学習(予習) 授業内で毎回配布するレジュメをよく読み、扱われる作品を読んでおくこと。ほぼ１ヶ月に１本の提出となるレポート執筆のために、各自の具体的なテーマ探し、資料集めが必要である。	教科書 プリントを配布する
準備学習(復習) 毎回の授業の最後に出す課題をきちんと提出すること。	評価方法 (1)毎回の課題＆出席:20% (2)第一レポート:25% (3)第二レポート:25% (4)第三レポート:30%

舞台芸術論	
担当者：鹿瀬 颯枝	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
講義概要 1.内容 本講義は、「演劇、それはまず、美しい言葉である」から入り、「演劇を読む」ことで、ヨーロッパの舞台芸術の世界に浸ります。演劇を読むという作業には、日本の伝統演劇のように「舞台を読む」作業と、ヨーロッパ演劇のように「戯曲を読む」作業がありますが、ここでは代表的な戯曲=テキストを読むことを中心に進めていきます。 いくつかの歴史に残る代表作を伝統演劇、オペラ、バレエなどのジャンルから紹介＆解説もしたいと思います。 参考文献:鹿瀬颯枝著《劇場への招待席》、《舞台裏ノート》、《コメディ・フランセーズ今昔物語》etc.月刊『ふらんす』連載記事（白水社）	授業計画 1.Ⅰ．演劇とは何か？ 2.ⅠⅠ．古代の演劇 3.1．ギリシア・ローマの演劇 4.古代ギリシアの劇場・・・ディオニュソス劇場 5.ソポクレスの作品を中心に 6.『オイディプス王』 7.ⅠⅠⅠ．演劇の黄金時代 8.1．イギリス・エリザベス朝演劇 9.エリザベス朝の劇場・・・グローブ座 10.シェイクスピアの作品を中心に 11.四大悲劇『ハムレット』他 12.喜劇『から騒ぎ』他 13.歴史劇『リチャード三世』他 14.2．フランス古典主義演劇 15.コメディ・フランセーズ劇場・・・「モリエールの家」 16.モリエールの作品を中心に 17.四大喜劇「人間嫌い」他 18.ラシーヌの作品を中心に 19.『フェードル』 20.ⅠⅤ．近代演劇 21.1．市民劇『フィガロの結婚』の役割 22.2．ロマン主義演劇 23.ヴィクトル・ユゴーと《エルナニの闘い》 24.ミュッセの作品を中心に 25.『ロレンザッチョ』 26.『戯れに恋はすまじ』 27.3．舞台表象 28.オペラとバレエ 29.Ⅴ．現代演劇 30.総括
準備学習(予習) ヨーロッパ社会と異なり、演劇が日常生活に浸透しているとはいえない日本において、「舞台芸術」の受容は容易ではないかもしれませんが、新鮮な関心をもって積極的に授業で取り上げるテーマに取り組んでみましょう。	教科書 授業の中で指示する
準備学習(復習) 教室では限られた「場」しか「観る」ことができないので、「演劇を読む」ことを勧めます。	評価方法 (1)授業出席:50%:積極的授業参加が最小限の条件です (2)レポート:25% (3)期末テスト:25%

フランス語(総合)

担当者：石田 明夫

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

『フランス語Ⅱ』までに学習した知識をフルに活用し、本物のフランス文化に直接触れてみましょう。ここでは、フランスのヴァリエテ(いわゆるシャンソン)、ロック、R&B、ラップ、レゲエなどフランスのポップ・ミュージックと、フランスのミュージカル(『ロミオとジュリエット』『星の王子様』『ノートルダムの鐘つき男』を用意しています)をDVDで鑑賞し、そのテキストを読みます。また、気に入った曲を歌えるようになります。また、韻文ばかりではなく、フランスを紹介した簡単な散文も、随時取り入れます。

2.学びの意義と目標

フランス語の歌詞を聴き、発音し、口語的表現を覚え、文法の復習をすることにより、基本的なレベル(仏検4-3級)に達することができます。また、フランスの大衆文化(ポップ・カルチャー)についての知識が深まり、フランスひいてはヨーロッパについてポピュラーな視点を獲得でき、ヨーロッパに関連する講義を履修する上で役立つと思います。フランス語を学ぶことの重要性は論を待ちませんが、フレンチ・ポップスでフランス語を学ぶことの意義はポップ・ミュージックの歌や歌手(あるいはグループ名)を覚えることにあります。これから出会うかもしれないフランス語圏の人たちと、その知識を活用して、覚えた歌を歌ったり、好きな歌手や歌を話題にしたり、一緒にyoutubeを見たり、生きたコミュニケーションが楽しめるからです。

準備学習(予習)

1回の授業で読む歌詞テキストの量は、詩形式で15行くらいです。予習指定した箇所の新出の単語を必ず辞書で調べておいてください。

準備学習(復習)

文法の練習問題は、復習用の宿題とします。

授業計画

1. ガイダンス / フランスの音楽事情について / ライブコンサートのDVDを鑑賞
2. ライブコンサートを鑑賞し、その中からテキスト曲を指定(Voulzyの曲を予定)。
3. 歌詞テキストを読み、内容について考察する。ライブコンサートを見て、テキスト曲を指定(Amel BentのR&Bを予定)。
4. 歌詞テキストの読解。ライブコンサートを見て、テキスト曲を指定(Noahのレゲエを予定)。
5. 歌詞テキストの読解。ライブコンサートを見て、テキスト曲を指定(G. Blancの曲を予定)。
6. 歌詞テキストの読解。ライブコンサートを見て、テキストを指定(M. anauのケルト神話のラップを予定)。
7. 歌詞テキストの読解。人気アーティストから、テキストを指定(Tina Arenaの曲を予定)。
8. 歌詞テキストの読解。レゲエ歌手Tonton Davidの曲を紹介。テキストを指定。
9. 歌詞テキストの読解。ミュージカルを鑑賞。
10. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(1)。
11. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(2)。
12. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(3)。
13. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(4)。
14. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(5)。
15. ミュージカル1を鑑賞し、テキストを読む(6)。
16. ミュージカル1全編を鑑賞し、内容について話し合い、感想を提出する。
17. 夏の音楽祭のライブコンサートを見て、歌詞テキストを読む(1)。
18. 夏の音楽祭のライブコンサートを見て、歌詞テキストを読む(2)。
19. ミュージカルの希望が多ければ、ミュージカル2を鑑賞。さもないければポップスを紹介。
20. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(1)。
21. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(2)。
22. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(3)。
23. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(4)。
24. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(5)。
25. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(6)。
26. ミュージカル2を鑑賞し、テキストを読む。または他のテキストの読解(7)。
27. 人気アーティストの紹介。その歌詞テキストを読解する(1)。
28. 人気アーティストの紹介。その歌詞テキストを読解する(2)。
29. 人気アーティストの紹介。その歌詞テキストを読解する(3)。
30. 学期末試験について

教科書

プリントを配布する
プリントの歌詞テキストは、読みやすいようになるべく多くの「注」を付けてあります。

評価方法

(1)出席点:30% (2)発表点:20%:指定箇所の音読と訳の発表
(3)宿題提出点:10%:文法の練習問題 (4)学期末テスト:40%

フランス語(総合)

担当者：小室 廉太

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「フランス語Ⅰ」、「フランス語Ⅱ」既習者を対象とした授業です。今までに学んだことを復習し、さらに新たな文法事項や表現を学びながら、実用フランス語検定試験（仏検）の4級と3級を目指します。

「第一部」では今までに学んだフランス語を復習し、仏検でどのような出題になるかを検討します。仏検レベルでは4級に相当します。

「第二部」では仏検3級に相当する文法や表現を学び、実際に出題された問題を解いていきます。さらに準2級や2級で出題された文法内容や問題にもチャレンジしましょう。

2.学びの意義と目標

- ・フランス語の既習文法を応用し、さらに様々な表現を覚え、口頭で用いることができる。
- ・簡単なフランス語を聞き取り、理解できる。
- ・簡単なフランス語の文章を書ける。
- ・辞書や注釈を用いて、フランス語をきちんとした日本語に訳すことができる。

準備学習(予習)

予め配られたプリントで、分からない単語や表現がある場合には辞書で調べておくこと。

準備学習(復習)

前回に学習した単語および動詞活用の小テストを、毎授業ごとに行います。しっかり準備をしておいてください。

授業計画

1. ガイダンス / 仏検の紹介 / 自己紹介 / アンケート
2. 名詞（固有名詞、普通名詞、代名詞）の性と数
3. 定冠詞、不定冠詞、部分冠詞
4. 形容詞の性数一致、所有形容詞
5. 動詞の直接法現在活用
6. 副詞と疑問副詞
7. 様々な前置詞と前置詞句
8. 比較級、最上級
9. 人称代名詞、中性代名詞、指示代名詞
10. 非人称構文（時間表現、天候表現など）、疑問形容詞
11. 数の表現（数詞、序数、数量表現）、聞き取り問題
12. 代名動詞
13. 近接未来、近接過去
14. 直接法単純未来
15. 直接法複合過去
16. 直接法半過去
17. 第一部まとめ
18. 中間試験
19. 中間試験の返却と解説
20. 読解問題の解法
21. 条件法現在（その1）、命令法
22. 現在分詞、ジェロンディフ
23. 受動態、使役動詞
24. 過去分詞の一致
25. 関係代名詞
26. 強調構文
27. 条件法現在（その2）
28. 接続法現在
29. 第二部のまとめ
30. 期末テスト

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)定期試験:50%:中間、期末テストの2回
(2)平常点:30%:出席状況や課題の取り組み態度
(3)小テスト:20%:単語や動詞活用 of テストなど

フランス語(総合)	
担当者：塩谷 祐人	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>フランス語IおよびIIを終了した学生が対象です。 今までやってきた基礎文法を元に、実際にフランス人が読んだり聞いたりしているフランス語に触れ、実践的なフランス語を身につけていきます。</p> <p>この授業では「BD」といわれるフランスのマンガや日本の漫画のフランス語訳を教材にします。セリフを音読しながら発音を勉強したり、辞書を使いながら各自で訳を作ってもらったりします。</p> <p>「BD」を通じてフランスの文化を知り、またフランス語に訳された日本語を読むことで、日本語とフランス語では、どのように文の構成が違うのかにも注目していきましょう。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 日本の漫画のフランス語訳でフランス語(1) 日本の漫画のフランス語訳でフランス語(2) 日本の漫画のフランス語訳でフランス語(3) 日本の漫画のフランス語訳でフランス語(4) 日本の漫画のフランス語訳でフランス語(5) BD『ル・シャ』でフランス語(1) BD『ル・シャ』でフランス語(2) BD『ル・シャ』でフランス語(3) 文法のまとめと確認 BD『星の王子さま』でフランス語(1) BD『星の王子さま』でフランス語(2) BD『星の王子さま』でフランス語(3) BD『星の王子さま』でフランス語(4) BD『星の王子さま』でフランス語(5) 日本のマンガのフランス語訳でフランス語(6) 日本のマンガのフランス語訳でフランス語(7) 日本のマンガのフランス語訳でフランス語(8) 日本のマンガのフランス語訳でフランス語(9) 日本のマンガのフランス語訳でフランス語(10) 文法のまとめと確認 アニメーション映画『王と鳥』(1) アニメーション映画『王と鳥』(2) アニメーション映画『王と鳥』(3) BD『ペルセポリス』でフランス語(1) BD『ペルセポリス』でフランス語(2) BD『ペルセポリス』でフランス語(3) BD『ペルセポリス』でフランス語(4) BD『ペルセポリス』でフランス語(5) 総復習
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>辞書を使って、フランス語を読む能力を身につけることが目標です。フランス語で書かれたものを自らの知識にできるように、正確に読む練習をしていきましょう。</p> <p>「BD」や漫画のセリフから、フランス語の日常会話を学ぶことも目標のひとつです。</p> <p>また「BD」を通して、フランス語圏の文化、芸術についても学んでいきましょう。</p> <p>フランス語で物事をみることができるようになるということは、それだけ知識を得る機会が多くなり、発見できる物事が多様になるということです。</p> <p>日本の文化、そして日本でも多少は馴染みのある英語圏の文化、それに加えてフランスの文化も比較することで、知識やセンスに多様性や豊かさが加えられることになるでしょう。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>配布するプリントを前もって訳してきてもらいます。必ず辞書を使って単語の意味を調べ、文法事項の確認をしてください。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>予習でわからなかったところや間違えていたところを授業で修正し、間違えた理由や、正しい訳の作り方をチェックしてください。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)平常点:50% (2)試験:50%</p> <p>平常点は、「予習をして授業にのぞんでいるかどうか」や授業中にしってもらう「発表」、小テストなどで判断します。試験は学期末試験(中間試験はありません)の点数で判断します。</p>

フランス語研究	
担当者：鹿瀬 颯枝	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容 「フランス語I」と「フランス語II」をすでに受講し、さらにその成績において、SあるいはAの評価を受けた学生を対象とした授業です。</p> <p>これまでに習得した基礎的な知識を活用し、より深くフランス語を文法事項中心に学びながら極め、複言語・複文化についても考えられるように進めていきます。そうしたことが、世界の「多様性」を理解し、異文化に対して「寛容」の精神で接することに繋がると信じているからです。</p> <p>フランス語検定試験のサポートも授業に組み込んでいます。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 直接法現在の動詞（１） 直接法現在の動詞（２） 直接法現在の動詞（３） 小テスト――フランス語の成立と名詞の性について 否定文――共和国と政教分離について 疑問文――ヨーロッパの言語政策について 非人称構文――複言語主義・複文化主義について 小テスト――ことばによる世界の認識の違いについて 代名動詞――フランスの高等教育について 近接過去・過去形――フランスのグラン・ゼコルについて 近接未来・未来形――冠詞について 命令法――語順について 条件法・接続法 総括
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>「フランス語研究」は、「フランス語Ⅰ」と「フランス語Ⅱ」で基礎をしっかりと習得した学生に、フランス語の豊かさ・明晰さを発見し、さらなるステップ・アップをしてほしいと願っています。複言語・複文化の存在理由についても考えていけるきっかけになればと思います。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>外国語のマスターには予習・復習が必須です。 毎回、テキストの前半2ページは教室で共に学習する箇所なので、予習をして授業出席しましょう。</p>	
<div>準備学習(復習)</div> <p>外国語のマスターには予習・復習が必須です。 毎回、テキストの後半2ページは自律学習しておきましょう。</p>	<div>教科書</div> <p>大木充・西山教行『グラメールアクティヴ 文法で複言語・複文化 - 』（朝日出版社）</p>
	<div>評価方法</div> <p>(1)授業出席:60%:積極的授業参加が最小限の条件です (2)テスト:40%</p>

フランス語講読	
担当者：鹿瀬 颯枝	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>先行きが不安な今日、政治的ベシズムと心理的ベシズムが入り混じるなか、若者たちの孤独や絶望感は、19世紀初頭に若者たちが罹っていた《世紀病Mal du siècle》を思い起こさせます。1834年、23歳のAlfred de MussetがLorenzaccioを通して描いた永遠の青年像とともに読み解いていきましょう。《生きにくさdifficulté d'être》の源をとともに考えてみたいと思います。</p> <p>さらには、時間の許す限り、2008年度ノーベル文学賞受賞作家J.M.G. Le Clézioの長編大作からLe Chercheur d' Orを抜粋で、あるいは短編集から一編平易なテキストを取り上げたいと思いますが、開講時に受講生と相談して決めます。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語の実力テスト 2. フランス語の講読に必要な基本的文法事項 3. フランス語の講読に必要な基本的文法事項 4. Alfred de Musset, Lorenzaccio講読（ 1 ） 5. 講読（ 2 ） 6. 講読（ 3 ） 7. 講読（ 4 ） 8. 講読（ 5 ） 9. 講読（ 6 ） 10. 講読（ 7 ） 11. まとめ 12. Le Clézio, Le Chercheur d'Or講読（ 1 ） 13. 講読（ 2 ） 14. 講読（ 3 ） 15. まとめ
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>「フランス語講読」は、 生きにくさ を生き抜かねばならない現代社会の青年像をテーマにテキスト選びをしていますので、名作を通してフランス語の学びと同時に、共に生きるということについても考えていきます。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>予習として、少なくとも次回の講読部分を辞書を用いて和訳をしておきましょう。少々難解でも試みてみましょう。</p>	
<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で講読した箇所を原文のみで読解できるか復習をしておきましょう。</p>	<div>教科書</div> <p>授業の中で指示する</p>
	<div>評価方法</div> <p>(1)授業出席:60%:積極的授業参加が最小限の条件です (2)テスト:40%</p>

フランス語コミュニケーションA(総合)	
担当者：F . ルテュール	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>本年のクラスは、TAXI 1（Hachette社）を教科書として使用します。フランス語会話の基礎を様々な状況に応じて、例えば、自己紹介から日常生活会話まで、実際にフランスにいるかのように、フランスの友人たちと、あるいは家族と話しているかのように、学んでいきましょう。</p> <p>この教科書は、大きく9つの項目に分けられ、さらに36課で構成されています。</p> <p>各課の内容は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ー テキスト、会話 ー 文法、語彙の紹介&説明 ー 書く、聴く、話すことを中心とした練習問題 <p>と進んでいき、各項目ごとに終了すると、復習ができるようになっていきます。</p> <p>CDやDVDも使用しますので、オーラルの理解力、会話練習にも役立つことでしょう。</p>	<div>授業計画</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. UNITE 1 - Lecon 1 2. UNITE 1 - Lecon 1 et 2 3. UNITE 1 - Lecon 2 4. UNITE 1 - Lecon 3 5. UNITE 1 - Lecon 3 et 4 6. UNITE 1 - Lecon 4 7. UNITE 2 - Lecon 5 8. UNITE 2 - Lecon 5 et 6 9. UNITE 2 - Lecon 6 10. UNITE 2 - Lecon 7 11. UNITE 2 - Lecon 7 et 8 12. UNITE 2 - Lecon 8 13. UNITE 3 - Lecon 9 14. UNITE 3 - Lecon 10 15. UNITE 3 - Lecon 11 16. UNITE 3 - Lecon 12 17. テスト 18. UNITE 4 - Lecon 13 19. UNITE 4 - Lecon 13 et 14 20. UNITE 4 - Lecon 14 21. UNITE 4 - Lecon 15 22. UNITE 4 - Lecon 15 et 16 23. UNITE 4 - Lecon 16 24. UNITE 5 - Lecon 17 25. UNITE 5 - Lecon 17 et 18 26. UNITE 5 - Lecon 18 27. UNITE 5 - Lecon 19 28. UNITE 5 - Lecon 20 29. テスト 30. まとめ
<div>準備学習(予習)</div> <p>前もって語彙について調べる、練習問題を解く、わからないところを質問できるようにしておく、授業に余裕をもって楽しく入っていけると思います。</p>	<div>教科書</div> <p>? 『TAXI 1』 (Hachette)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>発音を確認しながら音読の練習。</p>	
	<div>評価方法</div> <p>(1)テスト:50%:学年末にテストを1回 (2)出席:25% (3)授業態度:25%</p>

フランス語コミュニケーションB(総合)	
担当者： F . ルテュール	
開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位	
<div>講義概要</div> <p>1.内容</p> <p>本年のクラスは、TAXI 1（Hachette社）を教科書として使用します。フランス語会話の基礎を様々な状況に応じて、例えば、自己紹介から日常生活会話まで、実際にフランスにいるかのように、フランスの友人たちと、あるいは家族と話しているかのように、学んでいきましょう。</p> <p>この教科書は、大きく9つの項目に分けられ、さらに36課で構成されています。</p> <p>各課の内容は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ー テキスト、会話 ー 文法、語彙の紹介&説明 ー 書く、聴く、話すことを中心とした練習問題 <p>と進んでいき、各項目ごとに終了すると、復習ができるようになっていきます。</p> <p>CDやDVDも使用しますので、オーラルの理解力、会話練習にも役立つことでしょう。</p>	<div>授業計画</div> <p>1. UNITE 6 - Lecon 21</p> <p>2. UNITE 6 - Lecon 21 et 22</p> <p>3. UNITE 6 - Lecon 22</p> <p>4. UNITE 6 - Lecon 23</p> <p>5. UNITE 6 - Lecon 23 et 24</p> <p>6. UNITE 6 - Lecon 24</p> <p>7. UNITE 7 - Lecon 25</p> <p>8. UNITE 7 - Lecon 25 et 26</p> <p>9. UNITE 7 - Lecon 26</p> <p>10. UNITE 7 - Lecon 27</p> <p>11. UNITE 7 - Lecon 27 et 28</p> <p>12. UNITE 7 - Lecon 28</p> <p>13. テスト</p> <p>14. UNITE 8 - Lecon 29</p> <p>15. UNITE 8 - Lecon 29</p> <p>16. UNITE 8 - Lecon 30</p> <p>17. UNITE 8 - Lecon 30</p> <p>18. UNITE 8 - Lecon 31</p> <p>19. UNITE 8 - Lecon 31</p> <p>20. UNITE 8 - Lecon 32</p> <p>21. UNITE 8 - Lecon 32</p> <p>22. UNITE 9 - Lecon 33</p> <p>23. UNITE 9 - Lecon 33</p> <p>24. UNITE 9 - Lecon 34</p> <p>25. UNITE 9 - Lecon 34</p> <p>26. UNITE 9 - Lecon 35</p> <p>27. UNITE 9 - Lecon 35</p> <p>28. UNITE 9 - Lecon 36</p> <p>29. UNITE 9 - Lecon 36</p> <p>30. テスト</p>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>フランス語を基礎から学びながら、簡単な日常会話ができるようになる。</p> <p>自己紹介や趣味、さまざまな場面を設定しての（電話の受け方、レストラン、買い物、旅行等々）会話の練習。</p> <p>現在形、過去形、未来形の習得。</p>	
<div>準備学習(予習)</div> <p>前もって語彙について調べる、練習問題を解く、わからないところを質問できるようにしておく、授業に余裕をもって楽しく入っていけると思います。</p>	<div>教科書</div> <p>? 『TAXI 1』 (Hachette)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>発音を確認しながら音読の練習。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)テスト:50%:学年末にテストを1回 (2)出席:25% (3)授業態度:25%</p>

フランス文学

担当者：鹿瀬 颯枝

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

フランス文学は、「人間が人間のために人間を探求する」という点に特徴があるといわれているように、この講義では、フランス文学作品に登場する様々な人間像を、さらに、作者の時代背景をふまえつつ、その人間の全体像を探求してゆきたいと思います。人間は、バスカルのいうように、「無限の偉大さと無限の卑小さの中間にある存在」であるならば、長所も短所も、美德も悪徳も、善行も悪行も、人間の内と外にあるものすべてを真正面から凝視し、それを作品のなかから読みとろうとすることが、フランス文学を学ぶ第一歩ではないでしょうか。こうして、フランス文学に接することで、我々の人間社会を垣間見ることができれば、すでに、大きな収穫といえます。

本講義は、17世紀、枢機卿リシュリユーの進言によって1635年に創立された「アカデミー・フランセーズ」（フランス最高の文化機関として現在に至る）から始めます。各論Iでは、17世紀 - 古典主義とは何か？ 各論IIでは、18世紀 - 啓蒙主義とは何か？ 各論IIIでは、19世紀 - ロマン主義とは何か？ 各論IVでは、20世紀 - 現代とは何か？ を中心テーマに、時代背景を紹介した後、作品研究に入る予定です。

2.学びの意義と目標

ヨーロッパ文学の中でもフランス文学は、人間学の教程である。古典から現代まで読み続けられて来た不動の名作を通して、人間のすべていっさいを観察描写し、人間の姿を、人間社会を読み解いていきます。各時代の代表作を取り上げて、現代社会へと繋がたいと願っています。「読む」ことを学びます。

準備学習(予習)

先ずは、フランス文学の名作を読むことから始めましょう。濫読でもOKです。授業で取り上げる予定の作品は必ず読んでみてください。

準備学習(復習)

フランス文学の名作を読んでみましょう。濫読から始めても最終的に授業で取り上げた作品は精読してください。

授業計画

1. 全体的展望:人間学としてのフランス文学
2. 各論I:17世紀...古典主義とは何か？
3. コルネイユ『ル・シッド』
4. モリエール『ドン・ジュアン』
5. ラシーヌ『アンドロマック』
6. ＊ラ・フォンテーヌの場合『寓話詩』
7. 各論II:18世紀...啓蒙主義とは何か？
8. ヴォルテール『カンディッド』
9. ルソー『新エロイズ』
10. デイドロ『運命論者ジャック』
11. ＊マリヴォの場合『偽りの告白』
12. 各論III:19世紀...ロマン主義とは何か？
13. スタンダール『赤と黒』
14. バルザック『ゴリオ爺さん』
15. ユゴー『エルナニ』
16. ミュッセ『ロレンザッチョ』
17. ＊ボードレールの場合『悪の華』
18. 各論IV:20世紀...現代とは何か？
19. クローデル『人質』
20. ブルースト『失われた時を求めて』
21. サルトル『汚れた手』
22. カミュ『異邦人』
23. ル・クレジオ『パワナ』
24. ＊サン＝テグジュペリの場合『星の王子さま』
25. 今日のフランス文学傾向（１）
26. 今日のフランス文学傾向（２）
27. 今日のフランス文学傾向（３）
28. 今日のフランス文学傾向（４）
29. 今日のフランス文学傾向（５）
30. 総括

教科書

鈴木力衛&渡辺一夫『増補フランス文学案内』（岩波文庫別冊）

評価方法

- (1)授業出席:60%:積極的な授業参加が最小限の条件です
(2)レポート:20% (3)期末テスト:20%

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>本講義では、英語と日本語との間の翻訳事情について、その歴史と文化を概観し考察する。授業は講義形式で毎回テーマを変え、ものの名前や概念、ことわざや言い回し、広告のキャッチコピー、作品タイトル、文学作品、映画の字幕、歌詞など、なるべく多くの題材を扱いながら、翻訳傾向の特徴や時代による変容を見ていきたい。それと同時に、翻訳の限界や、翻訳するときに生じる危険性、翻訳作品の伝達上の問題点なども指摘する。</p>	<div>授業計画</div> <div>1. イントロダクション</div> <div>2. 日本語と英語 - 言語的差異概観</div> <div>3. 外来語とカタカナ語</div> <div>4. 明治期の翻訳事情と翻訳者たち</div> <div>5. 西洋文化の翻訳事情</div> <div>6. 明治期の翻訳語の傾向とパターン</div> <div>7. 文芸用語の翻訳</div> <div>8. 文学作品の翻訳事情</div> <div>9. 翻訳作品の傾向と翻訳パターン</div> <div>10. 翻訳をめぐる問題（講義後半へ向けて）</div> <div>11. 日本文学の翻訳事情</div> <div>12. 『雪国』と『我輩は猫である』</div> <div>13. シェイクスピア劇の翻訳事情</div>
<div>2. 学びの意義と目標</div> <p>翻訳という行為が、単なる言語変換という行為だけにとどまるものではなく、既存の文化や思想に影響を与え、さらには新たな文化や概念を形成する行為であることを確認し、また、身の回りにあふれている翻訳語に気づき、考えるきっかけにしてほしい。</p>	<div>14. 『ロミオとジュリエット』『ジュリアス・シーザー』の翻訳</div> <div>15. 英詩と韻文の翻訳 - 韻とリズム</div> <div>16. 詩（韻文）翻訳の問題</div> <div>17. 『マザーグース』の翻訳事情</div> <div>18. 短歌と俳句の翻訳 『百人一首』と『奥の細道』</div> <div>19. ジョークと言葉遊び</div> <div>20. 『不思議の国のアリス』の翻訳比較</div> <div>21. 児童文学と翻訳</div> <div>22. 聖書と賛美歌翻訳事情</div> <div>23. 賛美歌とクリスマスソング</div> <div>24. 方言と語りのパターン</div> <div>25. 昔話と民話</div> <div>26. オノマトペ</div> <div>27. マザーグースのオノマトペ翻訳</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>テーマごとに予習課題課題を課す。また、配布したプリントは授業前に読んでおくこと。</p>	<div>教科書</div> <p>プリントを配布する</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>中間・期末レポートのテーマは授業の総復習とする。レポートの準備として、授業内容の復讐をするとともに、身の回りにある翻訳例収集に努めること。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)平常点:40%:ミニッツノートと確認テスト (2)課題:20% (3)中間レポート:20% (4)期末レポート:20%</p>

マスコミュニケーション論	
担当者：竹田 香織	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
講義概要 1.内容 本講義では、マスコミュニケーション、マスメディアに関する概念や歴史、現状について理解を整理し、社会における役割や影響、可能性について考察する。	授業計画 1. 情報とは何か 2. コミュニケーションとは 3. メディアとは 4. マスメディアの影響 5. メディアの歴史と現状（１） 6. メディアの歴史と現状（２） 7. 広告とメディアミックス 8. メディアリテラシー 9. ジャーナリズム 10. メディア倫理 11. ニュース 12. 災害と報道 13. 事故と報道 14. 事件と報道 15. インターネット 16. ソーシャルメディア 17. 表現の自由と知る権利，プライバシー 18. 民主主義と情報 19. 公共性 20. 世論（１） 21. 世論（２） 22. 世論調査 23. 政治と情報（１） 24. 政治と情報（２） 25. インターネットと政治（１） 26. インターネットと政治（２） 27. メディアとジェンダー 28. メディアとナショナリズム 29. メディアと戦争 30. 総括
2.学びの意義と目標 ・マスコミュニケーションおよびマスメディアと社会，個人との関わりについて理解を深める。 ・情報社会を生きる上で，もはや必要不可欠といえる様々なメディアとの接し方について考えることができるようになる。 ・情報を批判的あるいは建設的に吟味する姿勢を身につける。	
準備学習(予習) ・新聞を読み，ニュースに日々触れること。	教科書 授業の中で指示する
準備学習(復習) ・ノートや配布プリント等を見返し，授業の中で案内する文献を手に取り，授業のポイントが何であったかをおさえておくこと。	評価方法 (1)平常点:30%:毎回授業後にコメントペーパーを提出してもらう。 (2)期末試験:70%

メディアと文化形成	
担当者： 畠山 宗明	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
講義概要 1.内容 私達のコミュニケーションは、使用する情報メディアの形式に大きく左右されるだけでなく、そのメディアが登場した時代や地域の価値観に大きく影響される。文化とは、そのようなメディアと社会の複雑な相互作用によって形成されていくのである。この授業では、様々なメディア装置（印刷技術、ラジオ、テレビ、映画）の成り立ちを概観しながら、そのメディアがつくりだした文化の「かたち」を追跡していきたい。	授業計画 1. イントロダクション 2. メディアとコミュニケーション 3. 文化としてのメディア 受け手が作り出す「メディア」 4. つながる力と断ち切る力 メディエーションとしてのメディア 5. メディアの歴史 書き言葉と話し言葉 6. メディアの歴史 産業革命期のメディア文化 7. メディアの歴史 20世紀のメディア 8. メディアの歴史 グローバル時代のメディア 9. メディアとイメージ 近代メディア空間の誕生 10. メディアとイメージ イメージ社会の誕生(産業革命期のメディア文化) 11. メディアとイメージ ファッションと都市文化 12. メディアとイメージ スポーツ、観光旅行 13. 前半まとめ 『市民ケーン』を見る 14. 前半まとめ 15. 中間試験 16. 20世紀のメディア グローバル社会の始まり 17. 20世紀のメディア 映画の登場 18. 20世紀のメディア 映画の登場 19. 20世紀のメディア 電子メディアの展開 20. 20世紀のメディア メディアと国家 21. 20世紀のメディア メディアと国家2 22. 20世紀のメディア 大衆の時代のメディア文化 23. 20世紀のメディア 大衆の時代のメディア文化2 24. メディアと表現 メディアが表現になるとき 25. メディアと表現 メディアが表現になるとき2 26. メディアと表現 様々なメディア・アート 27. メディアと表現 メディアと身体 28. メディアと表現 メディアと身体 29. メディアと表現 メディアと身体 30. まとめ
準備学習(予習) 次の授業内容を教室で予告するので、それに従って予習を進めるのが望ましい。	教科書 プリントを配布する 教科書は指定しないが、参考文献としては吉見俊哉著『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための15話』（有斐閣アルマ）、佐藤卓己著『現代メディア史』（岩波テキストブックス）を挙げる。その他個別のテーマに応じた参考文献を授業中に提示する。
準備学習(復習) 授業中にプリントを配布するので、その内容やそこに載っている文献を参考に復習を行なって欲しい。	評価方法 (1)期末試験:30% (2)中間試験:30% (3)出席:20% (4)ミニツツレポート:20% 中間試験と期末試験が大きな判断基準となるが、その他出席も考慮する。また、授業後にミニツツレポートの提出を求める場合がある。

ヨーロッパ近現代史

担当者：和田 光司

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

(内容) この授業はもうひとつの「ヨーロッパ文明の形成」とセットで、ヨーロッパ史の大まかな流れを追いながら、各時代の基本的な事件、社会的特徴を解説する。ヨーロッパ中世と近世(5世紀から18世紀まで)は、もうひとつの「ヨーロッパ文明の形成」で私が講義する予定である。それに続く近代と現代(19、20世紀)を扱うのが、この「ヨーロッパ近現代史」である。理解の助けのため視聴覚教材も用いる。なお「ヨーロッパ文明の形成」を受講していなくても受講可能である。

2.学びの意義と目標

近現代のヨーロッパはまさに現代社会の揺籃の地である。この時代の歴史を学ぶことにより、市民社会の成り立ちや産業化、ファシズム、共産主義など、現代世界を構成している社会的・政治的・経済的・文化的諸要素について基礎的知識を獲得することを目的とする。

準備学習(予習)

次回の授業内容に関し、教科書に目を通し、要点を把握しておく。

準備学習(復習)

前回の授業内容をもう一度復習し、初回からの全体的な流れの中で再度把握し、各回の授業内容を総合的理解へと導く

授業計画

- 序論
- 18世紀の社会と文化
- アメリカ独立革命
- フランス革命
- フランス革命の原理
- ナポレオン
- 19世紀前半のヨーロッパ
- ロマン主義
- 産業革命
- 産業革命の影響
- 産業革命の影響(続)
- 産業革命の影響
- 19世紀後半の文化
- 帝国主義時代のヨーロッパ1
- 帝国主義時代のヨーロッパ2
- 世紀末文化
- 第一次世界大戦
- 大戦後の世界
- ロシア革命
- 大衆社会の成立
- 大恐慌とその文化的影響
- 全体主義の出現
- 第二次世界大戦1
- 第二次世界大戦2
- 冷戦下のヨーロッパ1
- 冷戦下のヨーロッパ2
- 冷戦の終結
- EU統合1
- EU統合2
- 予備

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)

評価方法

(1)平常点:40% (2)学期末レポート:60%

ヨーロッパ世界の形成

担当者：和田 光司

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

(内容) この授業は、もうひとつの「ヨーロッパ近現代史」とセットで、ヨーロッパ史の大まかな流れを追い、各時代の基本的な事件や社会的特徴を解説する。ヨーロッパ近代と現代(19・20世紀)については、「ヨーロッパ近現代史」で私が講義する。それに先立つ中世と近世(8-18世紀)を扱うのが、この「ヨーロッパ文明の形成」である。歴史の流れを順序を立てて追っていく。理解の助けのため視聴覚教材も用いる

2.学びの意義と目標

現代世界においてもなお重要な位置を占め続けるヨーロッパ文明の基本的特質について、基礎知識を提供する。

準備学習(予習)

次回の学習内容を教科書で確認し、要点を把握しておくこと。

準備学習(復習)

毎回、学習内容を個別のもので終わらせることなく、初回からの全体的な流れの中に位置づけ、歴史理解を総合的なものにしておくこと。

授業計画

1. ローマ帝国
2. ローマ帝国の分裂・ビザンツ文明
3. ヨーロッパ世界の成立
4. キリスト教世界
5. ヴァイキング、封建社会
6. 都市の勃興
7. 大学、十字軍
8. 中世後期の世界 1
9. 中世後期の世界 2
10. 大航海時代
11. ルネサンス
12. 宗教改革
13. スペインの覇権
14. イングランド
15. 反宗教改革
16. 宗教戦争
17. 絶対王政 1
18. 絶対王政 2
19. 科学革命
20. イギリス革命
21. 市民社会
22. プロイセン、ロシア
23. 啓蒙主義 1
24. 啓蒙主義 2
25. ロココ美術
26. 英仏植民地戦争 1
27. 英仏植民地戦争 2
28. 啓蒙専制主義
29. アメリカ独立
30. 総括

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)

評価方法

(1)平常点:40% (2)学期末レポート:60%

ヨーロッパ文化概論	
担当者：原 一子	
開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位	
講義概要 1.内容 ヨーロッパ文化は、ヘレニズム、ヘブライズム、ケルト・ゲルマン、ローマ帝国などの諸要素から成り立っている。そこでこれら要素についてまず理解を深め、更にヨーロッパ文化に大きな刺激を与えたイスラム教についても学ぶ。講義後半では、修道院、巡礼、都市生活、また『アーサー王物語』を初めとする伝説、民話、祭り、教会建築、ヨーロッパ人のメンタリティなどについても取り上げ、生きたヨーロッパ文化を基礎から学ぶことができるように講義を進める。	授業計画 1. ヨーロッパとは何か - ヨーロッパ文化を構成する諸要素 2. ヨーロッパ文化の歴史的形成 1 - 古代ギリシアの文化 1 3. ヨーロッパ文化の歴史的形成 2 - 古代ギリシアの文化 2 4. ヨーロッパ文化の歴史的形成 3 - 古代ギリシアの文化 3 5. ヨーロッパ文化の歴史的形成 4 - 古代ギリシアの文化 4 6. ヨーロッパ文化の歴史的形成 5 - ケルト・ゲルマンの文化 1 7. ヨーロッパ文化の歴史的形成 6 - ケルト・ゲルマンの文化 2 8. ヨーロッパ文化の歴史的形成 8 - ヘレニズム世界とローマ帝国 1 9. ヨーロッパ文化の歴史的形成 9 - ヘレニズム世界とローマ帝国 2 10. ヨーロッパ文化の歴史的形成 10 - ローマ帝国とその崩壊 11. ヨーロッパ文化の歴史的形成 11 - キリスト教の発展 12. ヨーロッパとアジアの出会い - イスラム教 13. 中世世界の形成 14. 修道院文化 15. 信仰への情熱 - 巡礼 16. ヨーロッパの教会建築 - ロマネスクとゴシック 17. 都市の生活と文化 18. 十字軍とルネサンス 19. ヨーロッパ文化の発展 - 宗教改革 20. ヨーロッパ文化の発展 - 合理精神の誕生 21. ヨーロッパ文化の発展 - ヒューマニズムと啓蒙思想 22. ヨーロッパ文化の諸相 - 民話・伝説に見られるヨーロッパ文化 23. ヨーロッパ文化の諸相 - アーサー王物語と騎士道精神 24. ヨーロッパ文化の諸相 - 祭り・風習に見られるヨーロッパ文化1 25. ヨーロッパ文化の諸相 - 祭り・風習に見られるヨーロッパ文化2 26. ヨーロッパ文化の諸相 - 絵画に見られるヨーロッパ文化 27. ヨーロッパ文化の諸相 - 罪の文化と恥の文化 28. ヨーロッパ人のメンタリティ 29. 現代ヨーロッパ文化 30. まとめ
2.学びの意義と目標 「アメリカ文化概論」と共に、ヨーロッパ文化の基礎を学ぶ選択必修科目である。ヨーロッパ文化の基礎となる諸要素について詳しく学ぶことによって、全体としてヨーロッパとは何かを理解することが本講義の目標である。	
準備学習(予習) 1. ヨーロッパ文化の背景にある歴史的知識を下調べし、整理できるようなサブノートを作成し、世界史の重要項目を自習する。 2. 配布された資料を前もって読み、コメントを書いた上で授業に臨む。	教科書 プリントを配布する
準備学習(復習) 授業に出てきた事項の歴史的背景や重要項目を一層詳しく調べる。	評価方法 (1)試験またはレポート:50% (2)出席:30% (3)学習態度:20% 期末の評価を、試験とレポートのいずれによって行うかは履修者数によって決定する。

歴史とグローバル世界 A

担当者：小田原 琳

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

現代社会に生きるうえで、「グローバリゼーション」という言葉を聞かない日はありません。しかし、グローバリゼーションとは実際のところなんなのでしょうか。私たちの暮らしにどのようにかわっているのでしょうか。この授業では、人やモノ、資本や情報が地球規模で行き交うようになった歴史と、人々への影響をたどります。毎回の授業で提出していただくレスポンスシート（講義内容の要約、疑問点等をまとめていただきます）、トピックごとの小テストおよび期末テストが課題となります。

2. 学びの意義と目標

高校世界史等で学んだ歴史上のさまざまなできごとを、グローバルな観点から見直し、国境を越えたつながりを意識した視点を身につけることを目標とします。それによって、現代社会のさまざまな問題を広い視野で考えることができるようになるでしょう。

準備学習(予習)

歴史のなかで関心のあるできごとや人物などに関連する本を読んで下さい。

準備学習(復習)

授業では教科書とプリントを併用します。講義内容を復習し、歴史の流れを意識しながら次の講義にのぞんでください。

授業計画

1. ガイダンス グローバルな世界を歴史のなかでよみとく
2. 古代地中海世界（１）ギリシャとローマ
3. 古代地中海世界（２）ふたつのヨーロッパ
4. 古代地中海世界（３）イスラームとキリスト教
5. 13世紀世界システム（１）イタリア商人たち
6. 13世紀世界システム（２）イスラーム商人たち
7. 13世紀世界システム（３）国際都市・中国
8. 大航海時代（１）ヨーロッパの大西洋・アジア進出
9. 大航海時代（２）主権国家の成立
10. 大航海時代（３）アジア世界の大航海時代
11. まとめ（１）
12. 近代世界システムの形成（１）産業革命
13. 近代世界システムの形成（２）植民地進出と世界市場
14. 近代世界システムの形成（３）欧米における政治体制の変化とその世界的拡大
15. 帝国主義の時代（１）力によって分割される世界
16. 帝国主義の時代（２）帝国主義の背景
17. 帝国主義の時代（３）帝国主義との闘い
18. 第一次世界大戦（１）帝国主義の衝突
19. 第一次世界大戦（２）戦争と革命
20. 第一次世界大戦（３）帝国主義戦争は終わったか
21. 第二次世界大戦（１）世界経済恐慌
22. 第二次世界大戦（２）帝国主義とアジア
23. 第二次世界大戦（３）大戦の経緯と終結
24. まとめ（２）
25. 冷戦（１）東西対立
26. 冷戦（２）第三世界
27. 冷戦（３）東西世界の社会と文化
28. 現在のグローバリゼーション（１）政治の多極化と経済の一体化
29. 現在のグローバリゼーション（２）開発と貧困
30. まとめ（３）

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)

評価方法

(1)平常点:20%:受講態度およびレスポンスシート (2)小テスト:40% (3)期末テスト:40%

担当者：和田 光司

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>現在はグローバリゼーションの時代と言われる。この講義ではヨーロッパ文明の源流であるオリエント文明から現在のヨーロッパ統合に至るまで、西洋文明の発展を各時代のグローバル化との関連から概観する。理解を深めるため、必要に応じて視聴覚教材を用いる。</p>	<div>授業計画</div> <div>1.序説</div> <div>2.メソポタミア文明</div> <div>3.古代帝国</div> <div>4.ギリシャ文明</div> <div>5.ローマ文明</div> <div>6.キリスト教</div> <div>7.中世世界の成立</div> <div>8.盛期中世</div> <div>9.中世後期の世界</div> <div>10.地理上の発見</div> <div>11.ルネサンス</div> <div>12.宗教改革</div> <div>13.反宗教改革</div>
<div>2.学びの意義と目標</div> <p>特にこれから4年間欧米文化を学んでいく一年生のために、グローバル世界を歴史の視点から読み解く能力、感覚を涵養する。また西洋文明についてのその基礎となる歴史的知識を与え、ヨーロッパ文明や歴史学全般に親しんでもらう。</p>	<div>14.絶対王政 1</div> <div>15.絶対王政 2</div> <div>16.イギリス革命</div> <div>17.アメリカ革命</div> <div>18.フランス革命</div> <div>19.産業革命</div> <div>20.社会主義</div> <div>21.帝国主義</div> <div>22.第一次世界大戦</div> <div>23.大恐慌とファシズム</div> <div>24.第二次世界大戦</div> <div>25.冷戦とヨーロッパ統合</div> <div>26.民族紛争 1</div> <div>27.民族紛争 2</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>次回の授業について教科書を確認しておくこと。</p>	<div>28.宗教紛争 1</div> <div>29.宗教紛争 2</div> <div>30.総括</div> <div>教科書</div> <p>成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>毎回の授業後内容を教科書で確認し、またテストに備えておくこと。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)平常点:20% (2)小テスト:40% (3)期末テスト:40%</p>

レポート作成法

担当者：和田 光司

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

入学前準備課題として、レポート課題を実際に作成しながら、大学生活に不可欠な学問的能力である文章・レポートの書き方を身につける科目です。レポートを書くとは具体的にどのようなことを意味しているのでしょうか。それは「書くことを通じて考える」ことであり、また書籍、文献、資料などを活用することにより、自己の興味・関心を客観的に位置づけ表現することです。履修者は個別指導を受けながら、欧米文化に関するさまざまなテーマを自分で設定し、実際にレポートを完成させます。

2.学びの意義と目標

大学生活を始めるにあたり必要なスキルであるレポートの書き方の基本を学ぶこと、そして欧米文化に対する漠然とした興味・関心を具体的な学びに結びつけることによって、意欲と目的意識を持って大学生活が始められるよう、準備することが本授業の目標です。

準備学習(予習)

通信添削を通して指示された様々な課題に取り組んでください。

準備学習(復習)

添削されて返却された課題を確認し、自分の課題の問題点を振り返るようにしてください。

授業計画

- 1. テーマの設定
- 2. テーマの設定
- 3. 目次・章立ての設定
- 4. 資料の検索のしかた
- 5. 資料の検索の実際
- 6. 文献の引用のしかた
- 7. 個別指導・添削指導 1
- 8. 個別指導・添削指導 2
- 9. 個別指導・添削指導 3
- 10. 個別指導・添削指導 4
- 11. 個別指導・添削指導 5
- 12. 個別指導・添削指導 6
- 13. 個別指導・添削指導 7
- 14. 個別指導・添削指導 8
- 15. レポートの評価

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:60% (2)平常点:40%:取組の準備に対する態度

Academic Listening & Speaking

担当者：K . O . アンダスン

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

This course is designed to provide students with opportunities to learn the necessary academic vocabulary and intermediate to advance level English listening and speaking skills that will serve as the foundation for further preparatory work as they prepare to study abroad in a university environment.

2.学びの意義と目標

The purpose of this course is to help students develop critical thinking and be able to formulate and discuss their views and ideas.

準備学習(予習)

Students should have homework done and be totally prepared for presentations and class discussions before the next class and should consult the teacher outside of class when they need help.

準備学習(復習)

Students should review what they have covered in class and take comments on their classwork under consideration in preparing for future classes.

授業計画

1. Course Introduction; TOEFL Listening; vocabulary building
2. word lists and learning strategies
3. focus on the family: marriage
4. focus on the family: marriage, cont.
5. focus on the family: home life
6. focus on the family: home life, continued
7. comparison of Japanese, American, etc., family life
8. groupthink: what is it?
9. groupthink: how does it affect family life?
10. groupthink: how does it affect family life?, continued
11. groupthink: how does it affect family life?, continued
12. cultural values: gender roles and education
13. cultural values: gender roles and education, cont.
14. cultural values: gender roles and education, cont.
15. cultural values: gender roles and education, cont.
16. midterm exam
17. gender issues in society: the world
18. gender issues in society: American society
19. gender issues in society: Japanese, etc. society
20. cultural change: why do cultures change?
21. cultural change: how do cultures change?
22. cultural change: is change positive or negative?
23. presentations
24. presentations
25. global issues: war and peace
26. global issues: war and peace
27. global issues: environmental concerns
28. global issues: environmental concerns, cont.
29. global issues: becoming "global citizens"
30. final exam

教科書

Kim Sanabria 『Academic Listening Encounters Life in Society Student Book』 (Cambridge University Press)

評価方法

(1)attendance:20% (2)class participation:15% (3)presentation:25%
(4)two exams:40%

College Reading Skills

担当者：M . サベット

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

This course focuses on preparing students to study overseas. Reading skills such as skimming, scanning, and searching for details are taught.

2.学びの意義と目標

*Develop strategies to improve reading speech, and the ability to understand complex academic texts

*Encourage students to adopt various approaches for dealing with new or unknown vocabulary

*Explore and evaluate research techniques and resources, and credit sources of information

*Promote learner independence

授業計画

1. Grading policy and introduction to the course
2. Effective reading: survey; skim, scan
3. Effective reading: increasing your reading speed
4. Predicting content
5. Identifying topic sentences
6. Avoiding plagiarism; rephrasing
7. Paragraph purpose
8. Text Cohesion
9. Finding information from more than one source
10. Identifying language for rephrasing
11. Identifying language for rephrasing
12. Distinguishing between facts and speculation
13. Identifying a point of view
14. Mid-term review and consolidation
15. Mid-term evaluation
16. Dealing with longer texts: survey; question; read
17. Dealing with longer texts: recall; review
18. Review of the lesson
19. How to make reading easier; dealing with unknown words
20. How to make reading easier; dealing with complex sentences
21. How to make reading easier; understanding pronouns
22. Making notes; methods of recording what you read
23. Making notes; methods of recording what you read
24. Understanding visual information
25. Interpreting data
26. Review of the lesson
27. Dealing with longer texts; predict, skim, select
28. Dealing with longer texts; read, make notes, check, & recall
29. Final-term review and consolidation
30. Final-term evaluation

教科書

Philpot & Curnick 『Headway Academic Skills: 3: Reading, Writing, and Study Skills Student's Book 』 (Oxford University Press)

準備学習(復習)

Students are required to read their reading assignment before the next class.

評価方法

(1)attendance:20% (2)Homework:20% (3)Participation:10%
(4)Quizzes:30% (5)Final test:20%

College Writing Skills

担当者：K . O . アンダスン

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1. 内容:この授業では英語論文を書くために必要な技能を修得する。段落の組み立て方、文章のまとめ方、時間的順位、原因と結果、比較と対象などを論文中にどのように用いまとめ、立証的な論文を作成するかを学ぶ。また他人の文章、考えの盗用の危険性を強調し、MLA Handbook for Writers of Research Paper, Sixth Editionを用い研究方法、出典文献の用い方なども身につける。

2. カリキュラム上の位置づけ:海外で学ぶこと、英語論文を書くことを計画している学生対象。注) TOEFL換算スコア380点以上の学生対象

3. 学びの意義と目標:自身の考えをまとめ調査・研究し論理的な論文の書き方を学び、将来に役立てる。

2.学びの意義と目標

The purpose of this class is to help student improve their writing skills through learning how to brainstorm and organize their ideas; better understand writing structure in English and practice writing on assigned themes; improve essays through self-editing, peer review and consultations with the teacher; and learning how to use and cite sources as specified by the MLA Handbook. The ultimate goal of this class is to raise students' writing ability enough to gain higher scores on tests of English needed for studying overseas.

準備学習(予習)

予習を必ず行い、宿題は必ず締め切り厳守で提出する。遅刻をせず毎回の授業への出席を心がける。

準備学習(復習)

Students should read the teachers' comments on their work carefully, understand them, and be able to discuss the ideas in their completed ideas.

授業計画

1. types of sentences
2. types of sentences, continued
3. types of sentences, continued
4. from paragraph to essay
5. from paragraph to essay, continued
6. from paragraph to essay, continued
7. chronological order: process essays
8. process essays, continued
9. process essays, continued
10. process essays, continued
11. process essays, continued
12. cause and effect essays
13. cause and effect essays, continued
14. cause and effect essays, continued
15. cause and effect essays, continued
16. cause and effect essays, continued
17. comparison/contrast essays
18. comparison/contrast essays continued
19. comparison/contrast essays, continued
20. comparison/contrast essays, continued
21. comparison/contrast essays, continued
22. paraphrase and summary
23. paraphrase and summary, continued
24. paraphrase and summary, continued
25. paraphrase and summary, continued
26. argumentative essays
27. argumentative essays, continued
28. argumentative essays, continued
29. argumentative essays, continued
30. review for the final exam

教科書

Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』(Pearson/Longman 2006)

評価方法

(1)attendance:10% (2)homework:30% (3)quizzes :30% (4)final exam :30%

Intercultural Communication

担当者：E . D . オズバーン

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

1. Content – This course introduces the fundamental principles of intercultural communication through the integration of concepts from the fields of social psychology, cultural anthropology, and communication theory. Particular emphasis is placed upon comparative culture, with the focus being upon Japan and America and the role that culture plays in the communication process between individuals from these two dynamic, yet very different, countries.

2. Role in the Curriculum – The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students who are highly motivated.

2.学びの意義と目標

Learning Objectives – The primary objectives are to familiarize students with the cultural influences on communication between Japanese and Americans and to apply the principles learned to the students' lives.

準備学習(予習)

• Students are expected to complete the weekly textbook reading assignments and be prepared to discuss the contents in each class.

準備学習(復習)

• After each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.

授業計画

1. Course Introduction & Overview: What is culture?
2. Culture Variance: How do cultures differ?
3. Dimensions of Culture: Adler, Hofstede I
4. Dimensions of Culture: Adler, Hofstede II
5. Dimensions of Culture: Trompenaars & Hall
6. Dimensions of Culture: The GLOBE Study I
7. Dimensions of Culture: The GLOBE Study II
8. Cultural Values & Attitudes: Rokeach & Inglehart
9. Subcultures
10. Comparison of National Cultural Groups
11. Comparison of Japanese & American Culture I
12. Comparison of Japanese & American Culture II
13. Comparison of Japanese & American Culture III
14. MIDTERM EXAM
15. Culture & Perception
16. Culture & Language I
17. Culture & Language II
18. Cultural Code Words: Japanese I
19. Cultural Code Words: Japanese II
20. Intercultural Communication Theories
21. Cultural Differences in Communication
22. Culture & Nonverbal Communication I
23. Culture & Nonverbal Communication II
24. Cultural Biases
25. Culture Shock I
26. Culture Shock II
27. Intercultural Competence I
28. Intercultural Competence II/INTEGRATION PAPER DUE
29. Japanese & Americans Working Together
30. FINAL EXAM

教科書

Jandt, Fred E. ⁷ An Introduction to Intercultural Communication (7th ed.)_a (SAGE Publications, Inc.)

評価方法

(1)attendance :15% (2)reading assignments :20% (3)term paper :35%
(4)exams :30%

担当者：D . バーガー

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

In this course we will explore three broad areas of language use in society: 1) how accent, dialect, and multilingualism, including language decline and revitalization, reflect and help form personal and group identity and how linguistic prejudice negatively affects all of these; 2) how human relations are expressed through honorific and polite language; and 3) how non-discriminatory language reform illustrates the relationship between language change and social change.

2.学びの意義と目標

The purpose of this class is to help students gain a better understanding of how we use language to interact with others, to both uplift and degrade individuals and groups in society, and how language helps form our identity.

準備学習(予習)

ディスカッションに積極的に参加するために、プリントを事前に読むこと。

準備学習(復習)

授業中にノートを取り、小テストのためにノートとプリントを復習すること。

授業計画

1. Course Introduction; Misconceptions about Language
2. Linguistic Prejudice and Linguistic Inequality
3. Linguistic Prejudice and Linguistic Inequality
4. National, Official, Standard, and Common Language
5. Dialect, Accent, Speech Style and Register
6. Bi/Multilingualism; Diglossia
7. Multilingual Japan (Ryukyuan, Ainu, hogen)
8. Endangered Languages and Language Revitalization
9. Ainu and Ryukyuan
10. Hawaiian and American Indian Languages
11. Hawaiian and American Indian Languages
12. Polite Language (1): Differing Views of “ Politeness ”
13. Polite Language (2): Speech Acts
14. Polite Language (3): Theories of Politeness I
15. Polite Language (4): Theories of Politeness II
16. Polite Language (5): Theories of Politeness III
17. Polite Language (6): Honorific Language
18. Polite Language (7): Japanese and Other Languages
19. Polite Language (8): The Speech Act of Apology
20. Polite Language (9): Japanese and English Apology
21. Discriminatory Language (1): Language Change
22. Discriminatory Language (2): American English
23. Discriminatory Language (3): Japanese
24. Discriminatory Language (4): NHK Guidelines
25. Discriminatory Language (5): University Guidelines
26. Discriminatory Language (6): Inclusive Language
27. Discriminatory Language (7): Sexist Language
28. Discriminatory Language (8): Nonsexist Language Reform
29. Discriminatory Language (9): Nonsexist Language Reform
30. Review

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)attendance :10%:授業への出席 (2)class participation:15%:授業での参加態度 (3)quizzes:20%:小テスト (4)term paper :25%:学期末レポート(英語) (5)final exam :30%:期末試験

Speech & Debate A

担当者：M. サベット

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

This course focuses on writing and giving speech. Skills such as how to start and end a speech are taught. Students will be given many opportunities to give speeches in front of their classmates.

2. 学びの意義と目標

- (1) (全般) 聴衆の前でのスピーキング・スキルを上達させる。
- (2) (言語) 英語で自分の考えを表現できる能力を上達させる。
- (3) (文化) 英語と日本語におけるスピーキングの違いの理解を深める。

準備学習(予習)

Giving a speech requires preparation and students must write the main body of their speech before coming to class.

準備学習(復習)

Students are required to prepare for their speeches and come to class prepared.

授業計画

1. Class Introduction; Part I: The Physical Message
2. Class Introduction; Part I: The Physical Message
3. Informative Speech; Gestures
4. Informative Speech; Gestures
5. Speech #1
6. Layout Speech; Voice Inflection
7. Layout Speech; Voice Inflection
8. Demonstration Speech
9. Demonstration Speech
10. PartII: The Story Message; The Introduction
11. PartII: The Story Message; The Introduction
12. Speech #2
13. Persuasive Speech (Introduction)
14. Persuasive Speech (Introduction)
15. The Body; Transitions and Sequencers
16. The Body; Transitions and Sequencers
17. Persuasive Speech (Body)
18. Persuasive Speech (Body)
19. The Conclusion; Persuasive Speech
20. The Conclusion; Persuasive Speech
21. Speech #3
22. PartIII: The Visual Message
23. PartIII: The Visual Message
24. Making Visual Aids; Explaining Visual Aids
25. Making Visual Aids; Explaining Visual Aids
26. Part IV: Preparation for full presentation
27. Part IV: Preparation for full presentation
28. Part IV: Preparation for full presentation
29. Part IV: Preparation for full presentation
30. Final Speech

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)attendance:20% (2)mini speeches:60% (3)final speech:20%

Speech & Debate B

担当者：M. サベット

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

Speech & Debate B focuses on debating skills in English. Students start with simple debates and then slowly move to more difficult topics.

授業計画

1. Class Introduction; opinions
2. Class Introduction; opinions
3. Agreeing and Disagreeing
4. Agreeing and Disagreeing
5. Explaining Your Opinion
6. Explaining Your Opinion
7. Preparation for debate #1
8. Debate #1
9. Supporting Your Opinion
10. Supporting Your Opinion
11. Organizing Your Opinion
12. Organizing Your Opinion
13. The “ 1 AC ”
14. Preparation for debate #2
15. Debate #2
16. Refuting Explanations
17. Refuting Explanations
18. Tennis Debate
19. Tennis Debate
20. Challenging Supports
21. Preparation for Debate #3
22. Debate #3
23. Organizing Your Refutation: the “ 1 NC ”
24. Organizing Your Refutation: the “ 1 NC ”
25. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches
26. Debating an Opinion: Rebuttal Speeches
27. Preparation for formal debate during test week
28. Preparation for formal debate during test week
29. Preparation for formal debate during test week
30. Final Debate

準備学習(予習)

Students are required to do research and collect data before each debate. Must work as a team and contribute to their group.

教科書

プリントを配布する

準備学習(復習)

Students must search for data and information in order to be ready for next debate.

評価方法

(1)Attendance:20% (2)Participation:40% (3)Preparation:20% (4)Final Debate:20%

担当者：中村 香代子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

TOEFL Testの対策講座です。大変難易度の高いiBT Test受験に向け、ITP形式問題の練習から始めて徐々に力をつけていきます。中でも分量の多いReading・Listeningセクションに重点を置き、正確に解答するための練習を重ねながら、iBTのWritingにも対応できる確かな文法力習得を目指します。また多岐に亘るアカデミック英語を理解するため、語彙力を伸ばす訓練も試みます。

2.学びの意義と目標

高難度のTOEFL iBTの導入として短めのListeningやReading演習を繰り返し、クラス終了時にはTOEFL ITPで高得点を得られるだけのスピードと内容理解力アップを目指します。また総合的な英語力向上も目指します。

準備学習(予習)

文法演習に備えて今までの知識を再確認し、よくわかっていない点などを授業で質問できるよう整理しておくこと。

準備学習(復習)

語彙の復習を毎回きちんとすること。また授業中に行った演習問題中の知らない語彙や表現も拾い出して整理、復習すること。文法プリントは授業後すぐに復習し、不明な点をなくしておくように。

授業計画

1. オリエンテーション、Placement Test
2. Voc.1 - Listening、5 文型、Reading 1
3. Voc.1 - Reading、他動詞と自動詞、Listening 1
4. Voc.2 - Listening、知覚・使役動詞、Reading 2
5. Voc.2 - Reading、時制、Listening 2
6. Voc.3 - Listening、時制、Reading 3
7. Voc.3 - Reading、受動態・能動態、Listening 3
8. Voc.4 - Listening、不定詞・動名詞・分詞、Reading 4
9. Voc.4 - Reading、不定詞・動名詞・分詞、Listening 4
10. Voc.5 - Listening、助動詞、Writing 1
11. TOEFL ITP 模試 1 回、答え合わせと解説
12. Voc.5 - Reading、助動詞、Reading 5
13. Voc. 6 - Listening、不定詞、Listening 5
14. Voc. 6 - Reading、iBT Reading 問題に挑戦
15. iBT Listening & Reading 問題に挑戦
16. Voc. 7 - Listening、不定詞、Listening 6
17. Voc. 7 - Reading、動名詞、Reading 6
18. TOEFL ITP 模試 2 回、答え合わせと解説
19. Voc. 8 - Listening、動名詞、Listening 7
20. Voc. 8 - Reading、分詞、Reading 7
21. Voc. 9 - Listening、分詞、Listening 8
22. Voc. 9 - Reading、分詞、Reading 8
23. Voc. 10 - Listening、名詞、Listening 9
24. Voc. 10 - Reading、名詞、Reading 9
25. Voc. 11 - Listening、代名詞、Listening 10
26. Voc. 11 - Reading、代名詞、Reading 10
27. Voc. 12 - Listening、Speaking
28. Writing 2
29. Voc. 12 - Reading、iBT Reading 問題に挑戦
30. 今学期のまとめと確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業参加:20% (2)単語テスト:40% (3)定期試験:40%

担当者：中村 香代子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

TOEFL iBT Testの対策講座です。難易度が高いiBT Testで少しでも得点を伸ばすために、Listening・Reading・Speaking・Writingの各分野の特徴をつかみ、中でも分量の多いReading・Listeningセクションに重点を置き、正確に解答するための練習を重ねます。また多岐に亘るアカデミック英語を理解するため、語彙力を伸ばす訓練も試みます。

2.学びの意義と目標

最終目標として難易度の高いTOEFL iBT に対応できるスピードと内容理解力を目指します。また総合的な英語力向上も目指します。

準備学習(予習)

毎回取り組むpassage writingの課題をあらかじめ考えて書いてみることを。

準備学習(復習)

語彙の復習を毎回きちんとすること。また授業中に行った演習問題中の知らない語彙や表現も拾い出して整理、復習すること。

授業計画

1. オリエンテーション、Placement Test
2. Voc. 1 - Listening、Passage Writing、Reading 1
3. Voc. 1 - Reading、Passage Writing、Listening 1 & 2
4. Voc. 3 - Listening、Passage Writing、Reading 2
5. Voc. 3 - Reading、Passage Writing、Listening 3 & 4
6. TOEFL iBT 模試、答え合わせと解説
7. Voc. 5 - Listening、Passage Writing、Reading 3
8. Voc. 5 - Reading、Passage Writing、Listening 5 & 6
9. Voc. 6 - Listening、Passage Writing、Reading 4
10. Voc. 6 - Reading、Passage Writing、Listening 7
11. Voc. 7 - Listening、Passage Writing、Writing
12. Voc. 7 - Reading、TOEFL iBT 模試、答え合わせと解説
13. Voc. 9 - Listening、Passage Writing、Reading 5
14. Voc. 9 - Reading、Passage Writing、Listening 8
15. 単語テスト、Reading 演習問題
16. Voc. 11 - Listening、Passage Writing、Listening 9
17. Voc. 11 - Reading、Passage Writing、Reading 6
18. TOEFL iBT 模試、答え合わせと解説
19. Voc. 14 - Listening、Passage Writing、Listening 10
20. Voc. 14 - Reading、Passage Writing、Reading 7
21. Voc. 18 - Listening、Passage Writing、Listening 11
22. Voc. 18 - Reading、Passage Writing、Reading 8
23. Voc. 19 - Listening、Passage Writing、Listening 12
24. Voc. 19 - Reading、Passage Writing、Reading 9
25. Voc. 20 - Listening、Passage Writing、Listening 13
26. TOEFL iBT 模試、答え合わせと解説
27. Voc. 20 - Reading、Passage Writing、Reading 10
28. Voc. 29 - Listening、Passage Writing、Listening 14
29. Voc. 29 - Reading、Passage Writing、Speaking
30. 今学期のまとめと確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業参加 :20% (2)練習模試結果:30% (3)定期試験:50%

TOEIC(初級) A

担当者：行森 まさみ

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

TOEIC 400点～500点をを目指す学生を対象とし、TOEICのテスト形式に慣れ、英語の基礎力を育成することを目的とする。リスニングセクションの速さと量に対応するため、毎回リスニング演習を行い、詳細の聞き取り、および大意把握の練習を重ねる。また、頻出単語や基本文法の演習を行うことによって、リーディングセクションへの対応を図る。

2.学びの意義と目標

客観的な英語力を測定するTOEICが、就職時や社会人になってからも重要視されることがあるのは言うまでもないが、テストの分量や形式に不慣れな受験者には難易度が高い。本授業では既知の英語の知識を復習しながら、TOEICに対応できる英語力を培うことを目標とする。また、ビジネスシーンにおいて必要とされる英語にも慣れ親しみ、テストのみならず社会に出てからも活用できる実践的英語力育成を目指す。

準備学習(予習)

テキスト巻末のリスニング課題を提出

準備学習(復習)

テキストの各Unit終了後、単語リストの復習

授業計画

1. オリエンテーション、TOEICについて
2. Unit 1 Daily Life
3. Unit 1 Daily Life
4. Unit 2 Places
5. Unit 2 Places
6. Unit 3 People
7. Unit 3 People
8. Unit 4 Travel
9. Unit 4 Travel
10. Unit 5 Business
11. Unit 5 Business
12. Unit 6 Office
13. Unit 6 Office
14. 模擬テスト（１）
15. 模擬テスト（１）の復習
16. Unit 7 Technology
17. Unit 7 Technology
18. Unit 8 Personnel
19. Unit 8 Personnel
20. Unit 9 Management
21. Unit 9 Management
22. 模擬テスト（２）
23. 模擬テスト（２）の復習
24. Unit 10 Purchasing
25. Unit 10 Purchasing
26. Unit 11 Finances
27. Unit 11 Finances
28. Unit 12 Media
29. Unit 12 Media
30. まとめ模擬テスト

教科書

水本篤・Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST 1 (Second Edition) レベル別TOEICテスト総合トレーニング1（第2版）』（ピアソン桐原）

評価方法

- (1)出席・授業参加:30% (2)語彙・リスニング課題:30%
(3)模擬テスト（2回）:20% (4)まとめ模擬テスト:20%

TOEIC(初級) B

担当者：櫻井 智美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

TOEICとはTest of English for International Communicationの略称で、ビジネスシーンで必要とされる英語運用能力を証明するために利用されることが多い。

TOEICには興味があるが、どう勉強を始めたらいいいかわからない学生や、受験したことはあるがスコアアップを図りたい学生を対象とし、TOEICを受験するために必要な知識やテクニックを頻出されるテーマごとに学習する。

また、TOEICの学習と共に、基礎的な英会話能力の向上も目指す。

授業計画

- オリエンテーション・模擬テスト
- 交通と情報案内 1：リスニング演習問題
- 交通と情報案内 2：リーディング演習問題
- 指示と説明 1：リスニング演習問題
- 指示と説明 2：リーディング演習問題
- 飲食 1：リスニング演習問題
- 飲食 2：リーディング演習問題
- ビジネス 1：リスニング演習問題
- ビジネス 2：リーディング演習問題
- 通信・コミュニケーション 1：リスニング演習問題
- 通信・コミュニケーション 2：リーディング演習問題
- 社交 1：リスニング演習問題
- 社交 2：リーディング演習問題
- 復習・試験対策
- 中間試験
- 復習
- 招待・案内 1：リスニング演習問題
- 招待・案内 2：リーディング演習問題
- 医療・保険 1：リスニング演習問題
- 医療・保険 2：リーディング演習問題
- 文化・娯楽 1：リスニング演習問題
- 文化・娯楽 2：リーディング演習問題
- 買い物 1：リスニング演習問題
- 買い物 2：リーディング演習問題
- 運動・フィットネス 1：リスニング演習問題
- 運動・フィットネス 2：リーディング演習問題
- トラブル・申請 1：リスニング演習問題
- トラブル・申請 2：リーディング演習問題
- 総復習・試験対策
- 期末試験

準備学習(予習)

授業で次の予告をするので、予告された部分に目を通すこと。

準備学習(復習)

単語のクイズを行うので、授業で学んだ単語や熟語を復習すること。

教科書

北山 長貴, Bill Benfield 『TOEICテストへのファーストステップ』(成美堂)

評価方法

(1)授業への出席・参加:30% (2)単語クイズ:30% (3)中間試験:20% (4)期末試験:20%

TOEIC(中級) A

担当者：中村 香代子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>TOEICテストはリスニング4パート・リーディング3パートからなり、正確な英語知識と素早い判断力が要求されますが、パターンに習熟し不得意分野を訓練することで得点アップが可能です。この授業では文法力と語彙力を高めながら、実際のTOEICテストで得点を伸ばすための練習を重ねて行きます。またテストに出やすい語彙を含んだリスニング・リーディング練習にも多く挑戦します。</p>	<div>授業計画</div> <div>1.オリエンテーション、TOEIC Mini Test と解説</div> <div>2. 5 文型・動詞 説明、Chap 1 Listening、単語、Part 1 練習</div> <div>3. 5 文型・動詞 演習、Chap 1 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>4. 5 文型・動詞 演習、Chap 2 Listening、単語、Part 1 練習</div> <div>5. 5 文型・動詞 演習、Chap 2 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>6. 名詞・代名詞 説明、Chap 3 Listening、単語、Part 6 練習</div> <div>7. 名詞・代名詞 演習、Chap 3 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>8. 名詞・代名詞 演習、Chap 4 Listening、単語、Part 1 練習</div> <div>9. 名詞・代名詞 演習、Chap 4 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>10. 接続詞・前置詞 説明、Chap 5 Listening、単語、Part 6 練習</div> <div>11. 接続詞・前置詞 演習、Chap 5 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>12. 接続詞・前置詞 演習、Chap 6 Listening、単語、Part 2 練習</div> <div>13. 接続詞・前置詞 演習、Chap 6 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>14. Total Strategy Half Test、答え合わせと解説</div> <div>15. 単語復習、いままでの復習試験と解説</div> <div>16. 不定詞・動名詞 説明、Chap 7 Listening、単語、Part 2 練習</div> <div>17. 不定詞・動名詞 演習、Chap 7 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>18. 不定詞・動名詞 演習、Chap 8 Listening、単語、Part 2 練習</div> <div>19. 不定詞・動名詞 演習、Chap 8 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>20. 分詞・分詞構文 説明、Chap 9 Listening、単語、Part 3 練習</div> <div>21. 分詞・分詞構文 演習、Chap 9 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>22. 分詞・分詞構文 演習、Chap 10 Listening、単語、Part 3 練習</div> <div>23. 分詞・分詞構文 演習、Chap 10 Reading、単語、Part 5 練習</div> <div>24. 受動態 説明と演習、Chap 11 Listening、単語、Part 7 練習</div> <div>25. 英作文演習 、Chap 11 Reading、単語、Part 3 練習</div> <div>26. 英作文演習 、Chap 12、単語、Part 3 練習</div> <div>27. Double Passage 演習、Chap 13</div> <div>28. TOEIC 模試 (Part 1 - Part 5) と解説</div> <div>29. TOEIC 模試 (Part 6 -Part 7) と解説</div> <div>30. 今学期のまとめと確認</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>小テストに向けて文法問題プリントを見直し、勉強しておくこと。また復習してもわからなかった所を見つけ出し、次回の授業で質問できるよう整理しておくこと。</p>	<div>教科書</div> <p>石井隆之、山口修、馬渡秀孝、松村優子、Thomas Koch 『Total Strategy for the TOEIC Test』(成美堂)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で学習した文法問題をきちんと復習し、解き方を理解する。単語プリントのみでなく、演習問題中の知らなかった単語や熟語を整理して習得する。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)授業態度:10% (2)小テスト:20% (3)単語テスト:30% (4)定期試験:40%</p>

<div>講義概要</div> <div>1.内容</div> <p>TOEICテストはリスニング4パート・リーディング3パートからなり、正確な英語知識と素早い判断力が要求されますが、パターンに習熟し不得意分野を訓練することで得点アップが可能です。この授業では文法力と語彙力を高めながら、実際のTOEICテストで得点を伸ばすための練習を重ねて行きます。またテストに出やすい語彙を含んだリスニング・リーディング練習にも多く挑戦します。</p>	<div>授業計画</div> <div>1.オリエンテーション、TOEIC 1/4 Test と解説</div> <div>2.形容詞・副詞 説明、Chap 1 Listening、単語、Part 4 練習</div> <div>3.形容詞・副詞 演習、Chap 1 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>4.形容詞・副詞 演習、Chap 2 Listening、単語、Part 4 練習</div> <div>5.形容詞・副詞 演習、Chap 2 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>6.時制・助動詞 説明、Chap 3 Listening、単語、Part 6 練習</div> <div>7.時制・助動詞 演習、Chap 3 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>8.時制・助動詞 演習、Chap 4 Listening、単語、Part 4 練習</div> <div>9.時制・助動詞 演習、Chap 4 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>10.関係詞 説明、Chap 5 Listening、単語、Part 6 練習</div> <div>11.関係詞 演習、Chap 5 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>12.関係詞 演習、Chap 6 Listening、単語、Part 5 練習</div> <div>13.関係詞 演習、Chap 6 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>14. Complete Tactics Half Test、答え合わせと解説</div> <div>15.単語復習、いままでの復習試験と解説</div> <div>16.仮定法 説明、Chap 7 Listening、単語、Part 5 練習</div> <div>17.仮定法 演習、Chap 7 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>18.仮定法 演習、Chap 8 Listening、単語、Part 5 練習</div> <div>19.仮定法 演習、Chap 8 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>20.疑問詞 説明と演習、Chap 9 Listening、単語、Part 6 練習</div> <div>21.文法重要項目演習、Chap 9 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>22.文法重要項目演習、Chap 10 Listening、単語、Part 6 練習</div> <div>23.文法重要項目演習、Chap 10 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>24.英作文演習 、Chap 11 Listening、単語、Part 6 練習</div> <div>25.英作文演習 、Chap 11 Reading、単語、Part 7 練習</div> <div>26.英作文演習 、Chap 12、単語</div> <div>27. Double Passage 演習、Chap 13</div> <div>28. TOEIC 模試 (Part 1 - Part 5) と解説</div> <div>29. TOEIC 模試 (Part 6 - Part 7) と解説</div> <div>30. 今学期のまとめと確認</div>
<div>準備学習(予習)</div> <p>小テストに向けて文法問題プリントを見直し、勉強しておくこと。また復習してもわからなかった所を見つけ出し、次回の授業で質問できるよう整理しておくこと。</p>	<div>教科書</div> <p>石井隆之、山口修、馬渡秀孝、John Eidswick、Thomas Koch 『Complete Tactics for the TOEIC Test』(成美堂)</p>
<div>準備学習(復習)</div> <p>授業で学習した文法問題をきちんと復習し、解き方を理解する。単語プリントのみでなく、演習問題中の知らなかった単語や熟語を整理して習得する。</p>	<div>評価方法</div> <p>(1)授業態度:10% (2)小テスト:20% (3)単語テスト:30% (4)定期試験:40%</p>